建築と社會

新興建築

第十六輯
第六號

日本建築協會

昭和八年
六月一日



日米特許一二個・實用新案登録四六個併用

大野式防火捲上ケ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター

大野式ルーブルシヤッター

大野式工場用軸承

大野式轉子入軸筐

大野式轉子入戸車

大野式廻轉軸抵抗測定機

各種防火扉

日英米佛特許三一個・實用新案五九個併用

特許不二サッシ

受托營業

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田國國町二番地・電話三田(45)三七三七 同三七三八

取付出張員駐所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(6)五八八

大阪市の「シビック・センター」計畫理想案懸賞募集

趣旨

大阪市は我國商工業の中心として最近その發展特に著しきものあり諸般の施設亦漸く大都市の面目を備へつゝありと雖も都市構築の上より見れば遺憾の點尠なからず殊に都市の中心をなすべき適當なる「シビック・センター」なく且天惠の河岸の利用せらるゝこと亦甚だ少きは世人周知の事實なり。輓近當局に於ても大阪驛改築に伴ひ大阪驛附近一部の整理を實施せられつゝあるも近代的大都市各般の要求に應ぜんが爲には更に進んでより廣汎に亘る大計畫を樹立する必要あり。

本協會は此趣旨に基き左の區域を指定し大阪市の「シビック・センター」の理想的計畫案を募集し以て市民の注意を喚起せんとす」

大阪市ノ「シビック・センター」計畫理想案懸賞募集規程

1, 指定地概要

御堂筋、南北線ノ二大街路ニ挾マレタル地區ニシテ大阪驛以南土佐堀川南岸ヲ含ム樞要ノ地帶（附圖參照）

2, 應募設計要件

驛前廣場ハ諸般ノ交通ヲ圓滑ナラシムベク留意シ驛前ニハ適切ナル建築物ヲ配置シ中之島ニハ將來實現セラルベキ想定都廳舍ヲ中心トセル公共諸建築物並ニ遊歩場、廣場等ノ自由空地及道路ヲ配スベシ。

3, 所要圖書

（イ）主要建築物、道路、廣場等ノ配置圖　縮尺 1000分ノ1
（ロ）鳥瞰圖
（ハ）說明書

4, 入選者ノ等級並ニ賞與

1等	（金牌）	副賞 300圓	1名
2等	（銀牌）	副賞 100圓	1名
3等	（靑銅牌）	副賞 50圓	1名
佳作	（褒狀）		若干名

5, 締切期日

昭和8年9月30日正午

6, 當選者發表

審査ノ結果ハ雜誌「建築と社會」昭和8年11月號ニ發表ス

7, 審査員

日本建築協會副會長　池田　賓氏
日本建築協會會長工學博士　片岡　安氏
阪神急行電鐵株式會社社長　小林　一三氏
工學博士　武田　五一氏
京都帝國大學敎授　武居高四郎氏
工學博士　直木倫太郎氏
阪神電氣鐵道株式會社社長　堀　啓次郎氏
大阪鐵道局長　前田　穰氏
日本建築協會監事　松室　重光氏
（五十音順）

8, 應募者心得

（イ）配置圖、鳥瞰圖共用紙仕上等凡テ應募者ノ自由トス
說明書ハ半紙大罫紙ヲ用ヒ計畫ノ概要ヲ簡單ニ說明スベシ。

（ロ）各圖面ニハ暗號（文字ニ限ル）ヲ附シ別ニ暗號並ニ住所氏名職業（勤務先共）ヲ記セル紙片ヲ密封シ、封書ノ表面ニ前記暗號ヲ記シタルモノヲ添附スベシ。

（ハ）審査ノ結果ニ對シ說明ヲ求メ、又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

（ニ）當選圖案ニ關スル一切ノ權利ハ本協會ニ歸屬スルモノトス。

（ホ）應募圖案發送先

大阪市北區中之島三ノ三朝日ビル四〇五
日本建築協會內「シビック・センター」
計畫案懸賞係宛

昭和8年6月

社團法人 **日本建築協會**

（注意裏面の附圖參照のこと）

大阪市「シビックセンター」想定地域圖



會　　告

1　大阪市の「シビツク・センター」計畫理想案懸賞募集

大阪市は我國商工業の中心であるが近代的大都市としての各般の工作には更らに進んで廣汎に亘る大計畫を樹立する必要あるがため標題の如き理想案を別項規定の通り募集する、本協會員諸君の多數なる應募を希望す。

2　阪和上野芝住宅博覽會開場

本會創立滿十五年記念事業の一つである本博覽會は去月15日開場、同28日盛大なる開場式を擧げた。出品住宅は計21軒、同會期は6月15日迄、場所は阪和電車上野芝驛下車西方四丁、

3　本會編纂の二單行本出版

A. 市街地建築物法令

菊半截、クロース表紙、本綴の堅牢にして輕快、携帯に至便のものである本書は豫定より頁數を增したが定價はそのまゝ一冊50錢送料は6錢（豫告4錢訂正）となつた。

B. 大阪市地質調査圖表

これは第二次の記念出版であるが本書出版にあたりては多大の犧牲を拂つたものである。土木建築に關係ある者の左右へ常備すべきものであらう、定價は一冊3.50錢　送料14錢である。（豫告送料12錢は14錢と訂正）

昭　和　8　年　6　月

社團法人　**日本建築協會**

建築と社會

第16輯第6號　昭和8年6月發行

新興建築

目　次

ブルノ・タウト作品集（寫眞）……（1）
新興建築集（寫眞）……（10）

新興建築講演會……（23）
開會の辭……竹腰健造（23）
映畫「現代フランス建築」の解說……中西六郎（25）
日本に歸れ……中尾保（30）
神話より空想へ……瀧澤眞弓（35）
日本に於ける折衷主義建築の功禍……村野藤吾（44）
日本建築と西洋建築との關係に就ての第一印象……ブルノ・タウト（49）
ブルノ・タウト氏紹介……（52）
閉會の辭……池田寶（53）
歐洲の新興建築概說……岡田孝男（54）

ソウエート・ロシヤの都市計畫と建築……藤田進一郎（66）
小住宅のプランの研究（2）……岡田孝男（71）
新興建築展覽會後記……（89）
西部日本の見學旅行……（92）
九州見學外記……（95）
衛生陶器の製造行程……坪井禮三（96）
櫻花爛漫の吉野山行……（98）

大阪市の「シビツク・センター」計畫理想案懸賞募集の趣旨に敷衍して……加藤善吉（99）

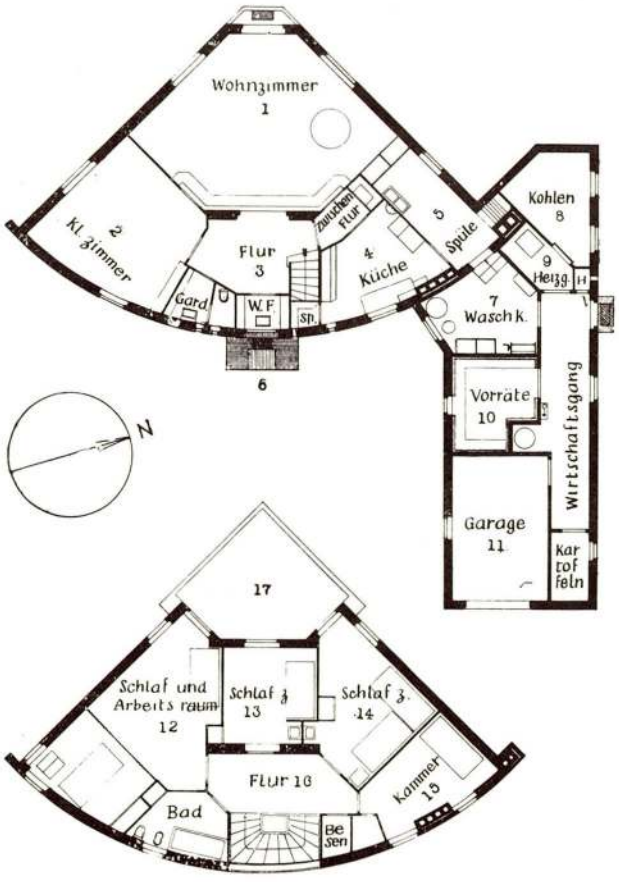
會報……（103）



目下來朝中の獨逸建築家　ブルノ・タウト氏夫妻　（昭和八年五月六日大阪朝日新聞社撮影）



1 居間	7 洗濯室	13 子供寝室
2 夫人室	8 石炭庫	14 子供寝室
3 廊間	9 煖房室	15 女中室
4 臺所	10 倉庫	16 階段室
5 洗場	11 自動車庫	17 バルコン
6 入口	12 寝室	



上圖はブルノ・タウト氏邸の外觀で庭の方から見た圖である。邸は伯林の南 Dahlewitz にある。東から西に擴がつてゐる約 27 米幅の地面の上に立つてゐる南及北の面で隣りと向ひ合せになるのを避けるため右圖プランの様に西の方に尖端をもつた三角形が出來上つた。道路に面する方は弓形をなし結局圓を四つに切つた一つになつたのである。庭から見ると船の様に見える。

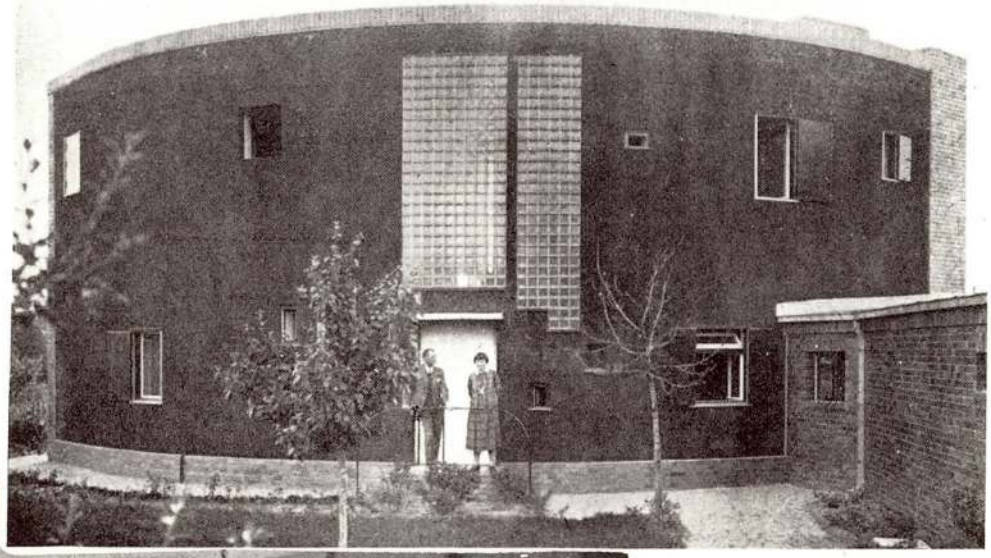
タウト氏は色が形に對して重要な位置を占めてゐることを主張し其典型的な試みを彼自身の住宅に示した。住宅の内外に渉つて其構成する各面に夫々の異つた色を與へて色の形に不可分離な意想を强調してゐるのである。

プランを見ると一つとして規則正しい部屋はなく、好んでした様な所が見える。ある室の家具を他の室に融通することなど出來ぬ。二階のベット二つある寢室のベッドの配置などはどうかと思はれる。

しかし從來の規範を脫した不羈奔放の作とも云へる。

(今井兼次氏所藏)

VI 2　獨乙・伯林・ダーレウイツ　ブルノ・タウト氏住宅　　設計　ブルノ・タウト氏



(今井彙次氏所蔵)



(今井彙次氏所蔵)

ブルノ・タウト氏邸の内外である。上圖は道路側から見た寫眞で階段室の prism glass 窓が全體の調子をつけてゐる。

左圖は階段室内部でコンクリートに prism glass をはめ込んだやり方は我國でも眞似する人が方々にある。しかし、この階段室の何處かに日本的なものありとせば、それは自分が曾て日本建築から鼓吹された一つの例證であるとタウト氏自身は語つてゐる。

ブルノ・タウト氏の住宅

設計　ブルノ・タウト氏



(緑田周忠氏寫眞)

伯林ブリッツ に於けるゲハーゲの集合住宅は 1925 年 Bruno Taut 及 Martin Wagner 兩氏によつて始められ、古きものは 892 戸あり新しきものは六家族の家 520 戸、一家族の家 480 戸ある。兩者はすぐ隣りあつてゐるがその境界は綠の環を形づくつてゐる。

(以下 緑田氏著「歐洲都市の近代相」から)

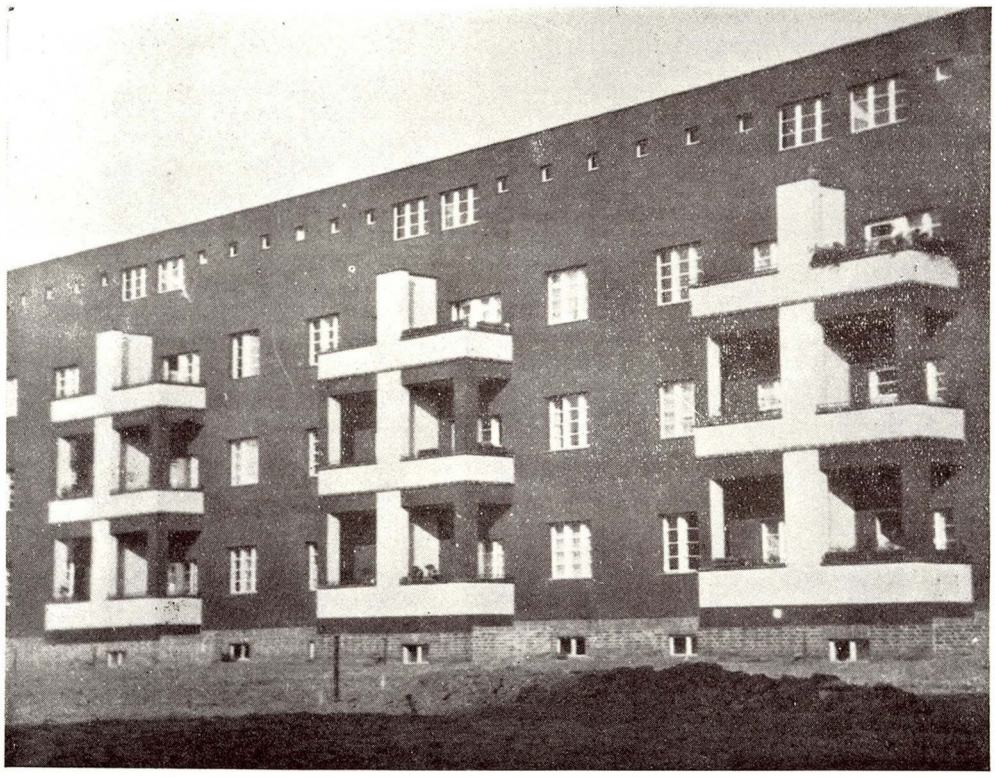
中央に池があり、其周圍に芝生があり、それから花壇がある大きな馬蹄形プランの集合住居を中心とする、此ジードルングは1925年に出來たものであるだけに、なほ「フリユーリヒト」時代の「マグデブルグの市場」に表はれたタウト氏のプランのテーマの幾分遺つてゐる。ブリッツは昔騎士の領地だつたのである、タウト氏はそれを記念する配置平面の意想を示した。ここの色彩は黄味を帶びた外壁に柔かい赤煉瓦の緣取りそれに軒の群青、それからバルコンの內壁のエメラルド色。そして草花の抑揚。

VI 4　伯林市南郊　ブリツツの集合住宅　　設計　ブルノ・タウト氏

ブリッツに於けるゲハーグの集合住宅の一部で、右圖は馬蹄形になつた部分の住宅で、壁面は美しい白色である。



（今井條次氏寫眞）



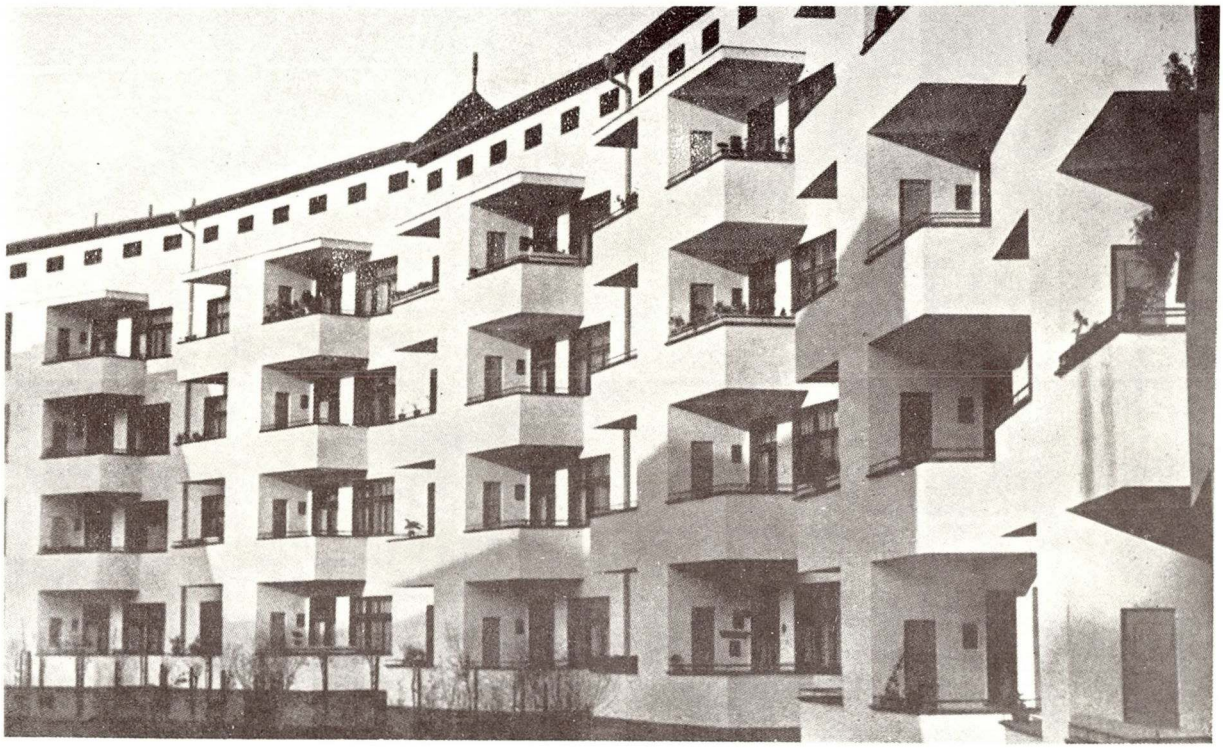
（藏田周忠氏寫眞）

同じくブリッツの集合住宅の一部で、馬蹄形の外に翼の様になつて擴がつてゐる住宅の一群である。

獨逸の新興建築家の大多數が外裝には、モルタルに純白の塗料を好んで使つてゐるのに、タウト氏は持説の通り然かも强烈な色彩を採用してゐる。

壁は黄色で出張つた所は青色である。

伯林市南郊　ブリツツの集合住宅　　設計　ブルノ・タウト氏



伯林の郊外グルネワルトに續いた白樺の林の中に青と白、黄や赤の交つた壁の面が美しく眺められ、心にくいまでに自然と建築とが相互に價値づけ合つてゐる。設計者タウト氏自身も此點につき吾人に語つたことがある。



VI 6　東伯林・オツサ街　バンゲス集合住宅　　設計　ブルノ・タウト氏

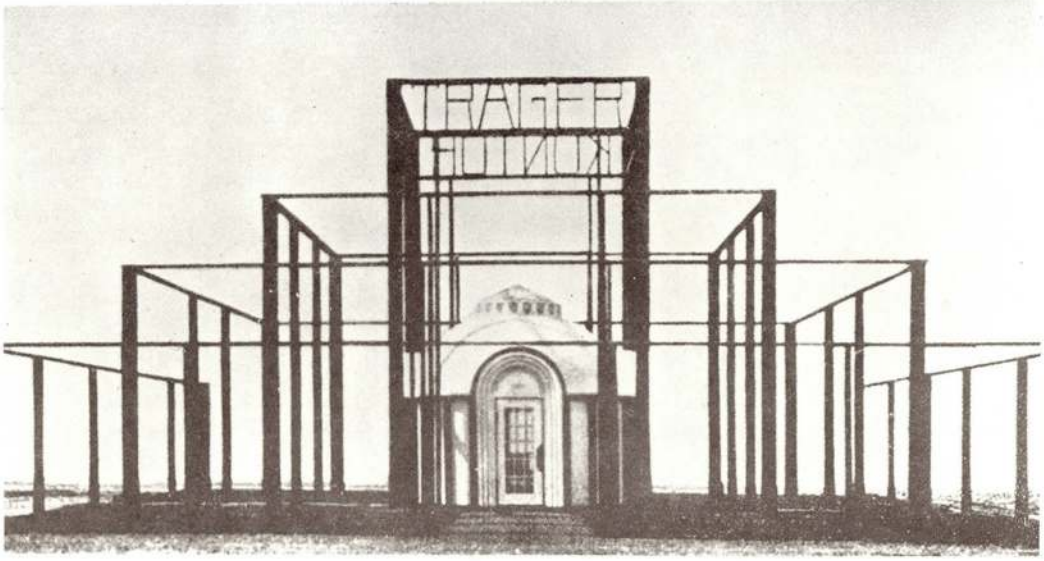


（吉田鐵郎氏所藏）

伯林のツエーレンドルフに於ける集合住宅。これは Martin Wagner 氏 Bruno Taut 氏 Rudolf Salvisberg 氏及 Hugs Häring 氏などの手になるもので、上揭の寫眞はブルノ・タウト氏設計になる一群である。

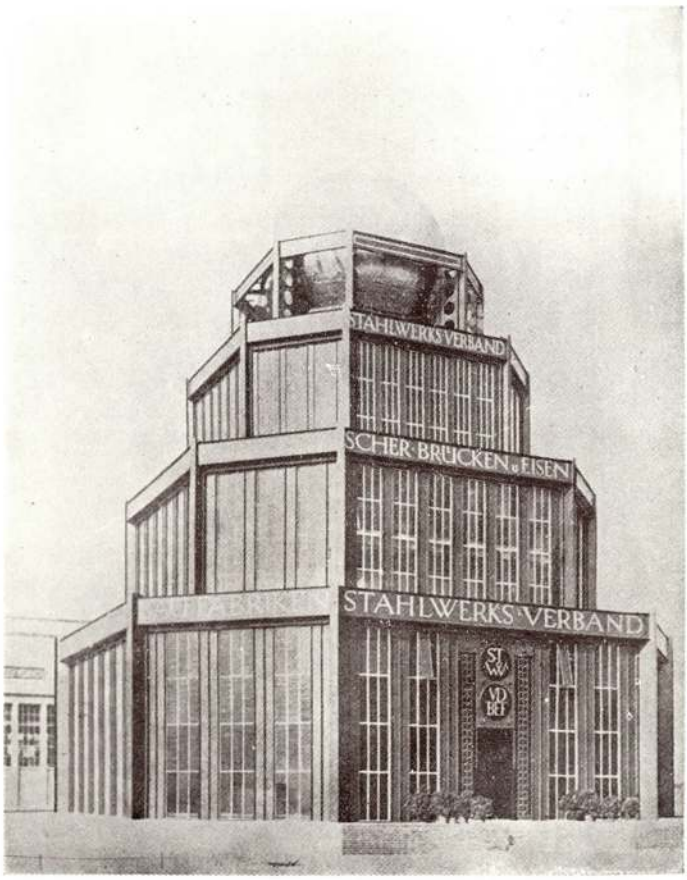
こゝでは建物を主格とせず四周の林に住宅を美しく織り込んでゐるのに氣付くであらう。

獨乙・伯林近郊　ツエーレンドルフ　　計計　ブルノ・タウト氏　　

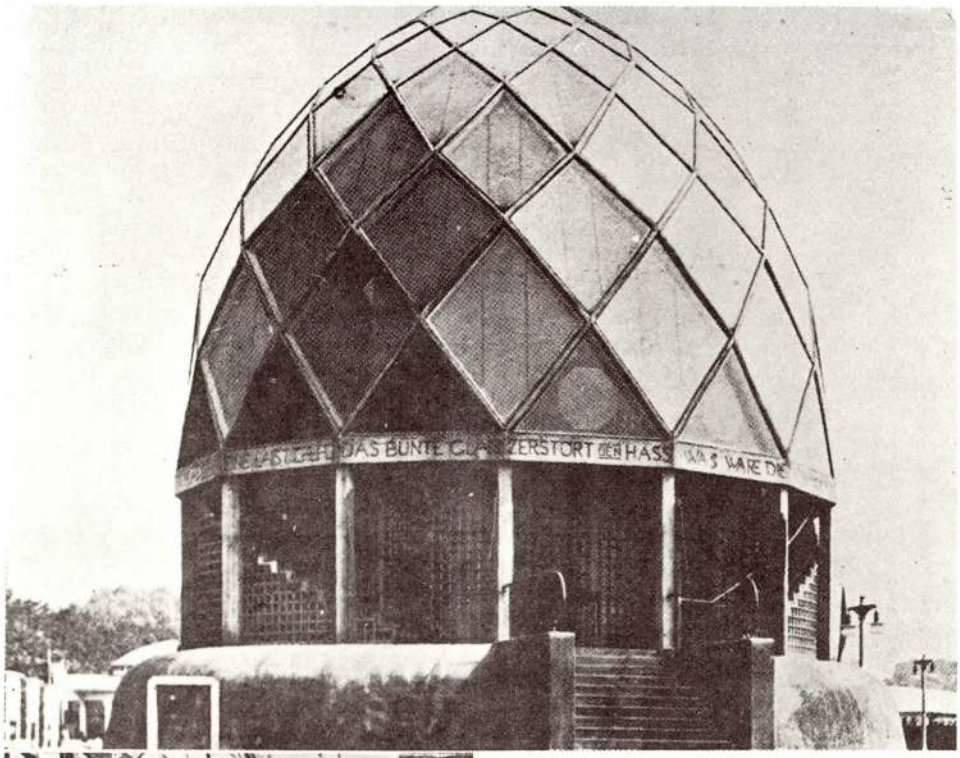


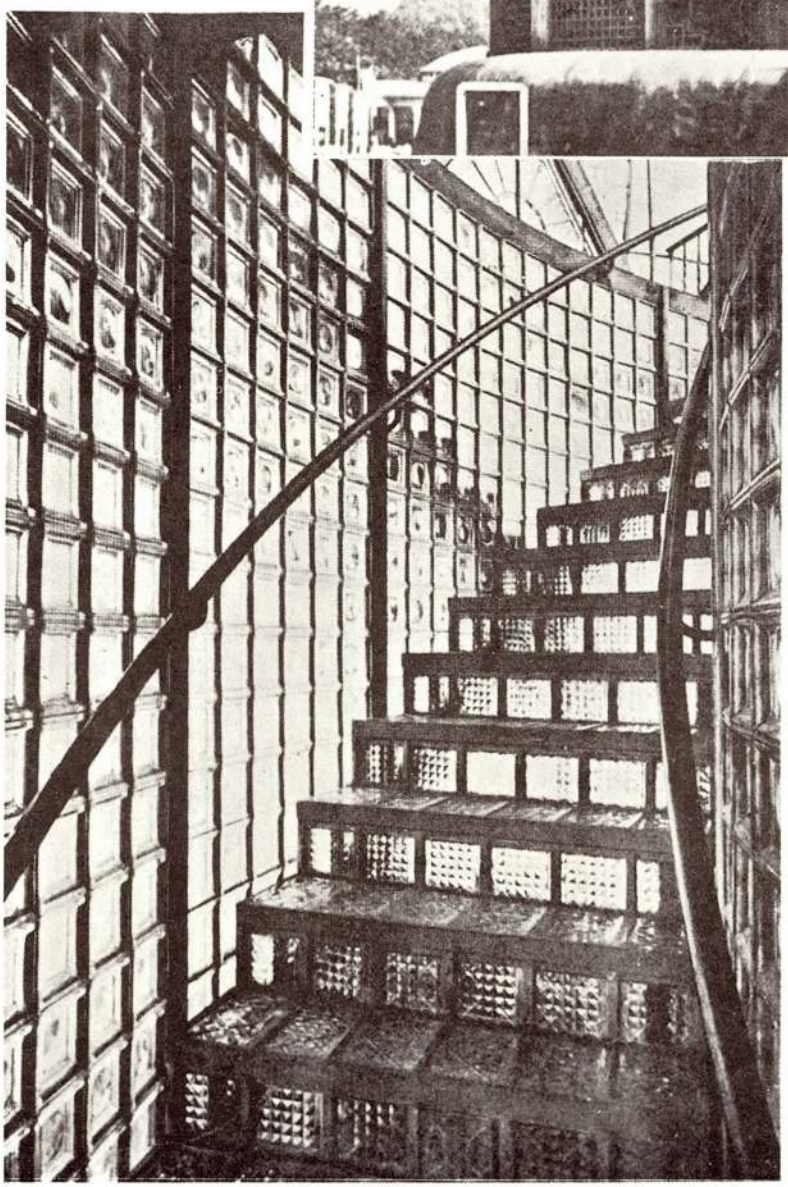
1913年ライプチッヒに開かれた博覽會の鐵工業組合館の外觀。

鐵と硝子で出來てゐる。吾人がタウト氏に見出す最初のものとして、鐵とコンクリートと硝子とから成るリアリスチシユな「グラスハウス」がある。彼は現代的な建築材料である此等を巧みに其性質に基いて利用した顯著な一人であり、これ等の建物こそ現代建築の回想に思出多いもの丶一つである。



VI 8　博覽會建物　　設計　ブルノ・タウト氏



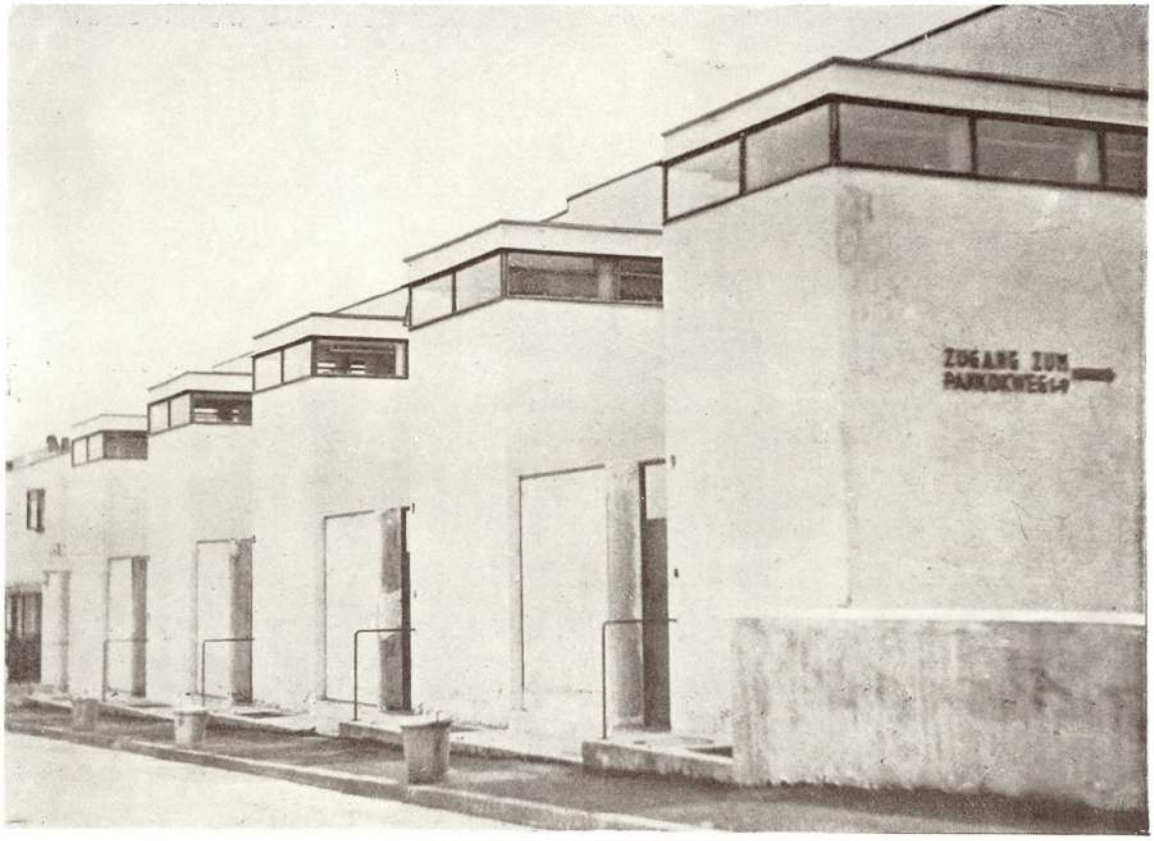


1914年ケルンの應用美術博覽會に於ける“ガラスの家”であつて、上圖は外觀下圖はその內部の階段室を示してゐる、ガラスの天井、ガラスの壁、ガラスの階段等凡てガラスで出來てゐる。屋根は梁なしの網目構造になつてゐる。

ブルノ・タウト氏がガラスの種々變つた面白い使ひ方を大いに主張したものである。

ブルノ・タウト氏の作品集はこれで打ち切り以下他の新興建築に移る。

ガラスの家　　設計　ブルノ・タウト氏



1927年スツツトガルトに住宅展覽會が開かれバイセンホーフに於いて一時的でない立派なモデルハウスの一群が有名な建築家達によつて設計され實施された。つまり構造、材料、衛生、科學的に充分に研究をし具體化したものであるが建築家の中に我々は Mies van der Rohe 氏 Oud 氏 Bourgeois 氏 Schneck 氏 Corbusier 氏 Gropius 氏 Hiberseimer 氏 Bruno Taut 氏 Hans Pölzig 氏 Döcker 氏 Max Taut 氏 Rading 氏 Frank 氏 M. Stam 氏 Peter Behrens 氏 Scharoun 氏等の名を見出す。上圖は Oud 氏の作品で"純白の家"の一群の背面の寫眞である。

下圖はマルト・スタム氏作品の家の玄關であつて力强い迫るものを感ずる。

これ等の作家の住家の平面圖は Decorative Art. 1929年版に出てゐる。



(山脇巖氏所藏)



（藏田周忠氏所藏）

この集合住宅は Bruno Ahrends 氏 W. Büning 氏及び Salvisberg 氏等の共同設計になるもので寫眞は Salvisberg 氏設計のものである。シラー・プロメナードに橋のやうに白堊の集合住宅が浮き出されてゐる。斯くして氏のジードルング全體に對して其の眺めと用途とを効果的なものにしてゐる。同じ意想の後廊下の建築を吾々はデツサウのバウ・ハウスにも見ることが出來る。

伯林市 **ライニツケンドルフ・ジートルングの一部**



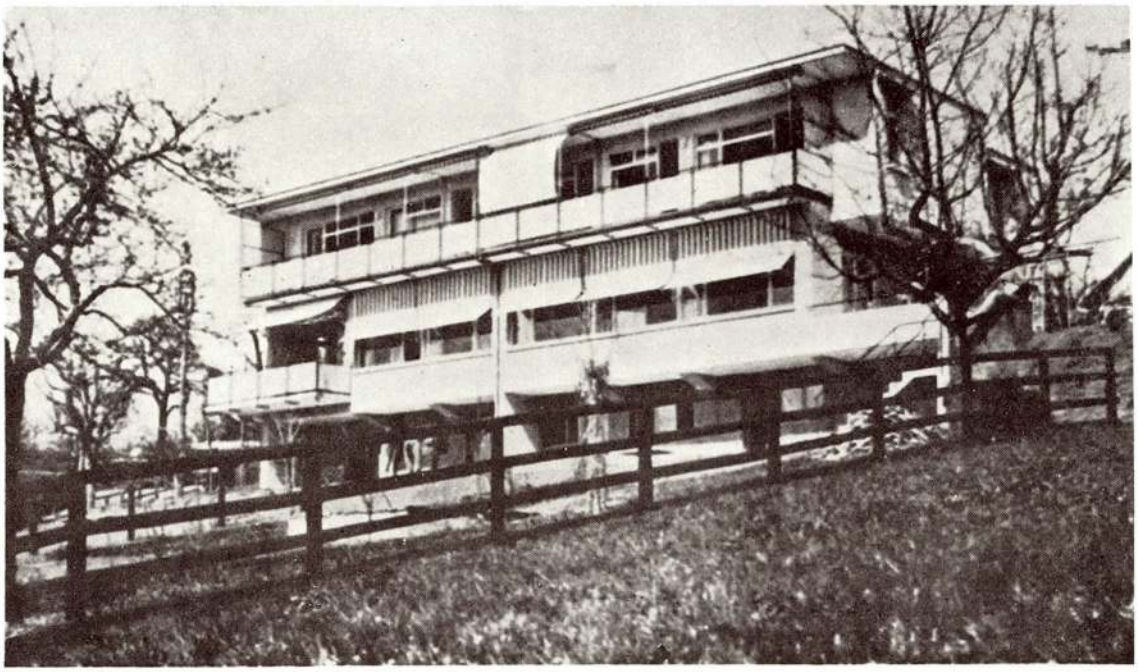




(山脇巖氏寫眞)

このアパート・メント・ハウスは鐵とコンクリートと硝子の十階建で特異な型態をなしてゐる。

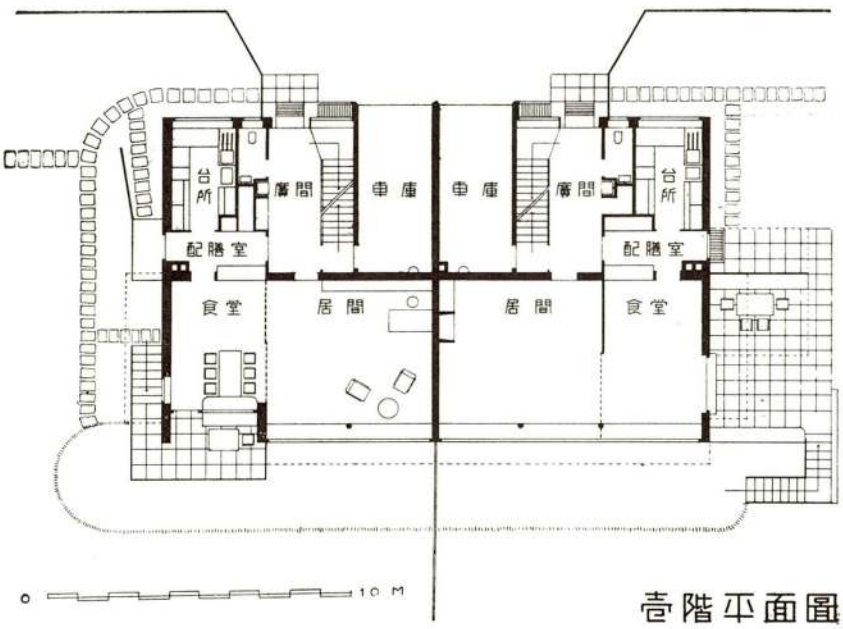
寫眞中央の硝子張の半圓形の筒の部分は階段室で、エレベーターもこの中にある。



(吉田鐵郎氏寫眞)



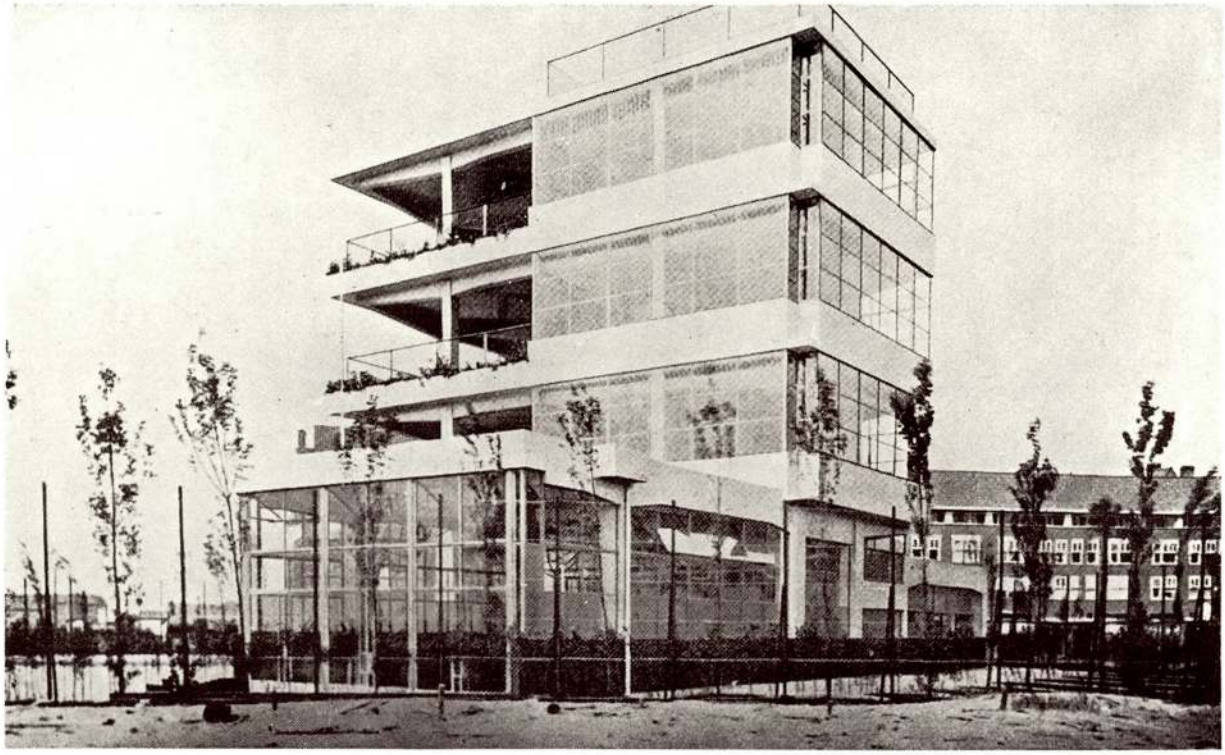
斷面圖



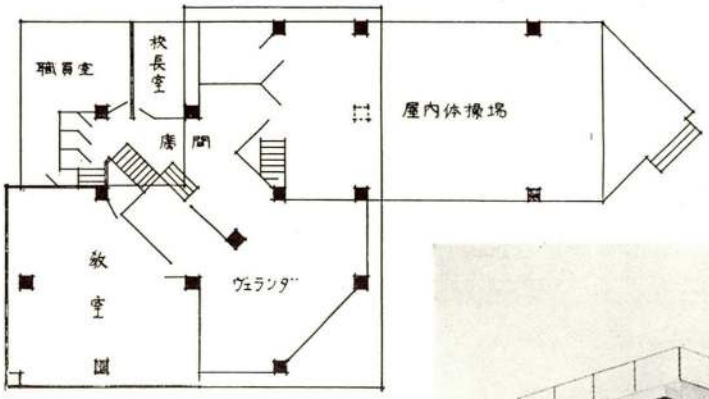
壹階平面圖

傾斜の地に建てられた二戸建の住宅で見るからに明るさうである。二階三階のバルコニーは、鐵骨に硝子で出來てゐる、前方の眺めは寫眞ではわからないが、恐らく遙かに光る湖を隔てゝアルプスの巍々たる山々を望み得るのであらう。

瑞西・チューリツヒの二戸建住居　　設計　ウエルナー・モーザー氏

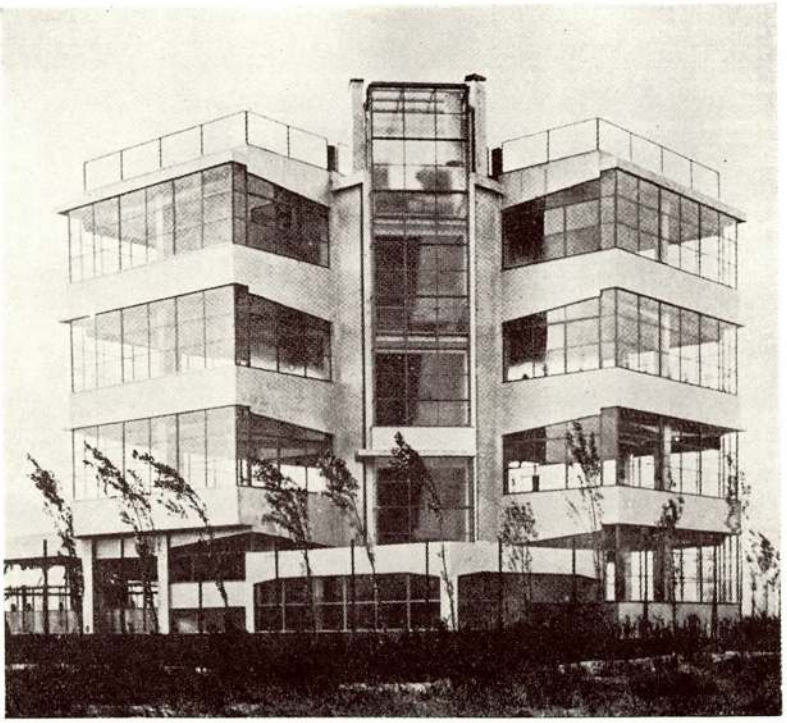


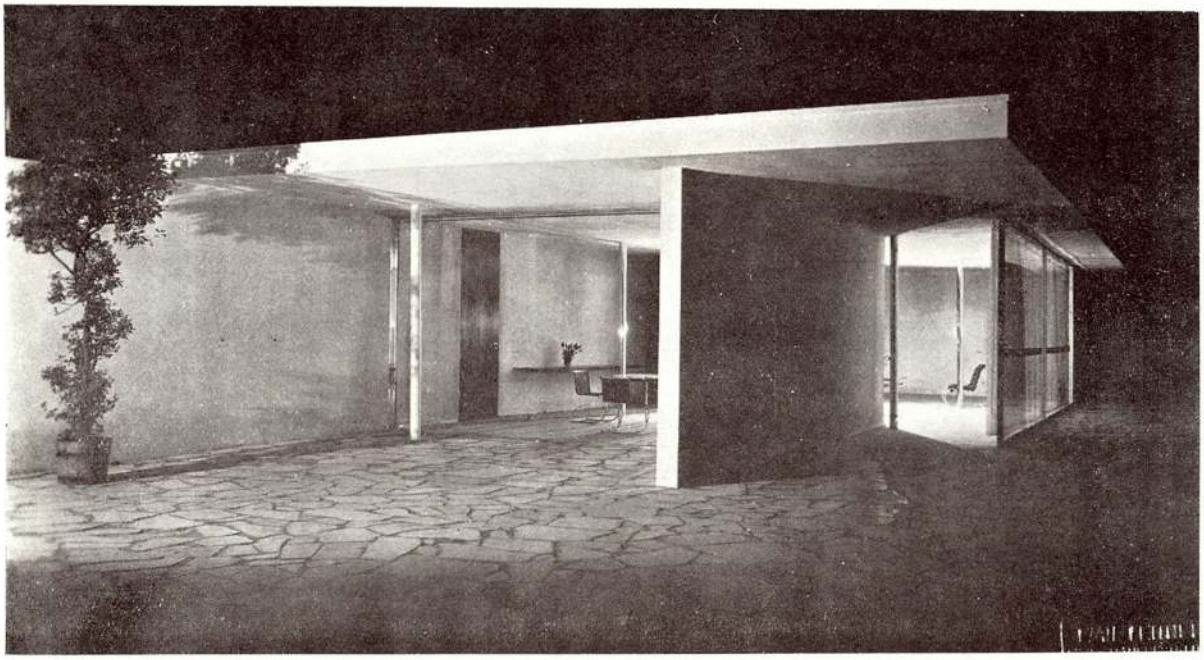
（山脇巖氏所藏）



一階平面

教室の採光はこれ以上取れぬ程とり入れてある。窓をいつぱいあける爲に柱は内部に引込んで居り、各教室毎にヴエランダがある。1階に雨天體操場がありガラスで圍まれてゐる。日本にも一つ位こういふ學校があつてもいゝ樣に思ふ。

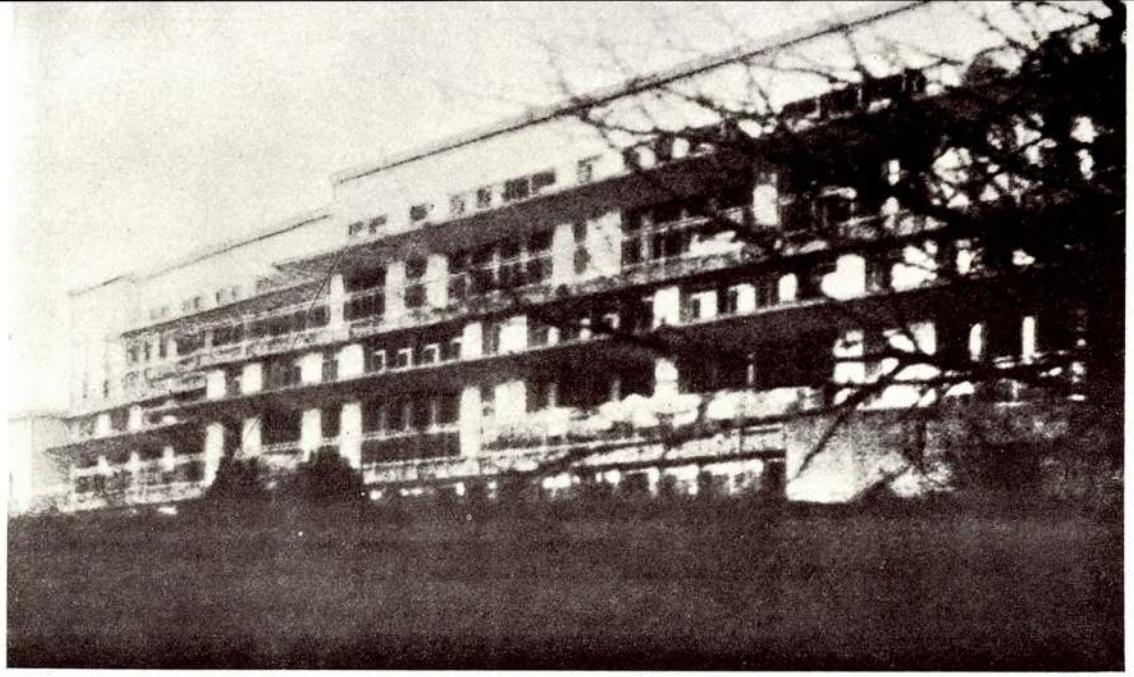




（藏田周忠氏撮影）



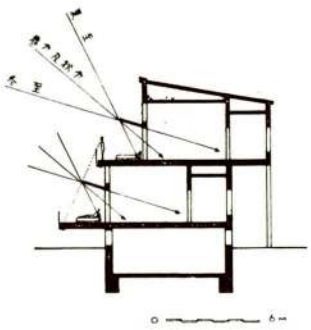
1931 年伯林に開かれた建築展覧會に出品されたミース・ファン・デル・ローエ氏設計の平家建モデルハウスである。寫眞は食堂、居間を見た圖であるが、寢室の眞中に半圓形の浴室がありその上にトップライトを採つてある。輕快な且つ清新なものである。

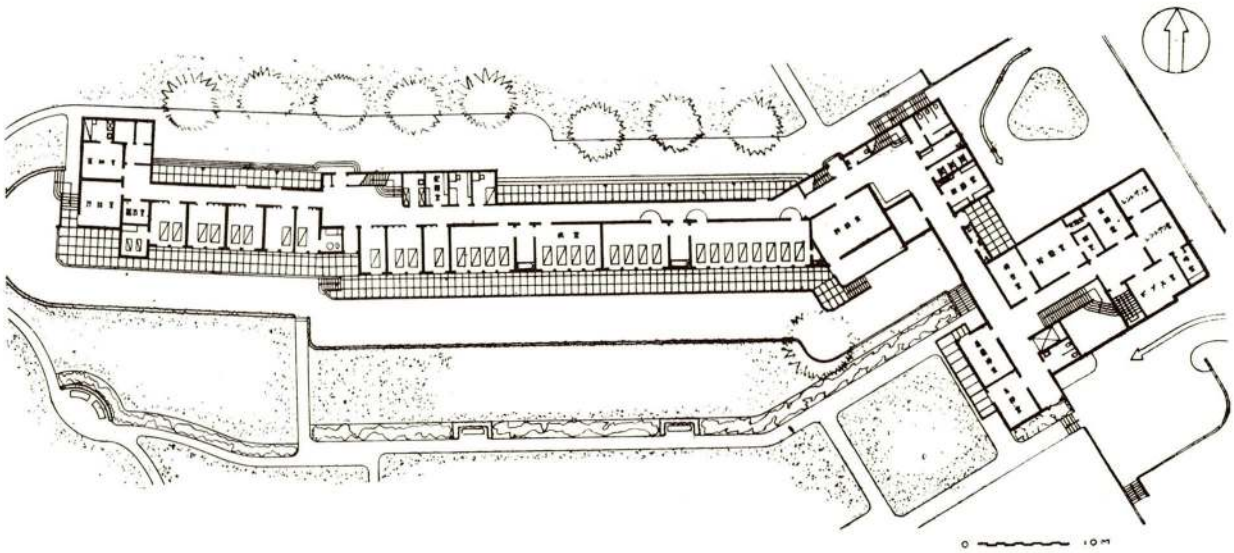


（吉田鐵郎氏寫眞）

ワイブリンゲンの病院
設計リヒアルト・デッケル

或る意味で新興樣式は光線を基調としてゐるといへやう。それを如何に飽迄利用して日光を採り入れてゐるかはこの斷面圖や平面を見ればよく理解出來る。





（吉田鐵郎氏所藏）

VI 16　ワイブリンゲンの病院　　設計　リヒアルト・デツケル氏

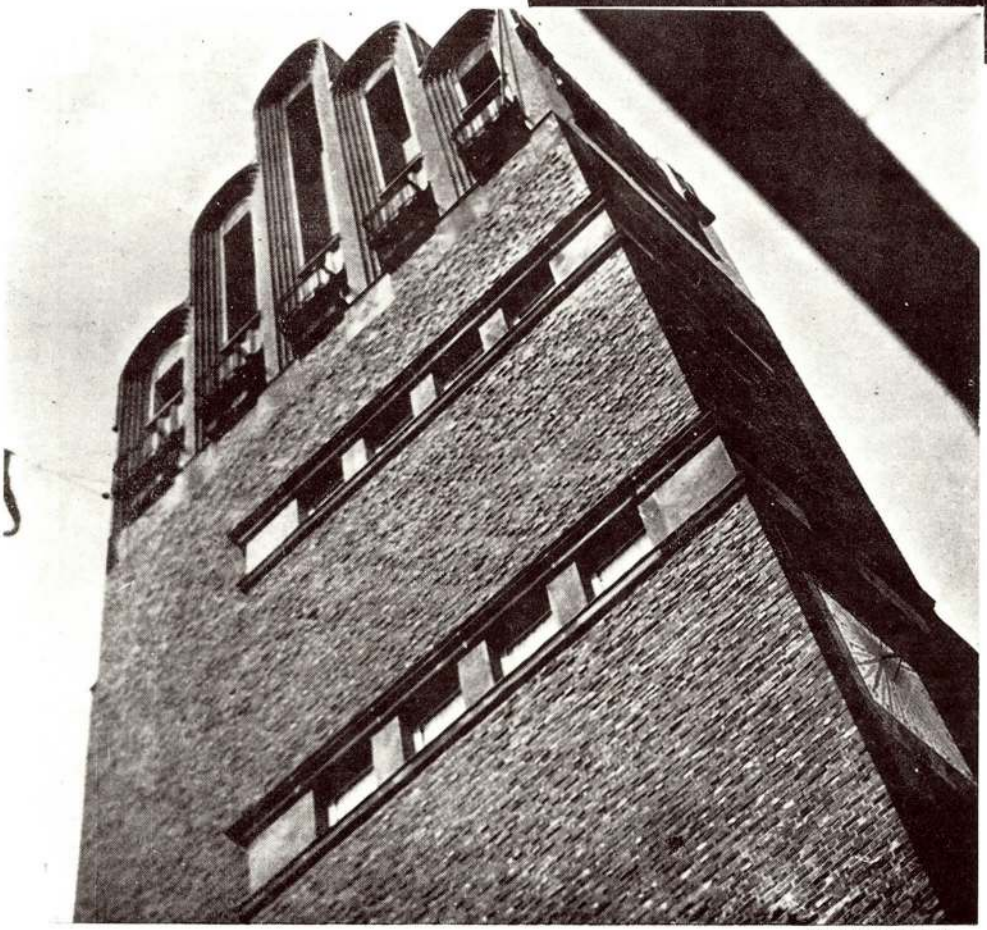
設計　ウイレヘルム・クライス氏

デュッセルドルフは清潔な町である。此處に先年博覽會が催されその中プラネタリウムと博物館とこの寫眞の美術館とが清冽なライン河畔に殘されて並んで居る。タイルと石との取扱方が獨逸特有の趣と巧みとをこの美術館に見出し得るであらう。

この頁のものは兩者共敢えて新興の部には入り得ないものかも知れないが、當時新興の魁として華々しいスタートに今も殘つて作家の力のひしひしと人に迫るものがある。



（今井兼次氏所藏）

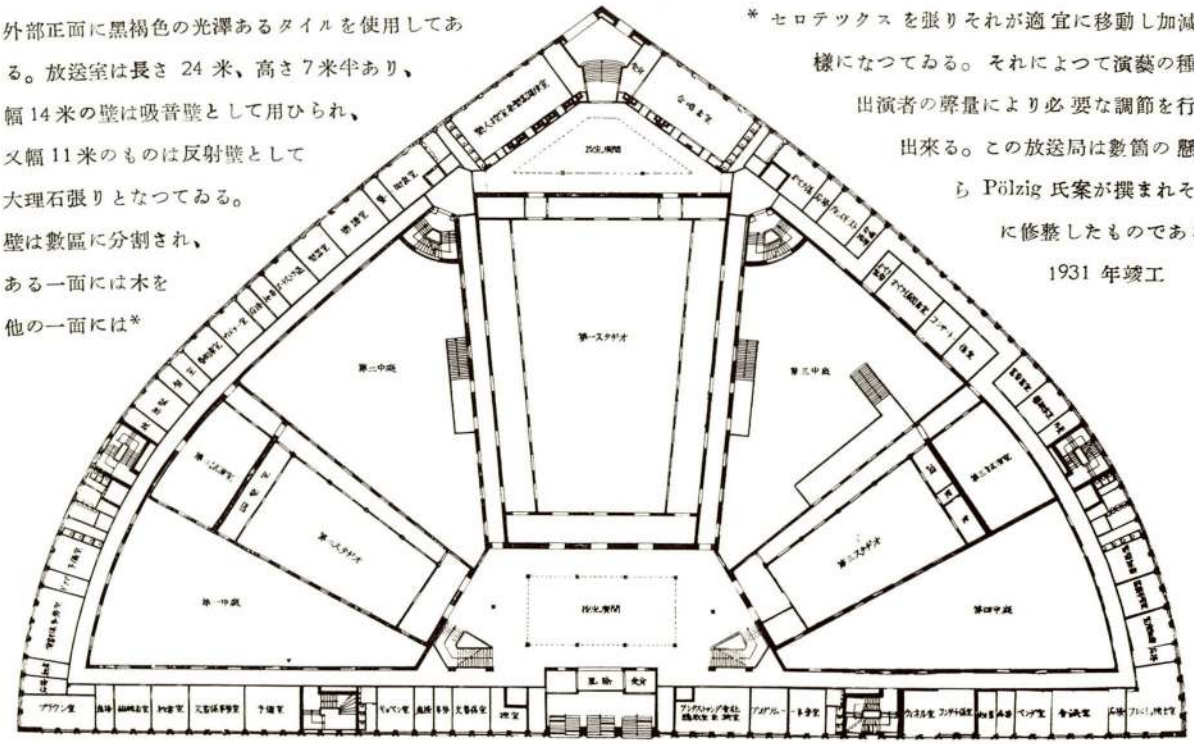


（藏田周忠氏寫眞）

エルンスト、ルドウイヒ大公成婚記念塔は、これに續く展覽會場及び一團の構成をなす藝術家村の上に君臨するかのやうに見える、1907～1908年に建てられたものである。淺黒い石と特徴ある形は今尚新らしい感覺を持續して作家オルブリツヒ氏の天才の力を飽くまでも感得することが出來る。

ダルマシタツト・マテイルデン丘 ルドウイヒ大公成婚記念塔　　設計　ヨセフ・オルブリツヒ氏

外部正面に黒褐色の光澤あるタイルを使用してある。放送室は長さ 24 米、高さ 7 米半あり、幅 14 米の壁は吸音壁として用ひられ、又幅 11 米のものは反射壁として大理石張りとなつてゐる。壁は數區に分割され、ある一面には木を他の一面には*

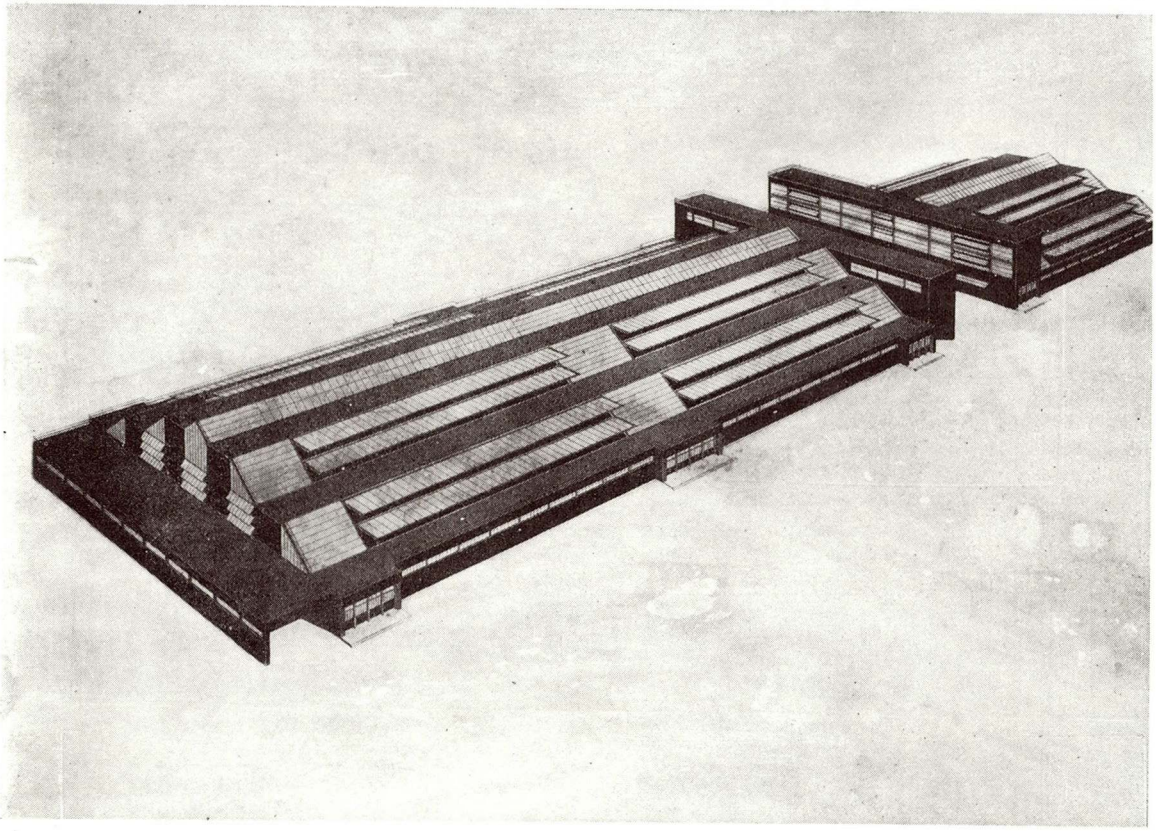


* セロテックスを張りそれが適宜に移動し加減出來る樣になつてゐる。それによつて演藝の種類又は出演者の聲量により必要な調節を行ふ事が出來る。この放送局は數箇の懸賞案からPölzig 氏案が撰まれそれを更に修整したものである。

1931 年竣工

(吉田鐵郎氏所藏)

設計 ハンス・ペルツイヒ教授

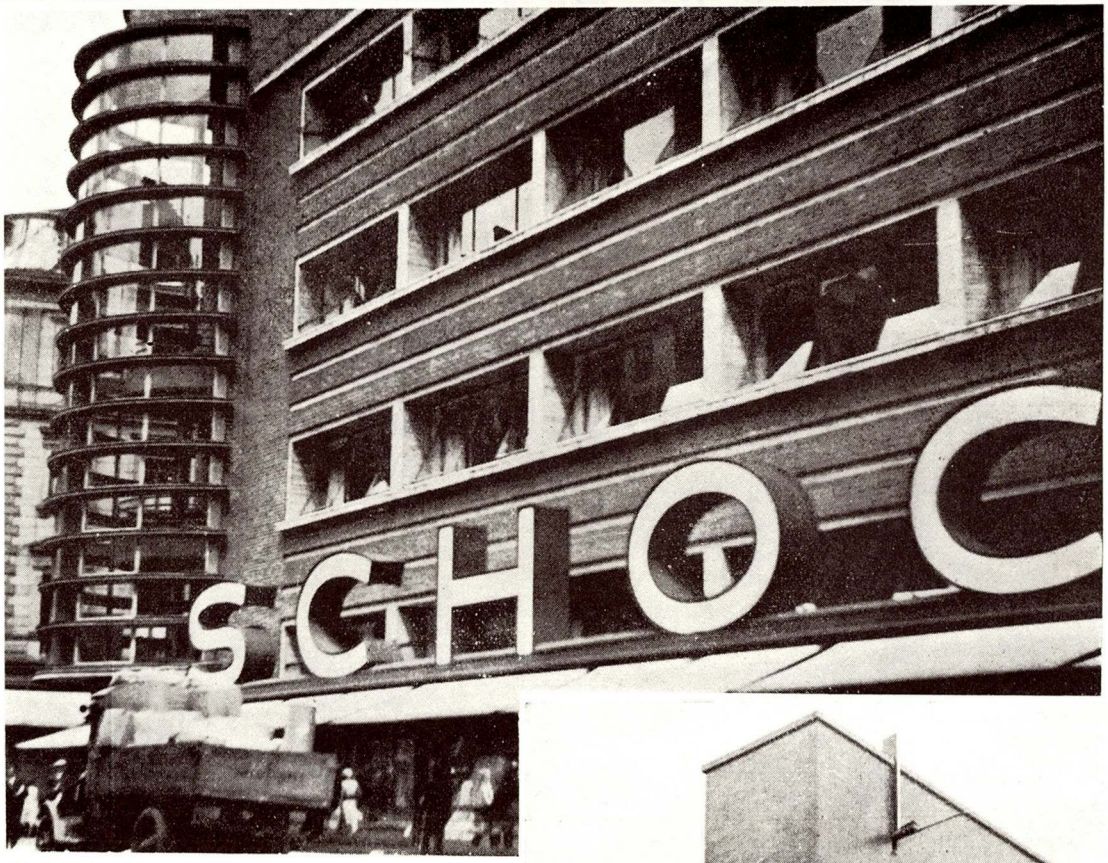


（今井兼次氏所藏）

ロシアに於て世界大戰及び革命前、繪畵や劇などが新しい道を求めつゝあつた際に於いて建築は依然としてクラシックやルネサンスの中にその殻を守つて一步も出なかつたが革命は建築にも新しい道を示したのであつた。ソヴイエート・ユニオンの建築の第一期は過去の形に對する抗議であつた。そして古い建築的言葉を否定した。外觀を歷史的にタイルで飾ることを止めた。空間、質、リズム、靜力學及び動力學の研究が眞面目になされ、形そのものゝための形はなくなり合理的なるもののみ建てられる樣になつたのである。

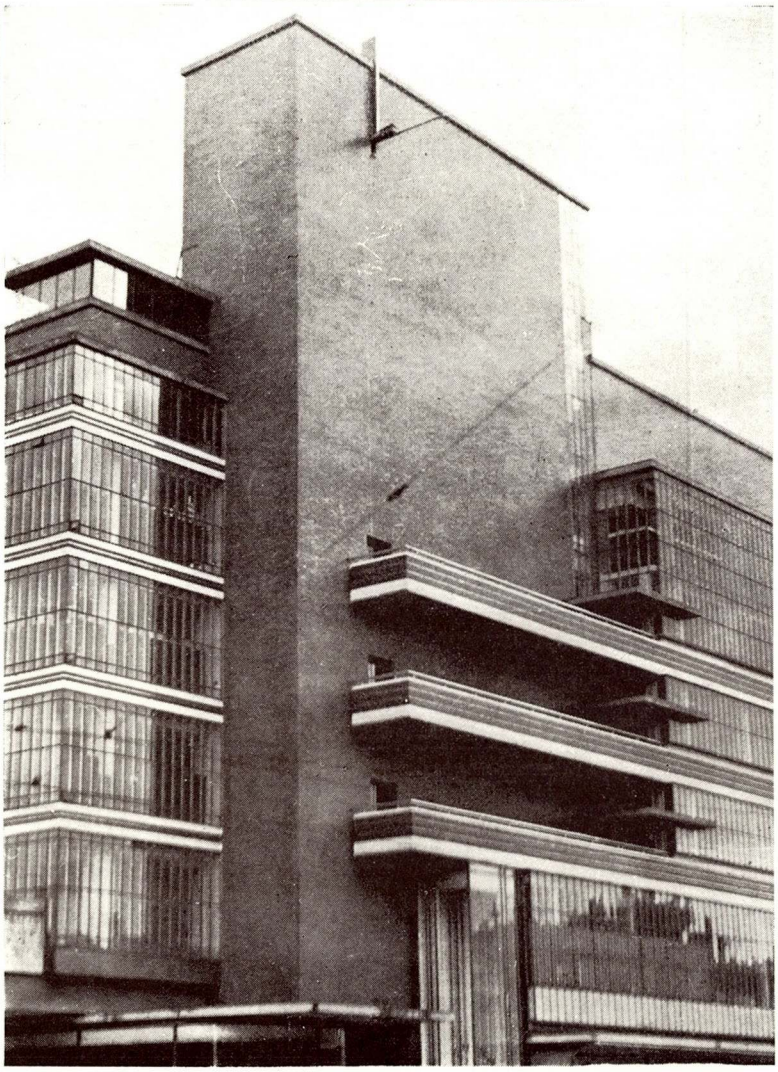
こゝに揭げたのは M. Ginsburg 氏と W. Wladimirow 氏との共作になるもので地下階付の3階のマーケットである寫眞で白く見えるのはガラス屋根で開く樣になつてゐる。

モスクワの市場設計圖　　設計　ギンスブルグ氏　　



1928年に出來上つたものである。赤褐色の荒い煉瓦、白土色のトラヴアチン、大膽に取扱はれたScohckenの大きな文字そればかりでなく、圓弧のプランをもつ階段室からはグラスの魅力を强調して行人の目をそばたゝせてゐる『メンデルゾーンは近代百貨店の形の創造者である』と云ふ人がある。

（山脇巖氏所藏）



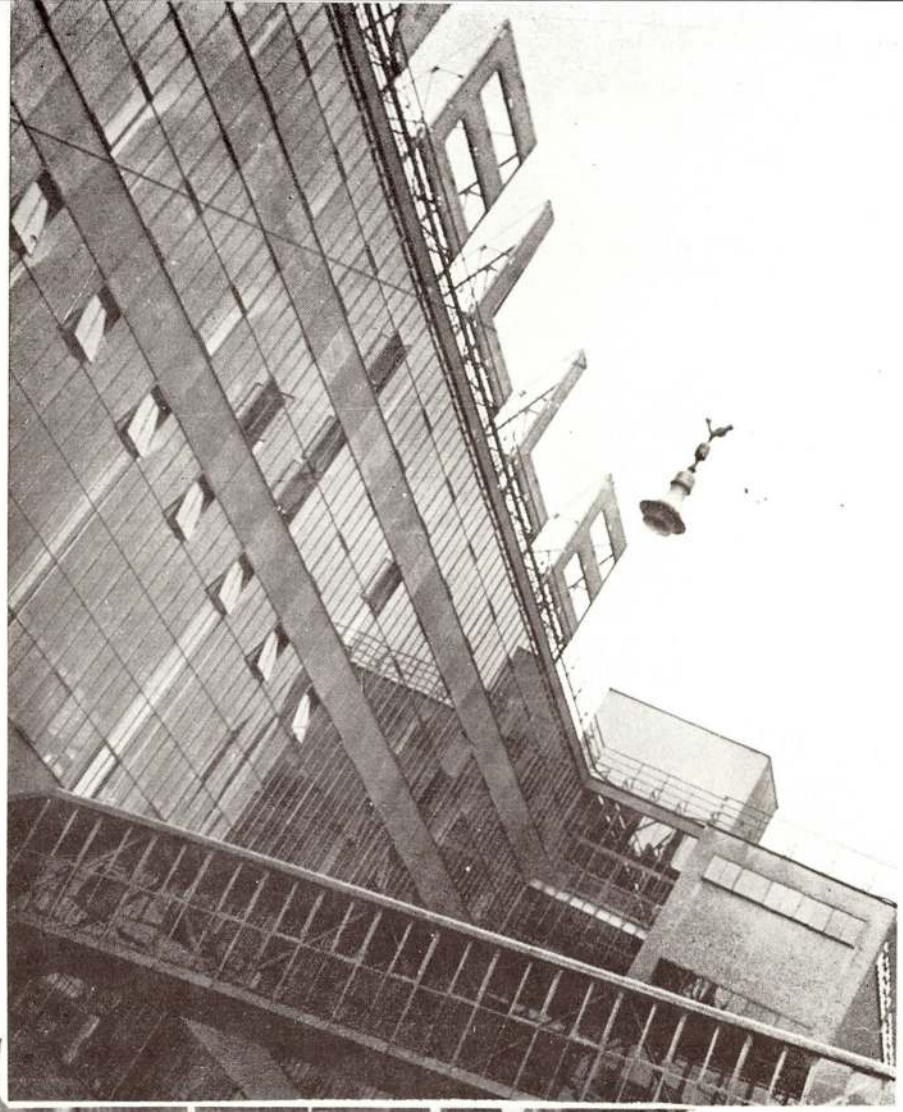
煉瓦、鐵及びコンクリート構造で有名なものである。バルコニーは金、青黒及白のタイルで張つてあり豊かな装飾的効果をあげてゐる。煉瓦は硬い細いもので目地は幅廣く黒色である。

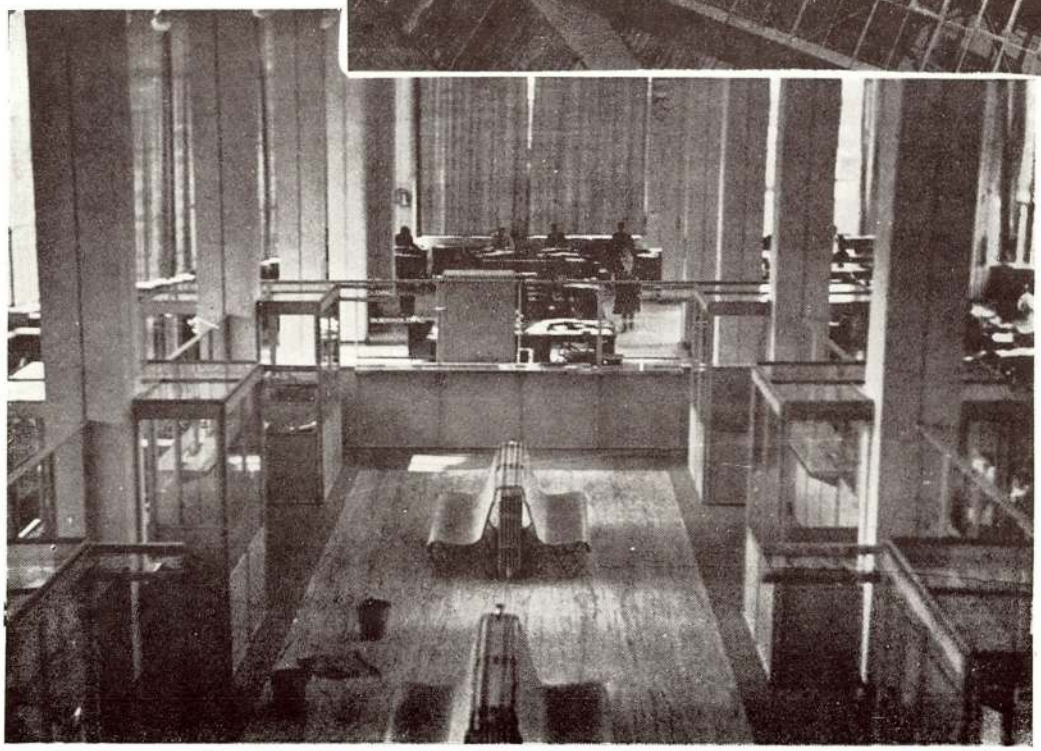
彫刻の異常な使ひ方が目につく。

（山脇巖氏寫眞）

上 スツツトガルト 百貨店 ショツケン　設計 メンデルソーン氏
下 ロツテルダム　百貨店 ビイエンコルフ　設計 ヴエー・エム・ヂユドツク氏

1929年に出來たものでJ.A. Brinkmann 氏及び L.C. van der Vlugt 氏の合作になるものである。フラットスラブ式で柱は窓から離れてるが、この方法は Mies van der Rohe 氏が1923年に伯林に於て使用したのが最初である。





（山脇巖氏所藏）

和蘭ロッテルダム・ネレ煙草珈琲工場　　設計　ブリンクマン氏

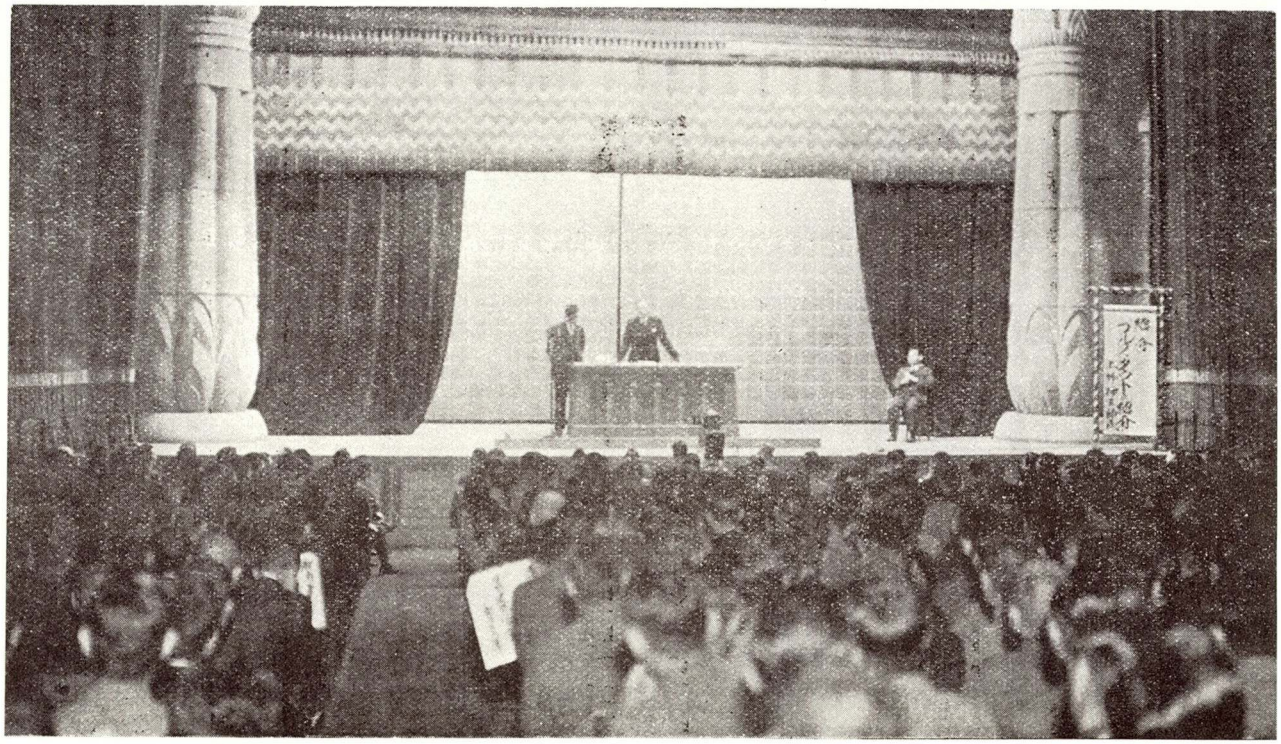


（山田守氏寫眞）

新興樣式の簡素明快であることは、この一枚の寫眞で全貌を想像することが出來る。寫眞としても面白いのでこれを最後の頁へ掲げて新興建築寫眞集を終る。

こゝに掲げた寫眞は當協會後援で朝日新聞社が催した新興建築展の出品寫眞から主として撰んだ。所藏者は判名するだけ記入したが混亂して迷惑を掛けてゐるかも知れない。御詫びして置く。

解說は小田島兵吉、中西六郎の兩氏に御願して不足分は編輯の方で補つた。（高橋榮治）



新興建築講演會

この大講演會はブルノ・タウト氏の來朝を機として本會主催の下に5月10日朝日會館に於て開催されたもので聽衆館に溢れるの盛會であつた。（寫眞は德政監事司會の下に上野氏の通譯で講演中のタウト氏）

開會の辭

竹腰健造

本夕は獨乙新興建築の權威ベルリン大學教授ブルノ・タウト氏の御來朝を機として大阪朝日新聞社御後援の許に我日本建築協會が新興建築講演會を開催致しましたる處、多數新興建築に對し興味を有せらる方々の御來會を得まして、主催者として、非常に欣幸とする處であります。

建築が藝術であるか藝術でないかと云ふが如き問題は今更論議する必要はなく、人間の目に觸るゝものは森羅萬象一として藝術でないものはありません。藝術としての建築は古



今東西を問はず總て其時代の思潮精神、文化の程度を反映するものでありまして此處に於て各時代の建築の樣式と云ふのが生れ出るのであります。建築の樣式は單に其時代の思潮の表現であるのみでなく、又私は次の時代の思潮精神に大なる影響を有するものであると考へるのであります。良く文學、繪畫が或時代を墮落させたと云ふ者もありますが之は一面の眞理であつて反面に又其時代の精神を反映する事も眞理でありまして、建築に於ても同樣の事が云ひ得られるのであります。茲に於てか今日種々論議せらるゝ新興建築の現代と精神を表現する樣式も現代の思想を反映すると同時に、次の時代の健全なる思想を醸成する助力となるものでなければなりません

今日世界の建築の樣式に對する一般の觀念を靜かに觀察致しますとクラシツク、ゴシツク、レネツサンス等現代精神と何等の交涉のない舊樣式を現代建築に用ふる事は非常なアナクロニズムである事は一般に認められて居る處で、建築に從事するものの此等に依つて居る者は止むを得ず之れを模倣して居るのでありますが、又總ての人が新時代の樣式の發達安定を待望して居るのであります。

新時代を表徵する新樣式の發現に最も障碍となりますものは舊來の樣式に對する社會的の美的觀念であります。觀念は他のサイエンスに於ける眞理の如く一朝にして舊習を打破する事は殆ど不可能でありまして之れが更改せんか爲すに時を以てせねばなりません。更に新樣式の確立の困難なる一原因は建築が他の文藝繪畫と異り之れが完成に多數の年月と莫大なる費用とを要する點であります。是れ等の爲めに新時代に適合した建築の發現は非常に困難でありまして、之れに努力する建築家の努力犧牲は非常に尊いものであります。

如何なる時代に於きましてもパイオニアーと云ふものは尊敬すべきものであります。又其マタイアーダムは美しいものでありますから諸君も新興建築の達成に努力する建築家に對しては滿腔の同情と尊敬とを拂はれむ事を希ふものであります。

斯くの如き時代にありましてドイツ新興建築の權威タウト氏が來朝せられ其主義主張を親しく傾聽する事の出來るのは非常なる有意義の事でありまして現在我國の建築樣式の進路に一光明を與へらるる事と存じます。然しながら各國其風土、文物、時代精神に於て各異る處がありますから氏の主義精神のある處に傾聽せられ徒らに手法の末節を模倣するに止り我國新興建築の達成を阻止するが如き擧に出られざらむ事を希望致します。又是れがタウト氏の眞意であると考へるのであります。

甚だ蕪辭でありますが是れを以て開會の辭と致します。

映畵「現代フランス建築」の解說



中西六郎

フランスの建築家、ル・コルビュジエ氏指導の下に出來た "L'Architecture d'anjourd'hui" といふ映畵が早大建築科教室に所藏されてゐます、それを「現代フランス建築」なる題名の下に同教室の好意により過般紹介したのであります。以下その映畵の解說でありますが、生憎映畵面を欠いてゐるので、誌上では不徹底な憾みのあるのを殘念に思ひます。

曾ての十九世紀が繪畵の全盛期であつたに對して、現代は建築にとつて或大きな動きを慾求して居るかのやうに感ぜられるのであります。それほど一般の人々が建築に關心を持ちはじめたことは珍らしい動向でありませう。

建築の問題を解決しやうと努力して居りますものゝ內にあつて、根本的な、又理論的なそうして明瞭な歩みを續けて居るものを我々はフランスに於て見出すことが出來るのであります。顧みれば 1900 年パリに彼のエツフエル塔が建てられてから、世間の人々は鐵骨構造の偉力に驚き、その頃からフランスの建築界は舊套を脫し始めたのみならず、現代建築勃興の上に、意味深い影をフランスは勿論のこと、世界の建築界に新しく驚異の影を投げ掛けたのでありまして、是より先づフランスに於て新しい建築運動が起つたのであります。

御承知の如く十九世紀末から二十世紀の現代に掛けて大きな社會的變動がありまして、其の動搖は經濟組織は勿論のこと、社會組織の大きな崩壞或は變革を促して來たのでありますが、遂には藝術の分野にも亦其の改革の波が押寄せて參りまして、過去の美學は殆ど無用のものとして追放者に等しい姿で、我々の周圍から消え去らねばならなくなつたのであります。我々は最早感情的に從來の因襲的な、陳腐な判斷に捉はれて居るべきではありませぬ。我々の外界は從來とは全く一變して絕えず機械と云ふものに接觸を保つて居るのでありまして、その機械といふものゝ力で我々の建築の外觀も其の効用も驚くべき變化を

受けて居るのであります。是(映畵)は建築の現場を上から眺めたところでありますが、機械が我々に與へた感化と云ふものは今日では既に完全に標準化されまして、それに依つて過去に於ては三年も費した建築が今日では僅か三月にして之を建設し得るようになつたのであります。斯うした角度から眺めました建築の現場は先づ我々の前に、其の組織化された機械の現場の有様を、唯今フイルムが展開して居るのであります。

先程一寸映りましたやうに、鐵筋コンクリートに用ふるセメント、砂、砂利は水と共にコンクリートのミキサーの廻轉に依つて間斷なく練り上げられ、鐵筋は均一に、所要の大きに整備され、一方に於ては、鐵骨のスタンダードされたものが現場に運ばれて、直ぐに組立てられると云ふ譯で、從來よりは非常にスピード的な構造を促して來たのであります。唯今映畵に御覽になる如く建物の基礎が出來、柱が立てられ、梁は床と共に一體として順次に出來上つてゆきます、從つて在來の木造建築、其の他石造、煉瓦造に於て見出すことの出來なかつた一つのファクターを提供して、床も亦耐火的なコンクリートで造ることになつて來たのであります。そして在來は柱と共に壁が力を受けて居つたのが、今日では特別な場合を除いて、壁に力を持たすことなくして、唯柱と梁とに荷重を支へさせて構造し得るやうに理論は進んできたのであります。

鐵筋コンクリートが不燃性であること及び構造の進歩したことは我々に色々な方面から材料其の他に、斷えず變革を促しまして、唯今映りましたやうに床はブロツクで造られるやうにもなつてきたのであります。

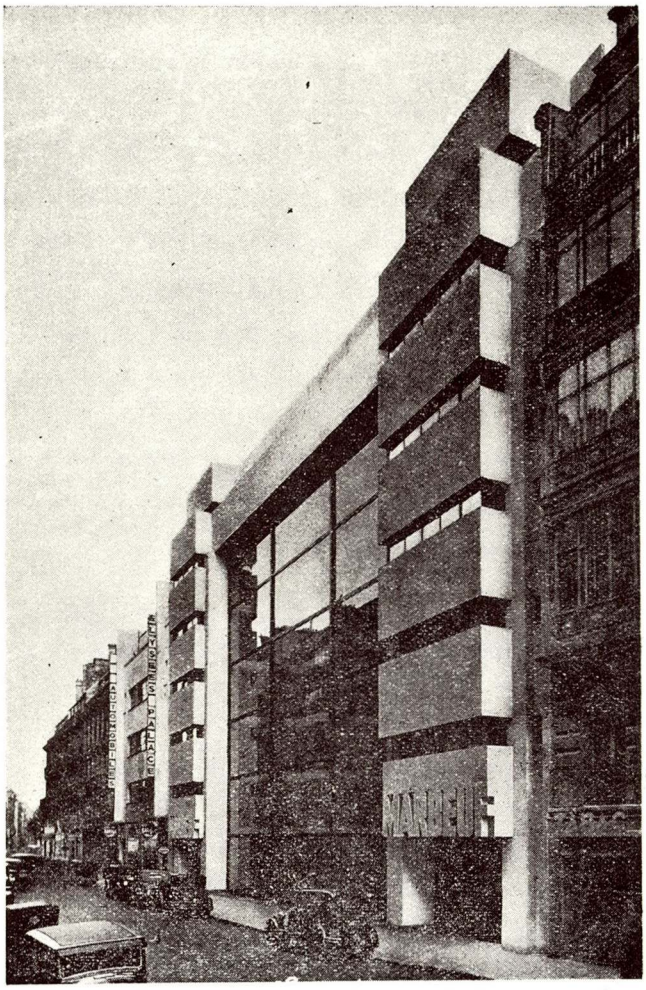
先刻申上げました如く壁は、之を重要視することなく、自由に構造し得るに拘らず、猶ほ今日に於ても非進歩的な建築家達は其の壁を强調せんが爲に色々怪しげな裝飾を之に附加して醜惡な建物の數々を造つてゐます。我々は光線を取入れるべく窓を開けて行かなければならないのに、斯かる無益な裝飾のために面積を奪はれて窓は全く犧牲に供せられてゐる例が多々あります。大きな窓を要求する建築——例へば工場では、商業建築では、自動車庫では——それらでは飽くまで建築の近代性の適用を穿鑿してかからねばなりませぬ。

先づ皆さんは、唯今、フヰルムに映じてゐます處の、巴里のビランクールの工場の正しい姿を御覽下さい　續いて映つて居ります。巴里のバラール街にある商業建築では、大きな横に連續した窓が完全な光線を提供してゐるのを御注意下さい　大膽な適用の一例として、巴里のシヤンゼリゼーの大通を少し横に入つたマルブーフ街にある、高さ21米、幅10米から成る大きな硝子の窓を有つた自動車の陳列販賣所があります。御覽の通り非常に大きな硝子の壁面であります。(第1圖參照)

今一つの他の例として巴里の救世軍本部の模型がありますが、ル・コルビユジエ氏の設計で高さ21米、幅59米と云ふ全體が硝子の衣で包まれてゐる建物であります。

現代フランスの新興建築家として、又世界に大きな建築運動を呼びかけた、ル・コルビユジエ氏は、一面好き都市計畫家として商業都市建設に對する標準高層建築を模型により提

案してゐます。(第5圖參照)即ち使用材料はスチールと硝子とであつて、其平面は片假名のキの字をした十字形で、建物の凡ての部分に對し、等しく光と空氣とを受け入れるべく工夫されてゐます。



(第1圖) 自動車販賣所

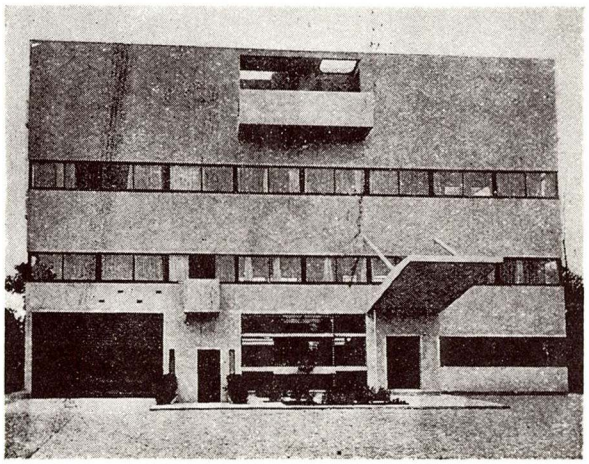
新しい建築の材料は、新しい樣式を要求いたします鐵筋コンクリートの理論が一度び世に公にされるや、それを驅使し、傳統的な潮流の內からフランスの近代建築を開拓し、其の根底を造りましたものは、ペレー兄弟でありますが、彼等は鐵筋コンクリートを純粹な又合理的な方法で之を使用した、所謂構造派の建築家として活動し、一つの新らしい形體を創作してゐます殊に、唯今フヰルムに展開されて居ります。巴里郊外のランシー、及びモンマニーにある二つの敎會堂に於ける創意は、フランスに於てのみならず歐洲各國に於ける此種建築に著しい影響を與へたものとして有名であります。鐵筋コンクリートの最初の注目すべき應用が、それを發見したフランスに於て行はれ、其開拓者は、全く其選定材料と構造とに關して必然的に建築の形體を決定しやうとしたのが覗はれます。

1927 年巴里オートイユの近くに白堊の住宅群が出現し、設計者マレー・ステヴアン氏の名を冠せて其一群をマレー・ステヴアン街と呼び、巴里のどの街よりも淸新の氣に充ちてゐると巴里ツ子は語りつたへてゐます。

最小の貸家で、最大の住心地好さを示す標準化された、ボルドウの郊外にあるペザツクの住宅群。設計者はル・コルビユジエ氏でありまして、此の住宅群の出現した頃から歐羅巴の建築界では、如何にすれば、最小の空間に最少の費用で最大の住心地好さを與へ得る

かの問題、即ち『生活最少限の住宅』についての議論が喧ましくなつてきたのであります。若し皆さんが家を建てやうとなさる時、徒に舊式の參考書を弄り廻すことを止めて、須らく、新しい社會生活を營んでゐる我々は、新しい視覺を以て解決への途を辿る必要があります。フランスの建築家ル・コルビユジエ氏の主張する所は、我々は先づ現代科學を基調として、機械のもつ造形力と、その合理的で、組織的で、秩序的であることを認めて、建築解決の方途としたい。而して運輸交通の機械として陸ゆくものに汽車．電車、自動車があり、空翔るものに飛行機があり、水ゆくものとして汽船がある如く『住むための機械』として住宅を考へなければならぬと云ふのであります。フランスの現代建築は彼の出現によつて、世界の建築界に大きな波紋を畫くに至りました。我々はこれから其のル・コルビユジエ氏の作に成る住宅の若干を見物することに致しませう。斯う云ふ順序で映畫は次第にル・コルビユジエ氏の作品に移つて行くことになります。

先づ巴里近郊のガルシユのヴイラ(第2圖參照)でありますが、其横長の窓は、住む者に光と空氣を充分に供給してゐます。



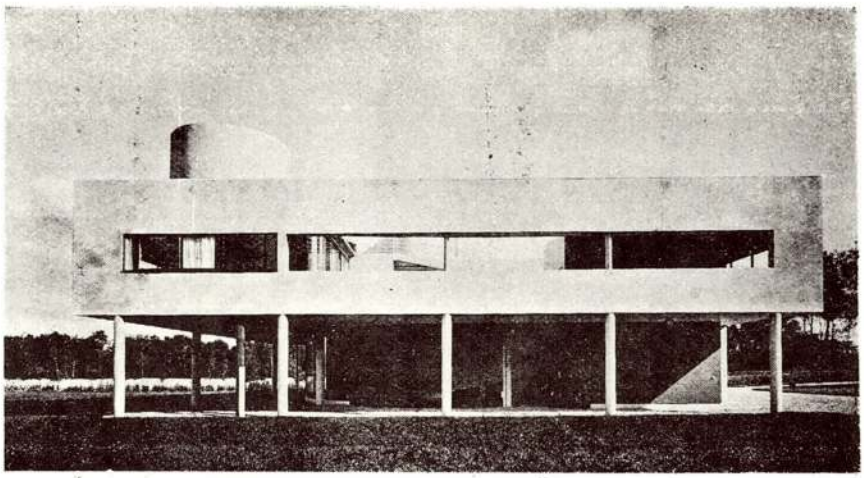
(第2圖)　ガルシユの住宅

是は同じ建物の内部から外を見た所でありまして、光と空氣とに關し、同じ言葉を繰返し得るのであります。屋上から水槽の上部へ通ずる廻り階段を示して、人が、これに登つてゆきますが人間は高い所へ上りたい習癖がありますので、屋根へ上ると、もう一段高い所へ上り度いと云ふ氣になる所が如實に映畫に現れて居ります。(哄笑)

次に映ります建物は公園から僅か離れた所に建てられたものでありますが、建物と自然とが互に融和し合ひまして、相互の價値を一層引立てるやうに努力して居るかのやうに見えて居ります。

次の例はヴイル・ダブレと云ふ所に在る住宅であります。近代建築家は、住心地好くすることの要求と、外觀の融和とを知つてゐます。屋上の庭園、それは庭園が立體的に取扱はれたものでありまして、空地の利用と云ふことになり、在來知られなかつた所の幾多の利便を提供して居ります。然るに、在來の巴里が如何に屋根の利用と云ふことを無視して居つたかと云ふことを簡單に皮肉るために「屋根のある巴里風景」を映つして居ります。それに對して屋上庭園利用の一例として、朝市内へ出勤します前に、家族が寄つて屋上で輕い體操を行ひ、斯くすることによつて、彌が上にも心身は爽かになり、其の日の能率は倍

加されるではないかとて、我々に對し、其の體操的効果と屋上庭園の利用と云ふ



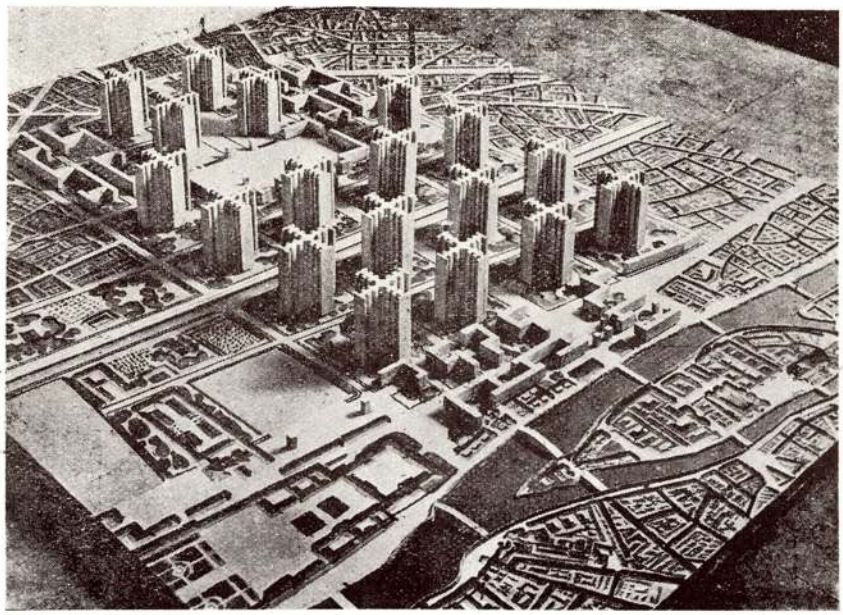
（第3圖）　ポアシーの住宅

ことを効果的に示して居るのであります。

是は 1928—30 年にポアシーといふ所に出來た建物の例（第3圖參照）であつて、從來の建物は何故もつと空氣に當てることをしなかつたのだらうか、又じめじめした土地から救ふことをしなかつたのだらうか、今こゝに現れて居るやうな手法に依つてそれ等の問題は解決が出來得るぢやないか、然るに何故從來の建築家は之を行はなかつたのか、今後は斯う云ふ方面に心を用ひて、在來の不良な狀態を除去する必要があると云ふ、ル・コルビユジエ氏の新しい試みの提案であります。即ち窓を大きく取ることに依つて食堂からの展望を餘程効果的なものとなし、太陽光線が十分に室內に入りますので、最早人工的な光線を必要としなくなつたのであります。屋上の日光室へ通じる緩い傾斜がありますが、それに依つて屋上に出て、我々の體を十分に太陽と空氣とに曝露して可いのであります。それだのに拘らず、巴里の心臟部に當る所には、二十世紀の人間社會に古めかしくも中世紀のやうな慘めな、じめじめした街が殘つて居る、是が我々の誇る『巴里』かと云ふことを皮肉つて居るのであります。で、斯う云ふ不良住宅區を一掃すべく、都市計畫家として、ル・コルビユジエ氏は地圖を擴げて、巴里の西から東へ一線を劃し、市の中央部を占めて居る舊市街の不良區域の破壞と改善を提案するのであります。

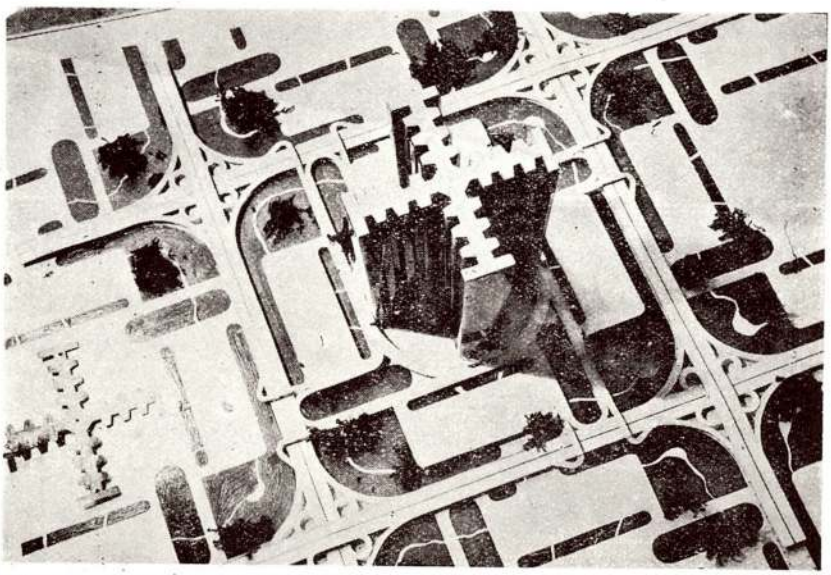
幸福な都市には建築がある。吾々の家屋は街路を作り、街路は都市の動脈を形成する。都市は生命をうけ入れ感じ、惱み、遂には死滅をさへする一個の有機體だと、ル・コルビユジエ氏は考へてゐる。彼は嘗て秋のサロンに人口 400 萬人の理想都市計畫案を提案して、巴里の大改革に就ての運動を起したのであります。

彼の案は、周圍に廣い空地を有つた高層建築の塔——これは先刻彼自身が畫面の上で紹介しました模型がそれであります——から成り、それらの塔は相互に 400 米の間隔を有し其の塔の中には有らゆる奉仕機關を網羅せしめて、金と、時間と、勞力の經濟を圖らうと



（第４圖）　巴里の改造案――模型

云ふのであります。斯くすることに依つて巴里のサンルイ、サンドニールーブルの邊りは全く新しい近代的商業地區になり、同時に周圍の空地には公園のやうに樹木を植え、芝生を設けて、緑の都市とすることにより全市民の顔には元氣が溢れ、巴里は一つの近代都市として再生して來ることになるのであると彼は力説してゐます、（第４圖參照）斯る、明日の理想都市！それこそ巴里のみならず全世界の人々の待ち侘びてゐるところのものでもあります――。（拍手）



（第５圖）　巴里改造案に於ける高層建築――模型

日本に歸れ



中尾保

お見受けするところ、半數は青年建築家(拍手)乃至學生諸君で、あとの半分は一般知識階級の方々のやうでありまして、私は非常に嬉しく存じます。此のやうな席で演壇に立つと、彼れも申上げたい、是れも申上げたいと申上げたい事だらけでありますが、何分本夕はタウト博士の講演が主眼でありますので私共が餘り多くの時間を取ることは、却て失禮に當りますから遺憾ながら時間の許されたる限りだけのお話をいたします。隨つて私の話は何處が頭やら尻つぽやら(拍手)些とも纏りの無い、全で古道具屋の店頭のやうなお話になる譯であります。(拍手)併ながら其の間に何か少しでも共鳴して下さるやうなことがあれば、非常に光榮に存する次第であります。

先程フランスの新興建築の映畵を御覽になりまして、新興建築の一班はお解り——と言ふと、失禮でありますが——お解り下さつたことゝ思ひますが、(拍手哄笑)確にコルビユジエ氏は我々に新しい美くしい建築の形を教へて下さつた恩人であります。それと同時に其の建築界に投げ掛けたテーマは又私共の大に參考となる所であります。但しあれはフランスの話でありまして、あれが佳いからと云つて、あれを其の儘直寫すると云ふことは禁物であります。(拍手)日本とは餘程國情が違つて居ります。所が日本人と云ふものは何に限らず眞似が極めて上手な人種でありまして、是は世界一であります。(拍手)ムーランルージユでミスタンゲツトが「モン・パリ」と唄つたならば、三箇月經たずして、日本では洗濯屋の小僧が自轉車の上でモン・パリを唄つて行くと云ふ風に直ぐ流行するのであります。尤も此の模倣の才能があると云ふことは必ずしも惡いとばかり言へないのでありまして、明治維新から今日まで僅か 60 年そこそこの間に曲りなりにも日本の文化を現在の程度まで引摺り上げた日本國民の才能は實に驚くべきものでありますが、是は即ち眞似が上手で

あつたからであります。或學者は「若し日本人が A. B. C のやうな横文字の世界共通の文字を用ひて居つたならば、恐らくもう世界を統一して居る國民だらう」と云つたことがありますが、非常に優秀な人種だと思はれるのであります。(拍手)これに付て色々な話をすると長くなりますが、第一複雑な生活に堪へ得る素質を有つて居ります。滿員電車に乘つても電車は斯んなものだと思うて居りますし、服裝にしても皆樣は今さう云ふ服裝をして居られますが、家にかへれば繻袍や浴衣も着られる、下駄も穿けば靴も穿く、建築に於てもメートルは勿論のこと、尺も使へば呎、吋も用ひると云ふ譯で、スケールに至るまで非常に複雑なものに堪へ得る實に恐しい國民でありますが、併ながら今日の程度まで文化が進んだ以上最早外國の模倣ばかりして居る時ではなく、日本の文化の獨立を圖らなければならぬのであります、又圖つて必ず成功し得る自信を持つべき時が到來して居るのであります。

所が日本人にはまだまだ西洋崇拜思想があります。是は一面已むを得ないことでもありませうが、先づ此の思想を除いてしまはなければ可けないと思ひます。曾て尊王攘夷と喧しく言つて居つた日本の國民が明治維新になると、盛に外國のものを取入れ、何でも彼でも外國のものは良いものとして、舶來と云へば、良いものゝ代名詞となり、上等舶來珍無類などゝ云ひ(哄笑)反對に悪いものはジヤパン、ジヤパンと云ふのは悪いものゝ代名詞のやうになつたのであります。此の思想が今日までも殘つて居りまして、何でも外國崇拜の傾向があります。例へば、(マア餘計な話でありますが)ミルク•キヤラメルと云ふお菓子があります。あれはミルク•キヤラメルと云ふから、賣れるのであつて、あれを牛乳飴と云つたのでは餘り賣れない、實に頼りないものでありますが、(哄笑)舶來ものゝやうな名が附いてゐなければいけないのでせう。さう云ふ西洋崇拜思想を先づ根絶しなければならぬと思ひます。尤も私共も外國を崇拜して居るやうでありますが、是は建築方面に於きましては外國に偉い人が多いからであります。即ち今晩お話をなさるタウト氏であるとか、或はグロピウス氏であるとか、或はコルビユジエ氏であるとかと云ふ人々の如き、是は外國人であるから崇拜すると云ふのではなくして、人間其者に我々は敬意を拂つて居るのでありますから、其邊はどうかお考へ違ひのないやうにお願ひしたいのであります。(拍手)

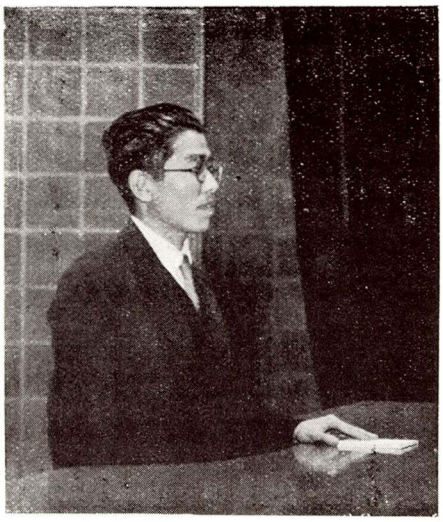
尙ほ話は甚だ駈歩になりますが、近頃はまた西洋かぶれに反對する所謂國粹主義と云ふ反動思想が起つて居ります。成程國粹主義も結構でありますが、其の國粹たるや本當の意味の國粹でなくして、「もう一度丁髷を結はう」と云ふやうなことが國粹であるかの如く思つて居るのは間違ひであります。是が又建築にも非常な害をなして居ります。それに付て話をすると又長くなりますから、止めますが、其の例を擧げると實に枚擧に暇ないくらいでありますが仍ち私が茲た「日本に歸れ」と云ふことは、「もう一度丁髷を結はうぢやないかと云ふことでは斷じてない」と云ふことをハツキリ頭に入れて置かなければならないと思ふのであります。

近次文化と云ふものが段々世界化して來まして、斯うして集りましても、皆さんの冶ど全部が所謂洋服を召して居られます。是は日本でまだ洋服と云ひますが、近頃は服だけでも通つて居ります、斯う云ふ服裝をして靴を穿いて居るのは、即ち我々が世界共通の生活をする一つであります。そして斯う云ふ(朝日會館)建物も以前は西洋建築と云つたのでありますが、此の頃は唯建築で濟むやうであります。斯様に世界は段々共通性を帶びて來て居るのでありますが、是は何故かと云ふと、主として科學の進歩に由るのでありまして、其の結果通信、交通、學問と云つたやうなものが非常に發達し、各國各都市の間が非常に接近され、南米に地震が起ると、4時間經たずして、日本では新聞の號外が出ると云ふやうな次第で、世界が總て一つのものゝやうになつて來ました。隨つて特殊の風俗、特殊の習慣などゝ云ふものは段々消えて行くのであります。例へば有名な和蘭風俗などゝ云ふものも、今日和蘭へ行つても一つも見當りませぬ。一孤島に限られたものとなりました。またロマンチツクなジプシーの姿などもステーヂに殘るだけであります。世界の文化と云ふものは暑々齊しいものとなり、電車の形も汽車の形も其の他の機械も、皆世界中が一つの形になつて來ることはどうしても否むことが出來ないのであります。此の文化の世界化を我々はインターナショナライズと稱へて居りますが、文化がインターナシオナライズすれば、隨つて其處に出來る建築も之に伴はなければならぬのは當然の問題であります。(拍手)もう色々餘計なことを考へる必要の無い時代が來たのでありまして、それが折衷主義であらうと何であらうと、そんなことは問題ではない。(拍手)我々はもつともつと眞劍に建築の本質を考へねばならないのであります。而して茲に考へなければならぬのはローカリチーの問題であります。即ち各國各地方に依つて夫々の特殊性があります。それは風俗の特殊性でなく、主として自然的、地理的な關係でありまして、人間の力ではどうすることも出來ないものであります。例へば日本の本土は北緯50度以南21度以北の間に在り、夏は暑く、冬は寒い、雨の多い島國でありまして、冬になれば風が吹き、濕度の關係は歐米諸國と全然反對で、夏は暑い上に濕度が最も高い時になります。だから、日本の暑さは溫度に示されたる以上に暑い——と云ふより蒸し暑いのであります。又冬は寒流が南下し風が乾燥して居る爲に溫度以上の寒さを感ずるのでありまして、「ひび」「あかぎれ」などゝ云ふのは日本固有の病氣でありますが、其の上に又地震と云ふものに惠まれた國であります。斯う云ふことは歐米諸國と根本から違つて居りまして、試に倫敦を見ますと、北緯約51度の上に在り、日本の樺太のロシヤと境界線でありまして、伯林は51度位、巴里は50度位であります。我が大阪は約31度で、之を歐羅巴の方へ引伸すと、エヂプトに近く、トリポリ、モロツコと阿弗利加地方に行くのでありまして、太陽の光度と云ふ上から考へましても非常に南國的なものであります。仍ち如何に文化は世界化して來ても、日本に於てはさう云ふ特殊性をどうしてこなして行くかと云ふことを眞劍に考慮しなければならない狀態にあります。すべてが歐米諸國と甚しく異つて居るのでありまして、同じ洋服にしても

日本に於ては向ふに於けると同樣ではいけませぬ。大體のプリンシプルは同じやうなものであつても、夏はどう云ふ風にし、冬はどう云ふ風にするかと云ふことを考慮して行かなければならないのであります。其の點に於て私共が日本の古代建築を見ますと、時代にも依りますが、大體に於て日本のローカリチーに卽した、而も少しも衒つた所が無く、非常に眞劍な眞面目さを有つた佳いものが多いのでありまして、私共は日本の數百年或は千年以上も前の日本の古代建築を十分に研究し、之を如何にして近代的に取扱つて行くか、如何にして現代建築の參考にするかと云ふことを考へなければならないのであります。(拍手)殊に日本には歐羅巴に無い程の優れた建築が澤山あるのでありますが、しかし又玆に動もすると或種の人々は錯覺を起すのであります、古代建築が佳いからと云つて、其の儘を直ぐ今日の建築に持つて來やうとするのであります。例へば桂の離宮が非常に佳い、法隆寺が非常に佳いと云ふと、それが佳いからと云つて、法隆寺や桂の離宮の形を取入れやうと云ふので、今日鐵筋コンクリートを以て桂の離宮のカツフエや桂の離宮の學校、桂の離宮のお寺や法隆寺のやうな病院などを拵えて見ても(哄笑)何の役にも立たない。私共が昔のものに美を感じ愉快を感ずると云ふことは、其の機能と、其の技術を遺憾なく發揮して居る點に在るのでありまして、其のものゝ形體其の儘を寫すと云ふことは間違つたことであります。又中には昔の建築物の斷片を今日持つて來て悅んで居る人もあります。例へば何處其處の障子の桟が面白いからと云つて、鐵でさう云ふ障子を拵えたり、或は何處其處の墓股が佳い形だからと云つて、鐵筋コンクリートの建物にさうした墓股を造つたり、或は桝肘木をコンクリートで造つたりすることは、我々の先祖が遺された精神を酌まないものでありまして、先祖は地下で泣かれるかも知れないのであります。仍ちさう云ふ點をハツキリ頭に入れて置いて、今晩のタウト博士の講演もお聽き下さらないと、うつかりすればはき違へるやうなことが起りますから、私は老婆心ながら一寸御注意を申上げて置くのであります。時間が來ましたので今晩はこの邊で止めておきます。

甚だ纏らない話を申上げましたが、又何時か機會を得て、思ふ存分お話することに致したいと思ひます。(拍手)

神話より空想へ



瀧　澤　眞　弓

×

「神話より空想へ」と云ふ、責任が有るのか無いのか分らないやうな標題を掲げましたが其の點は追々と御諒察を願ふことゝ致しまして、之れより「建築とは何ぞや」と云ふ問題に就いて昔から人々はどんな風な事を考へて來たかと云ふこと、つまり所謂「建築觀」なるものの變遷を主題（テーマ）として約三十分間ばかり御清聽を煩したいと存じます。

古來、いかなる民族でもさうでありませうが、我日本でも最も古い記錄として古事記に就て見るも、伊邪那岐、伊邪那美の命が最初に行はれた所の技術的な御營みは八尋殿を建てられたと云ふことであります。即ち人類の生活が始まつて先づ 第一」に行はれる仕事はアルキテクトニアであつたらうと思はれます。

西洋の建築史上、否むしろ、建築觀の歷史上に建築とは何ぞやと云ふ問題が始めて學問らしい形で出て來るのは、恐らく希臘のアリストテレスの「形而上學」即ち「メタフイジカ」に於てゞあらうと思はれます。この大哲學者が「第一原理」即ち「アルケー」と云ふ問題を取扱つた中に、建築術は――即ち希臘語のアルキテクトニア――は有らゆる技術の中に於て最も指導的位置を有つて居るものだと云ふ意味のことを述べて居ります。

途中を省きまして、凡そ建築論の最も華やかなりし頃は何時かと申しますと、今より約百年ばかり前の獨逸を中心とする所謂ローマン派時代でありませう。茲に掲げましたのは當時に於ける佛蘭西第一の建築學者にして且技術家であつたヴイオレ・リユ・デユツクの言葉であります。英語に飜譯してありますが、彼はその「建築學講話」の冒頭に於て「木の枝を組合せて造つたものは藝術の仲間に入れることは出來ない。土の中へ洞穴を堀る事によつて、はじめて藝術的な建築が始まる」と云ふ意味のことを云つて居ります。つまり、何

Building a hat with branches of trees is not Art; this is merely supplying of material want. But to hollow out a dwelling in declivity of soft rock; — to divide the excavation into compartments of different sizes ....; — to lieve pillars for the support of ceiling, ..., — this is Art.

from "Lecture on Architecture"
by Viollet-le-Duc (1814—79)

のことはない、言はゞ木の枝に巣くふ鳥は藝術家になれさうもないけれども、土に穴を堀る所のイタチやモグラモチは如何にも藝術家らしいと云ふことになるのでありませう。先づ西洋人の建築觀なるものには多かれ少なかれ、斯ういふ傾向があるのです。今日では大分變つて來ましたが、今までの所では、彫刻的でなければ首肯しないといふ氣持があつたのです。そして、斯んな所にも、日本建築などに對する、所謂「ニンシキフソク」がひそんでゐたのであります。（拍手）

ローマン派中のローマン派は御承知の如くドイツのローマン派でありますが、彼等が最後に到達した所の建築に關する結論は玆に示した「凍れる音樂」"Gefrorene Musik" といふ、詩のやうな、定義みたやうな表現でありました。然かも此の言葉は此の圖の右肩に書きましたやうに、誰が言ひ出したかといふ事がよく問題となつたものです。まづゲーテの言葉だといふのです。それは無理もないことでありまして、彼の秘書役であつたエツケルマンの「ゲーテとの對話」にちやんと、ゲーテ自らが古い原稿の中に書いて置いたことになつてゐるからです。所が閨秀詩人リカルダ・フツフの「ロマンチーク」と云ふ著述に依りますと、之れはウヰルヘルム・シユレーゲルがはじめて言ひ出したものであると明記されて居ります。然るに數



年前ドイツの某雑誌に於て（多分 Innen Dekoration 誌であつたやうに記憶しますが）シューラア博士の論ぜられた所に依りますと、是は獨逸に於ても相當學界の問題になつて、結局本家はシエリングだといふことになつたさうです。若し私が今晩更めて其の本家爭ひを問題にいたしますならば或は恐らく獨逸ロマンチークの驍將を總動員しなければならぬ事にもなりませう。それ程此の言葉は問題的であり有名なものです。そしてその感化は唯に當時に於けるのみならず百年後に於てもなほかつ大なるものがあります。論より證據、歐洲大戰直後のドイツの表現派に於て見出す事が出來ます。此の圖（前頁）の眞中のはその一例です。

× ×

只今ゲーテの話を持ち出しましたが、現代に於ける獨逸第一の文豪と言はれるゲルハルト・ハウプトマン。彼を、誇張する人は、現代に於けるゲーテだなどゝ申して居ります。昨年滿七十歳の誕辰を迎へた折はドイツでは殆んど全國的に祝つたかの觀がありました。彼は今から十餘年前ギリシヤへ旅行して歸國してから其の紀行文「ギリシヤの春」"Griechischer Frühling" と云ふ著書を發表して居りますが其の中に於て彼はパルテノンに參詣した折その建築の威力に壓倒された心持を述べてゐます。曰く「パルテノンの有樣はどうか。言つて見るならば、



dunkle Bewußtſein, als ob etwa über die Säulen des Parthenon von da ab, als man ſie wieder zu achten anfing, ſehr viel Berauſchtes verfaßt worden wäre. Und doch glaubte ich nicht, daß es viele gibt, die von den Quellen der Berauſchung trunken geweſen ſind, die wirklich im Parthenon ihren Urſprung haben.

Wie der Parthenon jetzt iſt, ſo heißt ſeine Formel: Kraft und Ernſt! Davon iſt die Kraft faſt bis zur Drohung, der Ernſt faſt bis zur Härte geſteigert. Die Sprache der Formen iſt ſo beſtimmt, daß ich nicht einmal glauben kann, es ſei durch die frühere, bunte Bemalung ihrem Ausdruck etwas genommen worden.

Ich habe das ſchwächliche Griechiſieren, die blutloſe Liebe zu einem blutloſen Griechentum niemals leiden mögen. Deshalb ſchreckt es mich auch nicht ab, mir die doriſchen Tempel bunt und in einer für manche Begriffe barbariſchen Weiſe bemalt zu denken. Ja, mit einer gewiſſen Schadenfreude gönne ich das den Zärtlingen. Ich nehme an, es gab dem architektoniſchen

其の法式は力と嚴肅！其の力は殆ど威壓にまで、其の嚴肅は殆ど苛酷にまで」と云つて居ります。永年憧れてやつて來た老文豪の感激思ひやるべきです。所が彼は――三月に國を立つて四月にアテネを訪れ、それより五月に掛けて「ギリシヤの春」を心ゆくまで觀照しながら旅を續けたのでありますが――其の旅も終りに近づいてスパルタを訪ねる途上に一軒の宿屋(掛茶屋)へ立寄る事となります。然るにその宿屋は、彼の記述によれば「歩くと床がユラユラ動き、茅葺の屋根を支へて居るのは細い木の柱で、二階の床板は煎餅のやうに薄く、而も指の太さ程の隙間が開いてゐて下にゐる連中が覗かれる」と云ふ有樣でした。所で、諸君、ハウプトマンの言葉によれば、この宿屋は「何となく日本の佛がある」と云つて居りますよ。諸君、獨逸の宰相ヒツトラーは今やあらゆる反獨逸的な書物を焚き棄てることにしたと云ふことであります。然かもそれは今日此の日です。多分今頃は盛んにやつて居るでありませう。若し日本にもヒツトラーのやうな勇ましい大臣が就任したならば此のハウプトマンの書物の如きは多分火に投ぜられる事にもなりませう。證據は之れこの通り！原文を御覽下さい。

私は此處にアンダーラインを引きましたが悲憤慷慨の餘り思はずギユツとやつたので、「日本の」といふ所が抹殺されさうになりました。(笑聲)私は先に「床板はセンベイのやうだ」と言ひましたが原文では「オブラート」と書いてあります。(笑聲)さて、今や時はあたかも春五月、ブルノー・タウト先生は「日本の春」を心ゆくまで味はれて居られる次第でありますが、歸國されたら、筆まめな先生の事だから屹度又著書が出來る事と存じます。言はず "Japanischer Frühling" von Dr. Bruno Taut なんていふものですね。其時に先生が「日本的」なものについて如何なる解釋を下されるでせうか。吾々は此點を只今から十分監視する必要があると思ひます。(笑聲・拍手)所で私は先生に一言御注意申上げたいと思ふ事があります。前揭のハウプトマンの文章にスパルタと書いてありました。スパルタ

herrſcht. Der Himmel glüht in einer faſt weißen Glut. Hügelige Abhänge in der Nähe, von Olivenhainen beſtanden, erſcheinen ausgebrannt.

Unſere Herberge hat etwas Japaniſches. Das Schilfdach über der ſchwankenden Veranda, auf der wir ſtehen, iſt durch dünne Stangen geſtützt. Unten klingeln die müden Pferde mit ihren Halsglöckchen. Die trinkfrohen Lehrer aus Sparta haben uns eingeholt und ſitzen lärmend unten im Gaſtzimmer. Wir werden in ein oberes Zimmer geführt, deſſen Dielen dünn wie Oblaten ſind. Durch fingerbreite Fugen zwiſchen den Brettern können wir zu den Lehrern hinabblicken. Der Kurier trägt ein Frühſtück auf. Indeſſen ſchwelgen die Augen und ruhen zugleich im jungen Blättergrün eines Pappelbaums, der, vom heißen Winde bewegt, jenſeits der Straße ſchwankt und rauſcht.

Nachdem wir gegeſſen haben, ruhen wir auf der Veranda aus. Bei jedem Schritt, den wir etwa tun, ſchaukelt die ganze

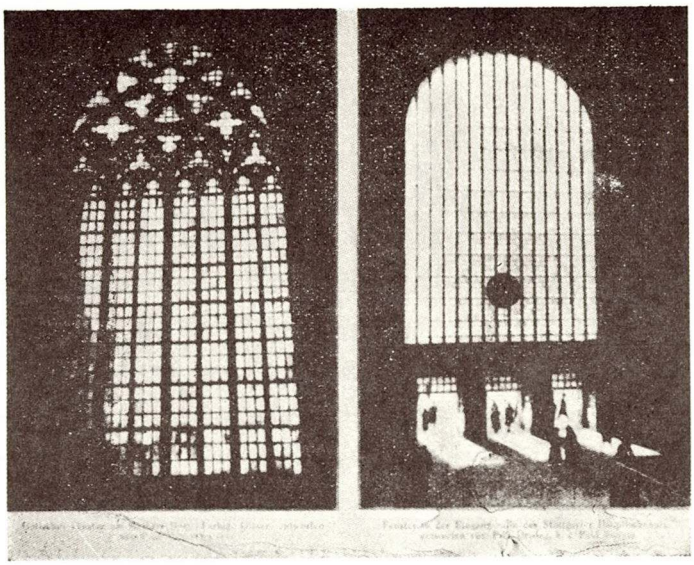
は彼にとつて固より憧れの地です。さて御承知の如くスパルタの武士は非常に簡單明瞭を尚んだものでありまして、由來スパルタの土地ラコニアの地名から轉じたラコニツシュと云ふ言葉は簡單明瞭と云ふ意味になつて居ります。さう云ふ意味に於て日本的なものゝ有つ第一の特色はラコニツシュだといふ事です。ついで乍らこのハウプトマンの「ギリシヤの春」はゲーテの「伊太利紀行」に比せられる程有名なものです。そのスケールに於て、或はゲーテに及ばぬまでも、その哲學的な深みに於てはゲーテ以上ではないかと思はれます。就中其の最も敬服すべき點は、彼が古代ギリシヤの文化に對して、わけてその神話に對して深い理解を有ち、之を新しい解釋の下に取上げて、文化批評をやつて居る事であります。若しも茲に一人の西洋人があつて日本の文化を根本的に理解しようとするならば、彼も亦日本の神話の精神から出發しなければならぬ筈であります。日本建築に就ても全く同樣です。そこで私は古事記の中から此處に示すやうな一節を紹介いたします。之は固より言はゞ象徴的な詩でありまして、必ずしも建築そのものゝ記錄とは言へぬのでありますが、能く味はつて見ると、なかなか味のある一節であります。然かも注意すべきは之が雄畧天皇の項に出て居るといふ事です。建築術の上に最も多くの問題を遺された帝の項に出てゐるといふ事は十分問題にする價値があるのであります。此の詩の精神は即ち神社建築の精神であり、やがて茶室建築の精神であります。しかもなほ其れが我々モダン日本のアーキテクトの精神の中にも何所かにひそんでゐると私は考へるのであります。（拍手）

（古事記）

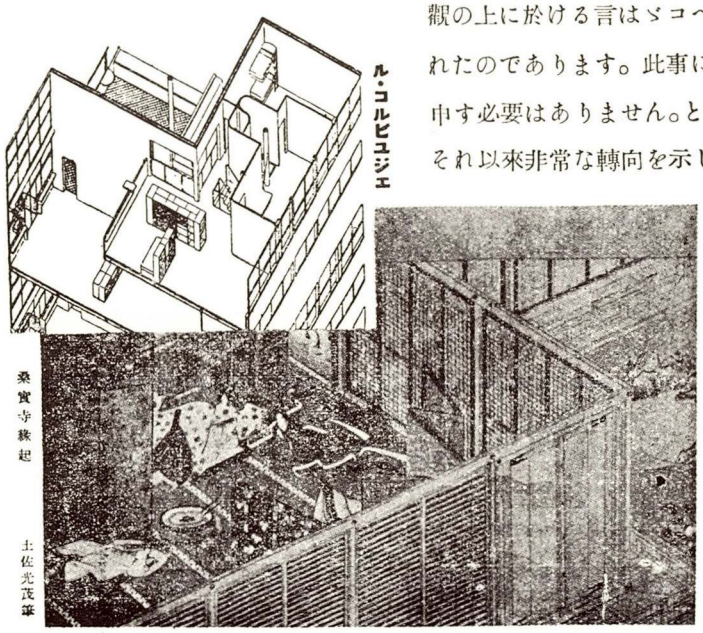
まきむくの、日代の宮は、
朝日の、日照る宮、
夕日の、日かげる宮、
竹の根の、根足る宮、
木の根の、根延ふ宮、
八百土よし、い杵築の宮、
真木さく、檜の御門、
、、、、、、

×　　×　　×

今言つたやうな日本的な——つまり Japanisch な——ものから更にもう一遍眼を西洋の世界に轉じて見ませう。恐らく昔から、そして歐洲大戰以來近年までも、西洋人が發表した所の多くの建築樣式論を見ますとヨーロツパ樣式とは取りも直さずゴチイク樣式だといふ主張が見られます。其の中でも特に獨逸人などの書いて居る所を見ますと、「ゴチイク」それは取も直さずドイツ的（ゲルマニツシュ）なものであると云ふ意氣が窺はれます。例へばヴエルフリンと云ふ美術史家の建築樣式論、特に「イタリア及びドイツ的形式感」、或は一時世界的なセンセイションを惹起したシユペングラアの「西洋の沒落」或はヴオルリンガ



アの「ゴチイクの形式問題」或はカアル•シエツフラアの「ゴチークの精神」などゝいふ書物を通じて見ますと、ゴチイクの様式こそは獨逸的精神の發現であると云はんばかりであります。たしかにまた、それは首肯される事でもあります。こゝに映しました寫眞は約十年前に出來た、そして實にその當時のモダーン建築であつた所の獨逸のストウツツガルト停車場、それとゴチイクのものです。如何にも其れ等はドイツ的精神のものです。言はゞ「ドイツチエ•イデオロギー的建築様式」とでも言ひ度い所であります。ゴチイク、ローマン派、表現派。之がかつてのドイツ的な様式でありました。所がやがて新しい建築觀が現れて來ました。フランスのル•コルビユジエの如き天才建築家が「建築は住む爲の機械だ」と喝破してしまつたのです。曾ては藝術と云ふやうなものにとつては相反的な要素だと考へられてゐた所の機械が積極的に導入されて、建築觀の上に於ける言はゞコペルニクス的轉回が行はれたのであります。此事については今更事新しく申す必要はありません。とにかく西歐の新建築は、それ以來非常な轉向を示してゐます。しかも聞く所によればコルビユジエは少なからぬ暗示を日本建築から得てゐるといふことです。次の寫眞を御覽下さい。之を見ますと、コルビユジエの行き方と日本の古い技術的様式との間には必ずや關聯があら



ル・コルビユジエ

桑實寺繪起　土佐光茂筆

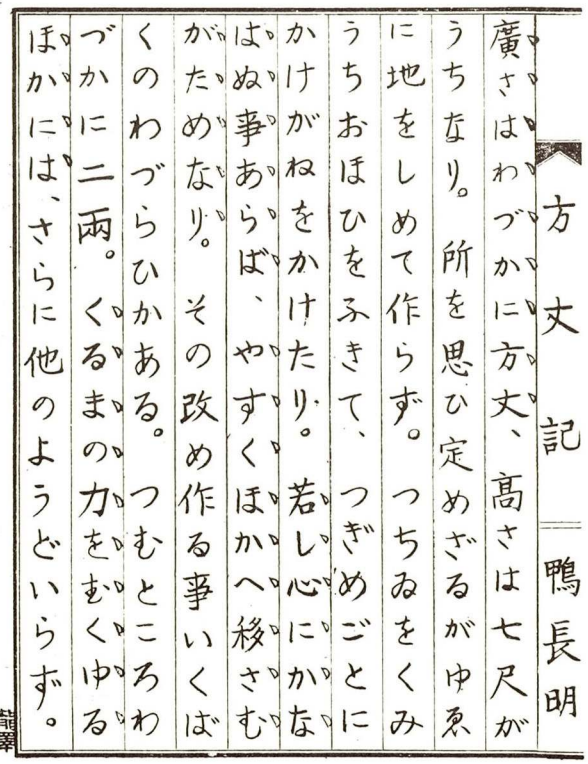
うと云ふ推測が起るでせう。次にもう少し確實な公平な材料を擧げて見ませう——と云ふのは、私が日本人だから、日本の建築を讃美すると云ふのでは何にもなりませぬ。又同時にフランス人以外の人のものをです——之は Paul Nash といふ英國人の書いた、而も建築專門の書物とは稍々趣を異にした「書物と部屋」"Book and Room" と云ふ昨年出版された書物中の一節であります。日本の室内とモダン・フランスの室内とは非常に似て居ると云ふことを述べて居ります。此の書の他の箇所にもいろいろ日本の事を述べて居ります。無論然うだからと云つて何も別に悦ぶ必要はありませぬが、兎に角之れなどは第三者としての公平な見方でないかと考へます。つまり、あの重々しいドイツ的樣式よりは日本の「細い柱、うすい床」の方がモダンでシークだといふ事になるのであります。

× × × ×

話の初めにあげました、ヴイオレ・リュ・デュツクの建築觀に暗示されるが如く西洋流の建築は由來、石や煉瓦の建物から始まつたものです。ギリシヤの大理石、羅馬のコンクリート、中世紀の煉瓦、乃至は近代の鐵筋コンクリートにしましても要するにそれは「壁の建築」であります。近頃よく言はれるドイツ語の "Mauer-bau" です。斯かる先行條件の下に嚴然たる構造理論が成立して居ります。所が今日、斯界には既に鐵筋コンクリート造なるものに對して疑惑の念がかもされかけたのではないでせうか。尤も、私が今こんな事を申しますと、鐵筋コンクリート構造なるものが未だ歷史的の評價さへも經ないのに輕率にも、何をタワケた事を申すかと言はれるお方もあるかも知れませぬ。が、少くとも鐵筋コンクリート構造が人類の辿り着いた最後のものだとは、どうしても考へられないのであります。唯、今日はまだそれ以上によい構造が見つからぬから、暫くは其れを勉强するのです。とにかく吾々は從來さう云ふ壁體建築の原理を一生懸命に勉强して來ました。之れに對して吾々日本人は一方に於て古代からの木造建築——細い棒を組立てる構造——を有つて居ります。所が近頃新しい一つの研究題目として「乾燥式の組立て建築法」なるものが唱へられて居ります。所謂 "Trocken-montage-bau" です。

it is noticeable that the most successful modern interiors are distinguished by austerity rather than exuberance. Professor Herbert Read, discussing the subject in an article in a recent number of the *Listener*, pointed out the strange similarity between a Japanese interior and a modern French room. Mr Wells-Coates has given us something of the same kind to consider in a note in the *Architectural Journal* in 'Inspiration from Japan'. Both writers have been struck by the principles of formal arrangement which obviously underlie the composition of the Eastern room and our modern interiors. There is, of course, one great disparity, for, whereas the Japanese room is the expression of an unvarying tradition, our rooms are, and will always be, the

いつたい今日のコンクリートの建物の壽命が終つた時にそれを取壞すのにはどうしたらよいかと云ふことを、吾々は今から考へて置く必要はないか。社會が進歩し、人間の生活が變化して來た場合、何時までも不變不動の鐵筋コンクリートの樣式の硬い殻の中に閉ぢ籠められて居るのが幸福であるか。若しも歷史的現實が建物を改造乃至解消を要求する場合には其の建物を遠慮なく取壞して、更に新しい建物を建てれば可いぢやないか。斯う云ふ風になつて來て、恐らく建築技術に於ける所の最後の幽靈は取除かれようとして居るのであります。ではその最後の幽靈とは何か。それは建築に對する永遠性への信仰、即ち「記念碑性」(モニユメンタリテイ)とでも言ふべきものです。建築が住むための機械であるべきならば、機械も亦古くなつて不要になる事を考へねばなりますまい。それには在來の壁體本位の建築は却つて不適當ではないか。そこで、組立式の建築と云ふやうなものが將來の建築の方向を暗示するものでないかと考へます。丁度我々の日常の新聞や雜誌がその役目を果せば、直ちに片附けられ、又は惜しげもなく棄て去られるやうに、建築物も其の使命を果したならば、遠慮なく改築さるべきです。今後は其所まで徹底すべきではないかと考へるのであります。そこで將來は建築構造學に對立して「建築解消學」といふ講座が出來ませう。(笑聲)まあ、とにかく、私は斯んな空想を夢みつゝこゝに一つの公式を考へて居るのであります。それは明治以後の日本人に課せられ來た所のテーゼとしての西洋式「壁體建築」。之に對して反テーゼとして日本古來の木造の「組立建築」。そして綜合テーゼとして「乾燥式組立建築」です。斯んな事を考へてゐるうちにもう一遍古い我々の祖先の心持が何となく懷かしく思ひ出されて來るのであります。といふのは鴨長明の方丈記です。


方丈記　鴨長明

廣さはわづかに方丈、高さは七尺がうちなり。所を思ひ定めざるがゆゑに地をしめて作らず。つちねをくみうちおほひをふきて、つぎめごとにかけがねをかけたり。若し心にかなはぬ事あらば、やすくほかへ移さむがためなり。その改め作る事いくばくのわづらひかある。つむところわづかに二兩。くるまの力をむくゆるほかには、さらに他のようどいらず。

瀧澤

固より鴨長明は山の中へ遁避した人生の敗者です。しかも彼の建築と、その建築觀とには、歷史的に見て前に古事記の精神があり、後には、やがて起つて來た所の茶室の世界があります。方丈は、禪家の手によつて四帖半茶席となります。之は言はゞ今日の所謂「生活最小限の住居」觀の先驅とも言ふべく、又古人の住居に對する態度の方が却つて現代人の新聞雜誌に對する如く

ではなかつたかとさへ思はれます。尤もそれは、言はゞ「ルンペン的」であつたので、今日のやうに社會的乃至合理的でなかつたといふ點に問題はあります」

× × × × ×

此邊の所までゞ今晩申上げたい事は一應つくしたつもりです。が未だ時間が少々ありますから結論を含めて少しくつゞけさせていたゞきませう　さて私は、今晩の話を「建築とは何か」といふ課題から始めました。それがアリストテレスの「アルケー」から、ローマン派の「凍れる音樂觀」となり、遂に現代の「住む機械」となつたといふ次第です。其の他多くのエピゴーネン達は樣々の定義を下して居りませうが、結局斯樣な風にして「建築とは何ぞや」と云ふ問題は永久に流動してゐました。最後の「イデア」を摑んだと思つた時には、もう事實としての建築はその「姿」を變へてしまふのです。それが歷史だから、それでよいのです。しかしそれでも、何か、もつと歷史を貫く「建築觀」はないものか。といふ最後の期待が殘ります。實は數年前、私はその事で色々暗中模索を致しました結果、偶然にも私の此の期待に略々合ふ所の言葉を一つ發見したのであります。それは有名なカントの「純粹理性批判」の一節です。その書の終り近くに「純粹理性の建築術」といふ一項があまりして、吾人の理性の活きを建築術に擬へて考へてゐます。即ち彼は建築術を以て「組織の技術」、或は「體系の技術」と提案して居るのであります。尤も近頃ではカントなど引合に出すと「何だ觀念論の家元か」などゝ言はれて、或人々からは頭ごなしの有樣ですが矢張り大哲カントは流石親爺ぢやわいと考へさせられる所もあるといふわけです。大分語弊もありますが、何とはなしに、下世話の「腐つても鯛」とかいふ諺が思ひ出されます。（笑聲）さてこのカントの言葉からでありますが、吾々は建築術の問題に關しましても日本文化といふ事について、深く自ら顧みる要があると存じます。先に、日本の建築が西洋人に教へる所があつた由申しました。それは吾々の祖先の賜です。しかし吾々は之について決して甘へてはならぬのです。成程日本人のやつて來た所は、時には西洋人に教へる所があつたかも知れない。しかし、日本人のやつて來た所は常に、直觀的であつて、決して論理的ではなかつた。衝動的ではあつても體系的・組織的ではなかつたのです。然ういふ點で吾々は大いに西洋人から學ぶ必要がありはしないか。特に體系組織の天才である所の獨逸人に學ぶ所がありはしないかと思ふのであります。茲に今晩現代ドイツの最大建築家の一人ブルノ・タウト先生を迎ふるに當つて特にその感を强くするものであります。

[860]

Der

transscendentalen Methodenlehre

Drittes Hauptstück.

Die

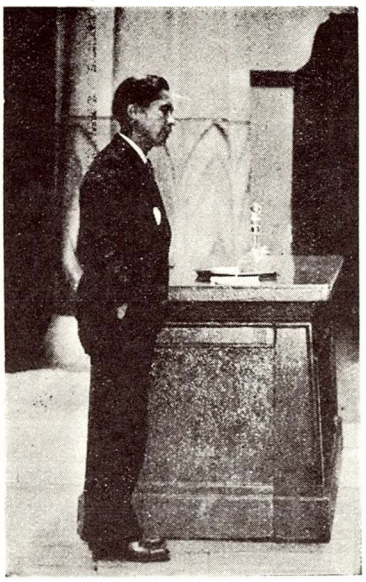
Architektonik der reinen Vernunft.

Ich verstehe unter einer Architektonik die Kunst der Systeme. Weil die systematische Einheit dasjenige ist, was gemeine Erkenntniss allererst zur Wissenschaft, d. i. aus einem blossen Aggregat derselben ein System macht, so ist Architektonik die Lehre des scientifischen[b]) in

a) Erste Ausg. „den“ (der sing.: S. 690 unten u. S. 691).
b) org. „Vernunftbegriffs“; zweite Ausg. „des Scientifischen“, verb. nach d. ersten, in der wohl das zu ergänzende subst. ausgefallen ist.

空想が終ると話が少々現實的になりました。本音が出たわけです。まあこの邊で以て御勘辨を願ひたいと存じます。（拍手）

（註）　挿入の圖版は當夜幻燈にて示したものと同一の寫眞である。



日本に於ける折衷主義建築の功禍

村野藤吾

唯今司會者から私が曾てロシヤに參りました時にロシヤの建築を研究して來て、さうした建物が今度御堂筋に出來ると云ふやうなお話がありましたが、御承知の如く日本とロシヤとは經濟其の他社會機構を異にして居りまして、それ等の條件を異にして居る國から我々が何を採つて可いかと云ふことは頗る疑問でありますし、又大に研究すべきことであらうと思ひます。併ながら私が今晩お話し申上げたいと思ひますことは、それ等の問題ではありませぬ　過去二十年間我々の同僚及び先輩達が日本に於てなされた所の其の努力に對して敬意と同情を以て其の業績を回顧し、同時にそれ等の努力が將來日本の新しい建築を生むではないかと云ふ私の考への下に今晩の題目を選んだのであります。（拍手）

私は曾てフランクフルトに參りまして、御承知でもありませうが、今のノイエ・シユタツト、即ち當時のノイエ・フランクフルトの編輯者でありましたガントナー氏にお目に掛かりました際、私は其の時はあちらに居りまして知らなかつたのでありますが、ノイトラ氏が日本に來朝されて當時集められた色々の文献をガントナー氏に送られて、其の雜誌に載せられたのを私に示され、日本の新しい建築の傾向に付て色々と話されたことがあります。私はノイトラ氏の來朝に依つて日本に新しい傾向の建築が起り、又現に起りつゝあると云ふことに付て世界に其の存在を知られたことに對して非常な敬意を拂つて居りますがそれ等の新しい建築が何故に日本に起つたかと云ふことや、日本の折衷主義建築の事などに付て、タウト氏の御來阪を迎へた今夕、此處にもう一度申上げる機會を得ましたことは私の非常に光榮とし、同時に諸君にも共に此の光榮に浴して戴きたいと存する次第であります。（拍手）

そこで私が折衷主義の建築と申しますのは、過去二十年間、即ち大正の中期から今日ま

で引續いて建てられ、或は建てられつゝある所の各國の樣式を採つた建築或は其の後日本に於て次第に轉化しつゝある所の主としてスタイリツシユな建築に付てゞあります。

御承知の如く日本に初めて樣式的な建築が入りましたのは、歐羅巴に於ける所謂折衷主義の建築が行はれた時代からであつたと私は承知して居ります。其の後日本の建築は色々と變つて來ましたけれども、其の日本の建築なるものは、私の考へでは其の時々の外國の影響を受けて變化したとは想はれないのであります。即ち日本の建築は日本獨自の社會機構と經濟的要求の下に變化して居るのではないかと想像して居りますが、此の考へは或は誤つて居るかも分りませぬ。御承知の如く折衷主義なるものは各國とも略々十九世紀の終或は二十世紀の初頭に於て其の命脈は絶えて居ると私は思ふのであります。又歷史は我々にさう告げて居るのであります。唯其の例外として、イギリスが今日も猶ほ折衷主義を保つて居るのでありまして、是はあゝ云ふ傳統を尙ぶ國柄として當然でありませうが、それさへも次第に其の命脈は絶えつゝあるのでないかと思ひます。然るに尙ほ例外としてアメリカは長い間折衷主義の建築が行はれて居りまして、今日に於ては稍々獨、佛の影響を受けて幾らか折衷主義の傾向から離れて居るでありませうが、其の根本に於ては依然として折衷主義的であります。併し其の內容或は其の傾向の動き方と云ふものは、主として經濟的な、即ち私に言はせれば、非常に唯物的な傾向を辿つて變化しつゝあるのでないかと思ひます。日本の建築も亦一般には折衷主義と云はれて居りますが、是は所謂便宜上の名稱であります。唯今も申上げました通り、眞の折衷主義なるものは既に其の命脈を絶つて居りまして、日本の折衷主義なるものは日本獨特の方法、日本獨特の變化の仕方に依つて今日まで變化し或は建てられつゝあるのではないかと私は想像して居るのであります。

然るに日本の折衷主義の建築なるものは今日まで新興建築家諸君及び新興的精神に燃えて居る人々から非常な非難を受けて居つたやうに考へます。即ち其の傾向の誤れる點を數々指摘されたことを私共は日常耳にし或は色々の文獻に依つて知らせられて居るのであります。惟ふに是等の考へ方は、過去十三四年前私共の學生時代の頃から勃興して來た所の所謂建築革命の思想、セセツシヨンの思想なるものが學校教育の一般的方針となつて、其の歷史學の教程の上に非常な變化を與へつゝ、それ等の學生を今日まで教育して來た爲であらうかと思ひます。然るにそれ等の思想、それ等の教育、それ等の學問的立場が果して日本の實情に即した批評を我々に與へて呉れたであらうかと云ふことを今日に於て考へて見ますと、私共は學校教育なるものに對して一つの疑問を有つやうな氣持にさへもなるのであります。兎も角もそれ等の思想と云ふものは最近に於て一面には文藝的な或は所謂社會的な側面的影響を受けて、可なり酷く批評された樣に思ひますが、果してそれ等の批評が適當であつたかどうかと云ふことを一應檢討して見る必要があるのではないかと考へます。それは眞の新興建築なるものは斯樣な批評或は斯樣な考への下に決して起り得ない、若くは起るべきものではなからうと云ふ私の豫感の下に私は之を申上げるのであります。

そこで先づ第一に私の考へを元に戻しまして、日本の折衷主義なるものは果してどう云ふ狀態にあつたかと云ふことをもう一度諸君と共に考へて見たいと思ひます。而して私は之を假に功利的な方面と、我々の視覺に愬へ、感觸に愬へる問題との二つに分けて考へて見やうと思ひます。

功利的な問題に付て之を又假に三つばかりに分けまして、日本の折衷主義の建築なるものは近代生活と相容れなかつたかどうか——日本の折衷主義の建築なるものは經濟機構及び利便即ち便利さと相容れなかつたかどうか——もう一つ日本の折衷主義の建築なるものは其の機械的設備及び近代的な色々な內部的設備が缺けて居たかどうか、と云ふことを考へて見ますと、私は是等の條件は完全に備つて居るとは申し兼ねますけれども、最近は可なり立派なもので、其の設備なり或は其の用途に對して大體缺げる所はないと存じて居ります。而して是等三つの條件と云ふものは、取りも直さず我々がモダーンな——と言ふと語弊がありますけれども、所謂新興建築に求める所の條件でありまして、我々は新興建築に對しても同樣に是丈の條件は缺ぐべからざるものでるあると云ふ意見を有つて居るのであります。仍ち果して日本の折衷主義の建築なるものが是等の條件を具有して居るとするならば、それ等の建築に對する功利的な批難をなし得る餘地は無いやうに考へられます。で、是は私が外國へ行つて見てからの感想でありますが、私は曾て佐藤功一先生に向つて日本の折衷主義の建築は世界無比であると云ふことを申上げたことがあります。それが果して最も優れて居るかどうかは問題でありませうけれども、少くとも我々の同僚及び先輩達の爲された所は左程誤つた途を辿つて居るものでないと云ふことを私は熟々と考へて居ります。歐米へ行かれたお方は御承知でありませうが、アメリカは特別の事情がありますから、除外いたしまして、歐羅巴に於ける如何なる國の建築に對比しても、其の功利的方面の點に於ては日本の建築は決して缺げて居ない、少しも遜色は無いのでありまして、是等の點に於ては今後と雖も一層發展するのでないかと云ふやうな私は考を有つて居るのであります。即ち唯今申しました所へ私の考を進めますならば、今日までの日本の折衷主義の建築なるものは功利的方面ではあまり批難する餘地はなからうかと存するのであります。そこで熟々考へて見ますのに、是等の建築に對する批難と云ふものは主として視覺的方面、我々の感觸に於ける批難ではなからうかと思ふのであります。併ながら此の點に於ては日本の所謂新しい建築、新興建築と稱せられて居るものに付ても亦同樣に批難せらるべきではないかと存じて居ます。（拍手）

そこで更に話頭を轉じまして、然らば建築の美と云ふものはどうかと云ふことを考へて見ることが必要であらうと思ひます。是等の美に付て我々は色々の方面から教へを受け、其の說を聽いて居りますが、そのうちから私は、茲に、便宜上或書物の中から之を拔萃いたしますと、建築の美は第一功利的結果から自然に生するもの、第二功利的局限の中で意識して求めた美であり、第三は表現の美であると云はれ、又之を稍々所謂イデオロギー的

に申上げるならば、即ち社會的或は階級的と申上げても可いであらうと思ひます。其の他色々と考へられませうが、是等の美の考へ方に付て考察して見ますのに、それは主として主觀的な問題、建築それ自身の美の哲學的な解釋ではないかと思はれることが多いのではないかと存じます。それならば我々が之を美と感じ、之に對して一種の感觸を覺えると云ふことは、それに對立した或ものがあるべきであります。例へば茲に能く磨かれた床があり、或は程好く暖められた部屋があるとして、それに對して我々が美を感すると云ふことは、其の對立するものとの間に何等か測定すべきものがないかと云ふことを感ずるのであります。又私は此の喰違ひ、此の對立するものとの間に於ける作用を今日何等かの方法で現す必要はないかと云ふことを感ずるのでありまして、是は即ち經濟價値として現はれて居るのでないかと云ふ風に考へますと、私が豫て考へて居りました商業的な、經濟的な價値と云ふやうな問題に觸れるのではなからうかと思ひます。例へば茲に非常に裝飾をされた建築があるとして、我々は建築は裝飾するものではない、裸で可いものだと考へて居ると假定し、又別に裝飾のあつた方が可い、裝飾を施すことに依つて、それ等の建物の價値を增し、所謂大衆に對して其の關心を喚び起すことが出來ると云ふ風に考へる者があると致します。其の場合に裝飾が無くしてそれ等の價値が多くなれば、それは我々の理論が正當であります。併しながら若し裝飾が無い爲に、それ等の價値が大衆の關心を喚び起すに足りないとするならば、それ等の建物は果して價値があるや否や今日考へて、疑問であらうと思ひます。果してそれが價値が無いとするならば、是はセセツシヨン以後、即ち私が先刻も申上げました建築革命以後に養はれた所の建築的な思想の下にそれを言ふのではないか、私が茲に申上げやうとするのは、即ちそれ等の裝飾された所の建築が可いか惡いかと云ふことは今日非常に考へるべき點ではなからうかと存するのであります。一般に是等の建築は可けないと云ふことは我々の進步的建築家、即ち新しい思想の人達の通說であらうかと思ひますが、問題は又其處に非常な複雜さを加へて來るのではないかと思ひます。(拍手)例へば茲にコンクリートに石を貼り付けた建物があり、それがローマのスタイルを眞似て居るとして、新しい建築家はそれに對して今日鐵筋コンクリート或は鐵骨の心を持つた所の構造に石を貼り付けると云ふことは誤つて居ると申したと致します。然るに之を建てた人は其の建築をすることに依つて自分の富を世間に現はし、それに依つて利潤を得ることが出來たとするならば、果して其の建築はローマ風の建築なるが故に惡いと云ふことが言へるかどうか今日非常に問題であらうと思ひます。さう云ふ風に考へて見ますと、經濟價値、所謂大衆を對象としての考へ方と云ふものは無限に發展をすると思ひます。若し其の利潤の對象となるならば、我々はローマを一日にして建てることも出來るし、ギリシヤから現代の建築に至るまで何を建てゝも差支へないと云ふ結論に達しはしないかと思ひます。そこで是等の傾向を有つて居る所の日本の建築に對してセセツシヨン以後の今日まで養はれた所の考へを以て之を批難することが出來るや否や、非常な疑問ではなからうかと思ひます。私の考へではそれ等の思想は決して日本の是等の建築的傾向の中心を突い

た批評にはならないと思ひます。日本の新しい建築家諸君は屢々日本の折衷主義建築に對して批難をされ、それを攻撃されたと私は存じて居りますが、私自身の感じでは世人の考へがどうであらうとも、兎に角それ等の批難は決して其の中心を突かない、又それ等の批評の如何に拘らず、日本の建築と云ふものは其の欲する儘に、社會機構の命する儘に發展したのでないかとも私は考へて居ります。夫故に新しい建築家諸君の議論は動もするとロマンテイツクでと云はれ、直寫的であつたやうに云はれるのでありまして、私の考へを以てしますと、それ等の思想は決して中心を突いて居ない、又それ等の思想に依つて、日本の建築は、全然とは申しませぬが、餘り多くの効果を見て居ないのではないか、今後我々はそれ等の建築に對して批評をするならば、今少しく考へる必要はないか、我々の新しい思想なり、我々の同僚諸君が有つて居られる所の新しい思想なるものは今少しく其の方向を轉換する必要はないかと思ひます。それは餘り直寫的ではないか、或は餘り多く外國の思想を受入れ過ぎて居るのではないかと云ふことを私は熟々考へるのであります。

然らば私が唯今申上げた商業的傾向に對して今後どう云ふ風に進むべきか、恐らく建築界は依然として百鬼夜行の狀態を續けるのであらうと云ふことも亦一つ考へるべき點ではなからうかと思ひます。然るに今日の産業界、企業或は商業上の傾向は次第に合理化をして無駄を少くするやうに進んで居ることは御承知の通りであります。是等の社會的嗜好、大衆の要求に對して、百鬼夜行の建築を以て果して之に應じ得るや否や、今日までは出來たかも知れませぬが、今後は非常な疑問であらうと考へます。そこで今日折衷主義の建築は次第に從來の亂脈な狀態から離脫し、折衷主義の建築をなされる人達が其の作品の上に漸次單純化を圖られ、それ等の形を次第に改めて行かれつゝあると云ふことは注意すべきことでありまして、是は決して新しい思想、新しい批評の側面的の影響ではなくして、自から氣づかれ、自から開拓された所の傾向ではなからうかと存じます。

以上私は大分折衷主義の建築に對して好意を有ち、其の考へ方に對して理解ある態度を持ちたいと努力して來ましたし、又さう云ふ風に私の話を進めて來たやうに存じて居ります。是は私の話の結論でありまして、私が從來の日本建築界の狀態、或は先輩同僚諸君が爲された努力の結果に付て染々と考へて見ますと、當然斯う云ふ風な結論に到達いたしますので、是は必ずしも私一人の考へではなからうかと存じて居ります。併ながらそれにも拘らず私は私自身の此の結論に對して一つの疑を有つて居ります。之に對して完全に同意し得ない一つの觀念が私には生じて居ります。仍ち此の私自身私の結論に對して一つの疑を有つと云ふことは、聽て將來に於ける新しい建築に對して一つの疑問を投げ掛けて居るものと私は考へて居ります。もう一度申しますならば、私は前述の如き好意ある結論を折衷主義建築の上に投げ掛けて來ましたけれども、此の結論に對して私自身非常な不滿を懷いて居ります。此の私の不滿が果して正當なる道を辿るか否か、今後此の結論が正當なる道を踏むであらうかどうかと云ふことは諸君と共に私自身の今後の努力に俟つより外ないと考へて居ります。簡單ながら是で御免を蒙ります。(拍手)

日本建築と西洋建築との關係に就ての第一印象



ブルノ・タウト
通譯　上野伊三郎

大阪朝日新聞社の御後援に依りまして、是から日本の建築と歐羅巴の建築との比較に付てお話を致すことが出來ますのを非常に光榮に存じます。併し先づ以てお斷り致して置きたいのは、私は日本へ參りましてから、まだ數日に過ぎませぬので、十分熟考し研究した結果を皆さんに御報告するまでの資格は無いのでありますから、其の點悪からず御諒承を願ひます。

私は少年時代から日本の文化に付て非常に興味を有ち、又ウヰリヤム・モーリスの時代から英國人が日本に付て種々知つて居ると云ふことに付て非常に尊敬の念を有つて居りました。即ち十九世紀に於て歐羅巴では一つの新しい藝術が起りまして、日本の藝術を模倣したり、或は自然物の形を新らしく見直す一つの新しい試みが行はれたことがありました。それは無論輕い意味の一つの遊戲的なものでありまして、又それが日本にも及んで日本の藝術に一つの動きを與へたやうに思はれます。

日本の藝術が歐羅巴の藝術に與へた最も好い點と思はれるのは、自然物を非常に立派に藝術化して居ることでありまして、例へば海や湖水の水の動き或は流れと云つたやうなものを形のみならず色彩までも非常に洗練されたものとして現して居ると云ふやうな點であります。(註、觀世水、青海波等々)其の點に付て私は小さい時分から非常に敬服して居つたのであります。斯う云ふ風にして日本の藝術は歐羅巴に大きな影響を與へましたと同時に、歐羅巴からも亦日本に對して多大の影響を與へたのであります。即ち日本は歐羅巴から工學を吸收しまして之を非常な熱心さで消化しつゝありますが、日本の今迄の歷史が示す如く、支那、朝鮮の文化をよく吸收消化したと同樣に將來西洋の文化が日本に於て普遍的に消化せられるだらうと云ふことが考へられるのでありまして、歐羅巴の新しい文化は

急激なる襲撃とでも云ふべき強さで日本に持ち來されてあらゆる方面に急激な變化を起しつつあるのでありまして、例へば機械を動かすことに依つて色々な變化を起し、近代に於ては各方面に非常に新しい形體を齎されて居ります。隨つて生活の構成上に於ても亦それに應じた新しい變化が行はるべきでありますが、茲に起るべき問題は日本が外國の工學を取入れ、それに依つて外國と些も變らない世界的な建築を今後持つて行くか、或は日本獨得のものを持つて行くかと云ふことであります。所が日本に來て、私が京都や奈良を觀察しますと。日本に於ては傳統的なクラシツクな樣式を多分に保持して居ると同時に近代文化を惜氣もなく取入れて居ると云ふことが看取されます。

我々歐羅巴人として日本に對して如何なることを寄與し得るかと云ふことを考へて見ますのに、恐らくは大して特別に寄與し得ることはないだらうと考へます。即ち日本の方々は歐羅巴に於ける事柄は書物などを通じて又御自身の海外旅行に依つて能くお知りになつて居ることゝ存じます。我々歐羅巴人として歐羅巴の事物に對して自己批判をするのと同じ調子で日本の文化を批判しましても多少其處に相違があるかも分りませぬ。假に日本の輸出品である所の着物であるとか、所謂ハツピーコートであるとかを西洋の人に着せると致します。さうすると亞米利加人でも歐羅巴人でもそれが非常に日本的であると云ふことに於て珍重するでありませう。併しそれを日本人諸君が御自身に御覽になれば、非常に滑稽なものとして御笑になるでありませう。それと同樣に、我々が日本に來て、日本の土の上にゴシツクとかクラシツクとか、或は此の會舘のエジプト式の石柱とか云ふやうな建物が到る處に建つて居るのを見ますと、それが縱令相當立派なものであつても、それ等の樣式が歐羅巴の土から出て居る文化の產物であると云ふ點に於て矢張り何處か妙な所がありまして、我々としてもそれに對しては一種の失笑を禁じ得ない感があります。(拍手)概して建築の形式と云ふものは非常に非個人的なものでありまして、是は一寸面白いと云つたやうな即興的氣分から出來るものでは全然ないと考へます。(拍手)建築の形體と云ふものは我々が野原に出て咲き匂ふ花のいろいろを、或時はスミレが美しいと云つてスミレを、或時はチユーリツプを、或時は櫻草をと云ふやうにその時々の氣まぐれにつみ取つて洋服のボタン孔に挿込むと云つたやうな氣持のものでは決してないのであります。それで建築と云ふものは總て其處に是非必要な目的と云ふものがあるので、それを十分に把握して、それに適合するものを造つてこそ初て眞の建築と云ふべきものであります。(拍手)

建築家の設計と云ふものは最も個人的でないものであつて、又最も個人的でないものが最も良い建築と言ふことが出來ると思ひます。

先日桂の離宮を拜見しました時に非常に美しさを感じたのでありますが、申分の無いあの立派な建築は決して桂の離宮を拵えた建築家が即ち一小堀遠州が天才的に、天降り的に考へ出したものではなく、あゝ云つた日本の建築に對して同じことを長い年月の間考へて段々と改良して行つた結果出來上つたものでありませう。此の事は單り日本建築に於ての

みならず、希臘建築に於ても 四五 百年の間あの一つのドリツクを飽くことなき態度で極く微細な點に至るまで出來るだけの努力を以て精練して行つた結果あの立派なパルテノンが生れて來たのであります。仍ちゴシツク建築に於てもルネツサンス建築に於ても皆同樣なことが言へると思ふのであります。

桂の離宮や希臘のテンプルを見た場合に我々の心を打たれるのは、昔の建築家が非常な熱意と熟練した技術を有して居つたと云ふことであります。柱一つ見ましてもあの手工時代に於て今日我々が精巧を極めた機械を以つてしても猶ほ及ばないだらうと思はれる程の精巧さを示して居ります。特に桂の離宮の材料の使用と云ふやうなものを調べて見ましても、亦非常に巧妙な驚嘆に値する技術を示して居ります。それで要するに技術即藝術、或は藝術即技術でありまして、優秀なる技術から優秀なる藝術が生れるのでないかと考へます。

最近建築界は非常に機能的なものとなりまして、決して一方に偏しない、それで家の構造に致しましても、其の家に必要な條件、即ち光線、換氣、溫濕度の調節を始め、あらゆる實際的な問題が非常に重要な價値をなして、それに建物の目的に忠實に部屋の配置等が出來て居れば、自然に其の外形と云ふものはモダンな表現を現して來るのであります。それで生活と云ふものと建築と云ふものは相關的のものであり、そういふ意味が建築の形に十分出て居る程良いのであり最も必要だと思ひます。

茶室のデザインを見ますと、其の形なり、色彩なり或は間取りなり、さう云ふものが非常にシンプルに出來て居ります。是は多分茶道の作法からさう云ふ方針が採られたかも知れませぬが、併し茶道其のものに對しても建築はあゝした作法を發生すべき原因をなした點があると云ふことを考へない譯に行きませぬ。

經濟的建築に於ても亦同樣の關係がありまして建築の目的と建築の設計及び其の技術、さう云ふものと當然密接な關係があるのであります。美を生み出す所の要素と云ふものは日本の建築に於て非常に强く現されて居ります。

昔の建築なり藝術と云ふものは決して個人的なものでなく、我々がそれを見ます時に、それがどう云ふ目的に於て造られたものかと云ふことを現して居るのでありまして、我々の眼と云ふものは其の建築の語る所のものをば我々の頭に傳へるトランスフオマーのやうなものであります。能くロシヤなどで見る例でありますが、壁にゴタゴタした繪畫とか彫刻とか云ふやうなものが一面にないと餘りに淋しいと云はれるのを聞くのでありますが、それを繪に依つて見ますと、壁に何も無い簡單其のものが繪畫に非常に立派さを與へるのでありまして又床や棚と云つたやうな何か厄介なやうなものが他の壁が空虛である爲めに非常に其の地位を高めて居るやうに私共は考へるのであります。それと同樣に日本に於ても軒のタルキや瓦の配列が或意味に於て彫刻の働きをして居ると云ふやうな所が建築の表面に現れて居るものと考へます。（**附記**　以下は幻燈によつて同氏の作品の紹介がありましたが卷頭の寫眞によつて御諒解を願ふことにして茲には略しました。編者）

ブルノ・タウト氏紹介

ブルーノー・タウト氏は 1880 年ドイツのケーニヒスベルヒに生れ、初め煉瓦職工として建築技術の實地修業を積んだと云ふ事であるが、其後有名な建築家テオドール・フイツシヤー教授の下に助手として5年間スツツトガルトで働いた。之は彼にとつて非常に幸運な事であつて、思ふにフイツシヤーから得る所は實に大であつたらう。後日建築界の圖將として一方に君臨するに至つたのも彼に負ふ所が多いにちがひない。テオドール・フイツシヤーは既に 70 餘歳の老齢で、作品として特に異色あるものなく、建築運動に華々しく關つた人でもなく、むしろ過去に屬する穩健な老大家であるが、建築教育家としての偉大さは、彼の門下から輩出した多くの有名な建築家バウル・ボナーツ、ドミニクス・ベーム、アルフレツド・フイツシヤー、マルチン・エルゼツセル、エルンスト・マイ、フランク・レークレ、エリヒ・メンデルゾーン、フゴー・ヘーリング、ハンス・ゼーデル J.J.P. ウート等の名を擧げるだけで充分である。それ程彼は現代獨逸の建築界に大きな功績を殘した人である。

1909 年からタウトはフランツ・ホフマンと共に建築設計に從事し、1911 年には更に弟マツクスタウトを加へて仕事を共にした。戰後 1918 年ワルター・グロピウス、アドルフ・ベーネと共同の建築事務所を開いてベルリンで活動したが、1921 年マグデブルグ市の建築技師となり、後にベルリン市建築技師となつて大ジードルンクの設計其他に從事し、最近はソビエツトの招聘をうけてロシアでジードルンクの建築に從事した。現在はベルリン工業大學教授として住宅及びジードルンクの講座を擔當してゐる。

その作品として重なものは、

ルールのタービン館 (1908)
ベルリンの集合住宅 (1912)
ライプチヒ博覽會の「鐵の記念塔」(1913)
ケルン工業組合博覽會の「ガラスの家」(1914)
ベルリン郊外ファルケンベルグの住宅群 (1913—14)
マグデブルグの農産及び體育館 (1922)
ベルリンの大集合住宅 (1924 以後)
タウトの自邸
スツツトガルト住宅博覽會の住宅 (1927)

著書は

"Die stadt krone" (1919)
"Alpine architektur" (1920)
"Der weltbaumeister" (1920)
"Die aufloesung der stadt, oder die Erde eine qute wohung" (1920)
雜誌 "Fruelicht" 四卷 (1921～22)
"Die neue wohung" (1924)
"Ein wohnhaus" (1929)
"Bauen, der neue wohnbau (1927)
"Modern architecture" (1929)

作品の中ライプチツヒ博の「鐵の記念塔」はフランツ・ホフマンとの合作、ケルン博の「ガラスの家」は色ガラスやプリズムガラス等を一面に張りつめた寶石型のガラス屋根をもつ美しい小建築又マグデブルグの公館はヨハネス・ゲデリツツとの共作で、內部に輕快な架構を露出した構造的な大ホールである。此の公館の出來る前年に彼はマグデブルグの建築技師となり、市の建築物を色々な色ペンキで塗り變へて都市全體を表現派風に彩色し、市の氣分を一新しやうと企てた事はあまりに有名な話である。勇敢な彼の企圖は幸か不幸か幾多の困難反對に遭遇して中止の止むなきに至つたけれども色彩に對する彼の熱情はその後も依然として失はれず、先年建築された彼自身の邸宅に對しても色彩研究が細かに行はれた事は、彼の著書 "Ein wohnhaus" の中にうかゞふ事が出來る此のマグデブルグ時代の他の有名な仕事として我等の記憶に未だ新たなものは、雜誌 "Fruelicht" の發刊であつて、僅か四卷で廢刊となつたけれども、之によつて世界の若い建築界を刺戟した彼の氣力は先年の "Neue frankfurt" 誌に於けるエルンスト・マイにも增して目ざましいものであつた。其後彼はベルリン市の建築技師となるに及んで專らジードルンクの設計に從事し現在に於ける彼の關心も此の方面に最も多く向けられてゐると思はれる。著書は建築家としては可成りその數が多いが、ロンドンのスタデイオ社發行の英文書 "Modern architecture" が最も大きいものである。小冊子 "Ein wohnhaus" は彼の扇形の非常に巧妙な自邸の紹介で、特に色彩の研究が入念に行はれてゐる。又 "Die neuewohung" には醍醐三寶院、大德寺の眞珠庵の寫眞等を載せて、日本に於ける從來の住居形式を紹介してゐる。

閉會の辭



池田實

今夕は我日本建築協會が大阪朝日新聞社の御後援を得まして、茲に新興建築講演會を開きました所が、斯く多數にお集り下さいまして、極めて靜肅に又非常に御熱心に御淸聽、御觀覽を戴きましたことを、私は日本建築協會を代表いたしまして厚くお禮を申上げます。(拍手)同時に今夕の講演映畫に依りまして、皆樣に相當のサムシングをお與へ――と申しては相濟みませぬが、何物かをお持ち歸りを願ふことが出來たらうと私は信じて居ります。

タウト氏は日本にお出でになりましてからまだ數日しか過ぎませぬので、色々の方面の御研究は猶ほお淺いことゝ考へますが、從來既に日本に對して非常に好感を有つて居られた方であります。今日我國は、否世界は非常時とか申すやうな時でありますが、此新興と云ふ字すらが我々には或感じを與へると思ふのであります。松岡全權が世界を巡られまして、何だか日本が認識されて居らないとか云ふことをこぼして居られたやうでありますがタウト氏が西歐に居られながら日本の古建築其の他の御研究に依つて大に得る所がある、なかなか見所があると認められたことは、世界に於ける日本の正しい認識と云ふものが我々の關係する此の建築より始まるのではなからうかと云ふことを考へまして、私は衷心愉快に感ずるのであります。(拍手)

長時間の御淸聽を煩しました上に又私が長く駄辯を振ひますことは誠に御迷惑であらうと考へます。今日は是を以て閉會とすることに致します。(拍手)

歐洲の新興建築概說

岡田孝男

オツトー・ワグナーの功績

1895年オツトー•ワグナーは "Moderne Baukunst" を著して、その抱懐する革命的な建築觀を發表した。

「以前は "如何なる様式で建築すべき？" が問題であつたが、我々は "如何に建築すべきか？" を問題にする」

「新見解より芽生える建築は、完全に我々の造つた形であつて、古い様式の模寫模倣であつてはならない」

「實用でないものは美しくあり得ない。"Etwas unpraktisches kann nicht schön sein"」

「建築の四要項 1目的を正確に把み、完全に滿たす。2建築材料の適當な選擇。3簡明で經濟的な構造、4これ等の前提から生れた型」

これ等の建築觀は現在の建築界では既に常識となつて居て、敢えて問題とはならないが當時、歷史的建築様式萬能の 19 世紀末では實に驚嘆すべき革命的建築觀であつた。新興建築はこの年から始まる。(尤もこの建築觀は著書になつたのは 1895 年であるが、既に其前年 1894年に講演で發表して居るから正確に云へば 1894年を紀念すべき年としてよい)。

ワグナー(Otto Wagner 1841—1918)はウヰーン美術學校の教授として、又建築最高顧問として新興建築の育成に盡力し、多くの設計案を殘して居るが、實施されたものとしては、ウヰーンの郵便局(1905)年、ウヰーンの教會堂(1906年)が有名である。何れも彼の建築觀の現はれとして大理石薄板を鋲留してあるのが目立つ。

ワグナーは弟子オルブリツヒの起したセセツション運動を指導し新建築の祖と云れる。

モリスの工藝運動とアール•ヌーボー

新興建築は 1895 年ワグナーの "現代建築" の發行から始まると筆者は說いたが、それにいたるまでに、藝術革新の前驅運動があつた。それは英國に於けるウヰリアム•モリスの工藝運動と、ベルギーに於けるアール•ヌーボー運動である。

ウヰリアム•モリスは「藝術とは、其人の喜びを工作に表現したものである。"Art is man's expression of his joy in lavour"」と說いて工場を經營し、自から工場長となつて舊來の古重しい傳統様式より離れた明るい愉快な家具を造り、又金銀細工、更紗、壁紙等の工業品を造つた。1888 年ロンドンで第一回の展覽會を開いて注目せられたが後振はず、か

えつてこれが大陸へ渡つてベルギーで當時の自然科學主義と結合し自然形直寫のアール・ヌーボー運動となつた。

アール・ヌーボー "L'art Nouveau" は"新しい藝術"と云ふ意味で、1894 年ブラツセルの工藝博覽會に於てバンデベルドがその出品した家具の樣式に名づけた所から起つて居る。始め家具に行はれ、後建築に入つた。バンデベルドの一派は、既成樣式による室內裝飾や家具が、主として貴族富豪の爲に造られ、豪奢で重苦しいのを見て、中流の人々の爲に、明るい、愉快な調和したものを造らうと企てた、その爲に自然の植物や動物の形を採用したが、これはモリスに教えらた所が多い。バンデベルドにはハーゲンの博物館、ケルンの劇場等の作がある。

ヌーボーはベルギーからフランス及ドイツに入り、フランスではギマール(Hector guimard)の地下鐵停留所となり、建物全體が一つの樹木の樣で柱が幹、窓のサツシユは樹枝バラペツトの飾は樹の葉、花果實をつけ、一の建物が繁茂した樹木そのまゝの形であつて植物の持つ優美な感情を建築に移すことを試みた。後にいたり 1900 年のパリ大博覽會の建築となつた。ドイツではユーゲンドステイルと云はれ、オーストリーでは大きな影響をセセツシヨン初期の人々に及ぼした。ワグナーにしても、ウキーンセセツシヨンのオルブリツヒにしても、又ダルムスタツト藝術家村のペーター・ベーレンス、ブトリツク・フーバー等にしても初期はいづれも、その主張にかかはらずその作品には多分のヌーボーの影響を見る。これは既成樣式から離れた當座の間に合せとも考へられるが、ほんとうはヌーボーによつて既成樣式から離れることを教えられ、ヌーボーを土臺として後のセセツシヨンの發展にまで行つたと解釋出來る。

これ等大陸のヌーボー運動と全く別に發達したものに、アメリカのサリバン(Luis Henry Sullivan)のシカゴ派がある。彼が始めて名を出したものは、1893 年のシカゴ萬國博覽會の運輸館であるが、これは大陸のヌーボー運動と同年代で、相呼應した形になつて居る。かくヌーボー運動はベルギーに起り、一時にして佛、獨、墺を風靡したが、1900 年のパリ博覽會を頂上として、恰も火華の消え失せる如く影をひそめた。これは動物、植物の曲線をそのまゝ建築に用ふるに際し、無理解に復雜な曲線を亂用し放縱に流れたからである。アメリカのシカゴ派は大陸のヌーボーの如く放縱に流れず、よく整理した意匠を用ひた爲サリヴアンの作品は後多くの銀行、高層建築等に發展した。

ウキーンのセセツシヨン運動

ウキーンセセツシヨンは畫家が主となつて組織された新興藝術運動の團體である。1897 年に組織され、建築家としてはホフマン(Josef Hoffmann)オルブリツヒ(Josef Olbrich)外二人が加はつて居る。

セセツシヨンの名は "Secessio Plebis" から出たものである。その昔、ローマ帝國の

盛んな時、ローマ市民は何か執政官に對して不滿な事柄があると、大擧して郊外の山に登り、ローマを目下にながめながら執政官に對する示威運動をやつて「我々は不滿なことの多いローマの市街を捨てて、ここに第二のローマを造るべし」と宣言したものである。結局は執政官の方から市民に人望のある仲裁人を派して、市民をなだめその希望をきき入れて事件が落着するのが例であつたが、人々はこれを稱して "Secessio plebis" と呼んだ。

ウキーンのセセツション運動もかくの如く、古い藝術家團體に不滿を抱いて、第二のローマを造る意氣込で分離したもの故、この Secessio plebis にならつて、セセツショオン (Secession) と呼んだのであつて、文字の意味は分離と云ふ意である。

ワグナーはセセツシオンの團體には加入して居ないが、その最も優秀な弟子オルブリツヒとホフマンがこれに加入して居たから、これを指導したワグナーは、事實上セセツショオンの建築の方面を指導したことになる。從つてワグナーの建築觀は即ちセセツショオンの指導原理となつて、實用に適ふと、材料の正用、理論的の構造が重要視され、實用風の建築を造らんとした。しかし既成樣式から離れはしたが、未だその主張通りの建築型體を表現するを得ず、先づ自然の形に目をむけて、當時盛んであつたアール・ヌーボーに走つた。師ワグナーでさえもその影響を濃く受けて居るから、弟子達も一時はみなヌーボー風のものを造つて居る。しかし間もなくヌーボーより脫し、その主張に從つて獨特の道を行つたのは最も喜こぶべきことで、現代新興建築の本源をなすものは、このウキーン・セセツショオンである。

藝術革新の運動は、獨逸の各地例へはミユンヘン、ベルリン等にも起り、又ウキーンから、オルブリツヒが、ダルムスタツトに移入したものもあり成果を結んだ。又他方この主張は、北歐の鄉土藝術と結んで傳統派となり、又構造を重んずること、材料の正用などが工場建築を對象として、特殊の發展をなし、構造派を造つた。これ等は後に述べることとする。

さてウキーンセセツシヨンの組合員及それと傾向を同じくする建築家は

オルブリツヒ (Josef Olbrich)	ホフマン (Josef Hoffmann)
ストワルナード (Osker Strnad)	ヤンコテラ (Jan Kotera)
エールレー (Robert Öerley)	バウエル (Leopold Bauer)

等がある。

オルブリツヒ(1867—1908)は建築に於けるセセツション運動の急先鋒で、ウキーンに於てはセセツション館の作があるが、後ダルムスタツトに招かれて藝術家村を建設し傑作を殘して居るから藝術家村のところで說く。

ホフマン(1870—)はワグナーよりモダーンの精神は承けついだが、其抱く建築觀はワグナーと少し異なり、建築を裝飾された實用品視して居る。建築も獨特の境地を開き主として直線形の洗練された清新の手法である、作品にブラツセルのストクレー邸、ウキーンのア

スト邸、ケルンのオースタリー館等がある、現在もなほ健在し、1925年のパリ博覽會ではオーストリー館を造つて居るし、又1928年の國際聯盟會館の懸賞募集があつた時には審査員となり、反アカデミー派の主領として、新興建築案の採用に努力した。

ストウルナードは舞臺裝置家としてアムステルダムの劇場案があり、ヤンコテラにプラーグの博物館、エールレーに多くの住宅作品、バウエルにウキーンの五千人劇場の作がある。其他ホフマンの弟子にマーゴルト（Josef Margold）がある。ウキーン工藝製作所で多くの家具工藝品を造つた。

ダルムスタツトの藝術家村

ウキーンに起つたセセツシヨン運動と呼應して藝術革新の運動が獨逸の各地に起つた。ミユンヘン、ベルリン、ドレスデン、ヂユツセルドルフ等のものがそれであるが、これ等はウキーンに於けると等しく主として繪畫の革新運動であつた。

獨逸に於ける建築及工藝のセセツシヨン運動は、先づウキーンセセツシヨンの分身たるダルムスタツトの藝術家村運動に始まると考へられる。

ヘツセン大公ルドウキツヒ（Ernst Luding）は幼にして父を失ひ、祖母なる英國のヴイクトリヤ女皇に引取られ、英京ロンドンで教育を受けた。當時の英國は、ウキリアム・モリスの工藝運動が盛んであつたから、目のあたりその盛況を見て、深く感する所があり、歸國するや早々にして、その首都ダルムスタツトに藝術界の新人を集め、藝術のユトピアの建設を思ひたつた。先づ畫家、彫刻家、室內裝飾家を招いたが1899年にいたり、ウキーンセセツシヨンの急先鋒ヨゼフ・オルブリツヒ、及ミユンヘンセセツシヨンのペーター・ベーレンスを招き更にアルピン・ミユーラー等を招いて、市の郊外マチルデン丘に藝術家村（Künstler Kolonie）の建設にかかつた。先づ、これ等藝術家の各自の住宅を建てさせ、これが建ちそろつた時に1901年、村の落成式を兼ねて、展覽會を開いた。

この展覽會によつてダルムスタツトは獨逸新興建築界の中心となり、若い建築家は一齊に立つて、この運動に參加した。次で1906年の展覽會には、オルブリツヒの傑作、美術館とこれに附屬した成婚紀念塔（Hochzeitturm）が建ち1914年には門や噴水が出來て、村は完成した。成婚紀念塔は赤黑い煉瓦建で塔の上は尖端の丸くなつた五つの部分に別れ、塔身についた不規則の窓、煉瓦の淺い凹凸など今なほ最も清新の氣あふれ、獨逸セセツシヨンの最高位に位するものであらう。

ベーレンスは藝術家村では自邸を建てて居るばかりであるが後ベルリンに移り A. E. G. の工場や事務所を造り、構造派の方で名をなした。

アルピンミユーラーは住宅に多くの作品を殘して居る。

傳　統　派

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてアール•ヌーボー、セセツション等の新建築運動が起つたが、これと反對に傳統的な鄕土藝術の問題、それに伴ふ古建築の保存などの問題が論ぜられる様になつた。

前時代から續いて、寺院や公館建築に用ひられたアカデミツクなクラシツクやゴシツクの様式のことはしばらくおき、ここでは北歐に昔からある農民藝術、鄕土藝術のことであるが、これ等は原始的なところはあるが、深く人心に喰ひ入つて、それに對する北歐人の愛好は、やみ難いものと思はれ、殊に私的な住宅建築に於て盛んに用ひられた。

この建築に於ける傳統的な鄕土様式は、急傾斜の腰折屋根、ドルマー•ウインドーの形等に特色があり、やや重苦しい感じのものである。

セセツションの所謂新しきもの(Das Moderne)を目指しながら、鄕土藝術を發展させた一派は、住宅建築ばかりでなく、大建築にまで次第に勢を及ぼした。筆者はこれを傳統派と呼ぶ。即ちクラショク、ゴシツクの如く洗練されたアカデミツクな建築様式でなく、北歐に傳はつた原始的な鄕土藝術と、セセツションの "Das Moderne" の結んで出來たもので、場合によつては、セセツションの特殊な一分派とも見られる。

獨逸に於てはこの派はまた獨逸近世式の名で呼ばれる、アルフレツド•メツセル(Alfred Messel 1863—1909)はこの派の巨匠で、有名なウエルトハイムの百貨店の作がある。フリツツ•シユマツヘル(Fritz Schumacher 1869—)はハンブルグ及ブルメンに數多くの作品がある。煉瓦建築を得意とし、積み方によつて紋様を表はし、又隨所に彫刻物を入れ急傾斜の腰折屋根、塔の輪廓など獨逸傳統派の代表的型式を數多く造つて居る。

カウフマン(Oskar Kaufmann 1873—)は劇場建築を得意とし、ベルリンの民衆劇場ウヰーンの市立劇場等の作がある。

獨逸傳統派と同じ行き方、即ち鄕土藝術と Das. Modern の結合は獨逸以外の各國にも行はれた。

オランダのベルラーヘ (Berlage)　　ハンガリーのリーゴ (Josef Vago)
ハンガリーのベラライタ (Bela Lajita)　チエツコのヤンコテラ (Jan Kotera)
スエデンのテンボム (Ivar Tengbom)　スエーデンのエスベルヒ (Lagner Östberg)
フインランドのサーリネン (Eriel Saarinen)

等である。

オランダの傳統派としてはアムステルダムの取引所で有名なベルラーヘ及多くの共同住宅を建てたアムステルダム派のデ•クラーク、クラメル、スタール、ヴアンデルメー、ウエーフエルト、ブラアウ等があり、煉瓦建築に特有の美しさを見せて居る。

ハンガリーの傳統派としては元來ブダペストは東洋人の子孫が多く、その鄕土藝術には東洋的のものを多分に持つて居るからここの建築は特殊の手法を持つて居る。ワーゴの作品としてブダペストの博物館と公園劇場がありベラライタには養老院、寄席「パリジアナ」

等の作がある。

ヤンコテラはワグナーの門下生でプラーグに歸り博物館を造つたことは前に述べた。

スエーデンの傳統派としてテンボムとエストベルヒを擧げる。テンボムにはストツクホルムの教會堂及音樂堂があり、エストベルヒには有名なるストツクホルム市廳舍の作がある。

フインランドにはエリエル・サーリネンがあり、ヘルシングフオールの停車場で名をはせて居る。

構造派

大戰前の獨逸に於ける大工業の發展は、すばらしいもので數多くの工場を建設せしめた。

この工場建築に於ては、今迄の建築の對象であつた殿堂、公共建築、寺院に於ける場合と異なり、その建築にあたつて第一に重要な條件は、その建築の內外で行はれる製造工程に對して最も適合する如く建てること。即ち明るいこと、大きなスパン及長い柱で廣い室內の空間を得ること、暖房給水其他の設備の完備、及固定資本の可及的少額等が重要視され、外觀や室內を裝飾することは殆んど考慮外におかれた。

換言すれば、建築問題を解決するにあたつて、古來から宿命的に我々が持つて居た所の美しくしやうとする考を先づ措いて、建築を理論的な構造、合理的な配置、材料の經濟的使用によつて解決しやうと努力したのである。

この努力は丁度當時發達して來た構造力學の應用と、鋼、コンクリート及ガラス等主要建築材料の大量生產による安價な供給と相俟つて、急速力で成功の域に達した。遂にはこの新材料、及構造力學の應用によつて、建築の新道を開き、これによつて美にまで達しやうと試みた、これ等の建築家を總括して、筆者は構造派の中へ含めることとする。

ワグナーが揭げた三つの要項、實用にかなふこと、材料の正用、理論的な構造は、現代建築を通じての普遍的な條件となつたが、最も特殊な發展をとげたのは、この構造派である。

構造派に屬する最初の建築はロンドンの水晶宮(1851年)であらう。次でパリのエツフエル塔(1889年)が建ち、構造力學の命ずるままに造つても可なり美しいものが出來ることを一般に教えた。しかし鐵骨を露出した建築は、古い建築美の考へ方に煩はされて其後あまり建たなかつた。こんなものは單なる構造物であつて建築でないと考えられたからである。

しかしそのうちに工業が次第に隆盛になつて多くの工場建築が計劃されることになり、鋼、ガラス及コンクリートの大量生產による安價な供給、構造學の進步と應用は、架構材露出の建築が行はれ次でこれが一般の建築にも勢を及ぼして來た。

即ち構造學の命ずるままに造つた形が美しいこと、遂にはこの形こそ眞の建築の形であつて、建築の美はその中にあるとさえ考へる樣になつた。この考は、ペーター・ベーレンスが A.E.G. の諸工場を造つてから裏書されて、益々深く信ぜられる樣になつた。將に建

築に於ける唯物的な、科學萬能的な考へ方の絶頂を示すものである。

構造派に屬する建物は、その性質上停車場、工場、倉庫、博覽會等に多い。

フランクフルトの祭禮會堂。ブレスラウの百年記念祭本館。ハンブルグ及ニユルンベクグ等の停車場、A. E. G. の工場等が有名である、建築家として、ペーター・ベーレンス(Peter Behrens 1868—)マツクス・ベルグ(Max Berg 1870—)等である。ベーレンスは構造派の最も有力な建築家で、A. E. G. のタービン館、工場等の名作がある。

表　現　派

19世紀が自然科學的文明—産業主義の文明—唯物主義の時代であつたことは、既にセセツシヨンのところで述べた。(セセツションの建築は實にこの種の文明の所産である)特に19世紀の後半はこの傾向が盛んで、人間生活は全く物質文明に征服されて、人心は唯恐るべき機械力と資本主義のもとに呻吟し、人間生活の奥底にひそんで居る感情の躍動と云ふが如きものは、次第に世間から忘れられ、藝術や哲學や宗教は、唯だ無味な理智に變つてしまつた。

これ等の物質主義、自然科學萬能主義に對する反動は次第に起り、自然科學に束縛されて居る所の精神力—靈魂—感情が勃發して、この束縛に反抗しやうとした。これが表現派である。

表現派が定まつた傾向をとつたのは、1904年頃であるが、戰時及戰後に起つた獨乙の悲慘な運命は、忽ち鋭敏な青年の感情を激烈に刺戟し、そこから藝術上のこの傾向が、強まつて來たものと考へられる。

繪畫に於ては、自然主義に束縛されて、客觀—自然—印象以外へは一歩も出ることの出來なかつた印象派に反抗して、表現主義者は“自然よりの解放”Los von der Nature”精神に還れ“Zurück zu Geist”の二つをモツトーとして掲げて居る。即ち藝術は自然を主とすべきものでなく、主觀がその本體であつて、印象を受動的に寫すものでなく、主觀の活動—生きた感情を告白し表現することが主であると云ふのである。換言すれば、線や形や色はどうでもよく、ただ最深感情さえ活き活きとして居れば、それで繪畫は完成されて居ると云ふ意である。

繪畫に於けると等しく、文學に於ても、文章や字句の上の常識は、頗る無遠慮に破壞されて、ドラマの幕合なども、長かつたり短かつたり、亂暴なものが少くない。

建築に於ける表現派は、大戰以後に見られる。

自然科學萬能の潮流に乘じて、破竹の勢で發展した、セセツション運動は、或は傳統派となり或は構造派となり、種々の特殊な發展をとげたが、その根本精神である所の科學偏重、唯物主義の建築觀には變りがなかつた。

これに飽きたらぬ、若い建築家達は同時代に起つた繪畫の表現派に共鳴して、ここに新

時代の唯心主義的な建築觀を樹てるにいたつた。

セセツションの流を汲む建築家が、現在の機能や實用、材料、構造等から離れることを得ず、社會的、經濟的、科學的の考慮によつて、その創造を抑壓せられて居たのに反し、表現派の建築家達は、一切の建築に附隨した概念から離れ、新しい主觀の表現である Ecstacy の建築を創造する、能動的な態度に出た。

前者は、機能、構造、材料等の客觀的のものが、先になつて居るに反し、後者はそれらの主觀が先になり、機能構造等の問題は自から解決されるとして居る。

前者が"實用に非ずんず美しくあり得ない"と云つて實用と美の一致を叫んで居るに反し、後者は美と實用を並用させて居る。

以上の比較からして、筆者は、表現派を目してセセツション派への反抗であると考へる。

歐洲文化に於て互に相反する二つの潮流、クラシツク對ゴシツクの見方よりすれば、セセツション派は實用主義、從つて現世的で、どちらかと云へばクラシツク系に近い。北歐の人々が、かかる現世的な藝術に長く滿足しないのは、今迄の歷史のよく證明する所で、ゴシツク的な精神の復活、新しいロマンテイツクな精神の現れとして表現派が出來たとも考へられる。

表現派はかくして大戰後、獨墺建築界で急激に人氣を得、我國へも東京震災の後輸入されたが、數年ならずして獨乙でも日本でも影をひそめた。それはあまり刺戟的なその意匠に墮したのと、建築の機能、材料を無視してまで、形の新奇に走ることは、畢竟するに或程度迄しか許されないことから來たものである。

かくの如く表現主義の運動は短命に終つたが、華々しかつただけに、多くの建築家は、この洗禮を受けた。次に擧げる建築家は、各々表現派に一時は共鳴して、その作品を持つて居る。

ハンス•ペルチツヒ（Hans Poelzig）　ベルリンの大劇場
ブルノー•タウト（Bruno Taut）　ガラス館
エリツヒ•メンデルゾーン（Erich Mendelsohn）　アインスタイン塔
フリツツ•ヘーゲル（Fritz Hoeger）　ハンブルグのチリ館
オツトー•バルトニング（Otto Bartoning）　星の教會堂

等で其他多數にある。勿論これ等建築家の中には、後に表現派を脫して、他の或は純粹派の方で名を走せたものが多い。メンデルゾーン等がそれであるが、先づ表現派として擧げられるのは以上である。このうちでもハンス•ペルチヒは代表をなすもので、（丁度構造派のペーター•ベーレンスにあたる）天才的の創造力を以つて數多くの傑作がある。中でもベルリンの大劇場、ザルツブルグの祭禮劇場案、映畵館カピトール等は有名である。

歐洲新興建築家の分類

筆者は歐洲の新興建築界を見て、これにたづさはる建築家を大體に時代分けして、三つに分けることを提案する。

第一期の人々は、新興建築の開拓時代たる 1893 年頃から 1905 年頃迄の約 10 年間に、活動を開始した建築家、これは新興建築の開拓者である。

第二期の人々は、1905 年頃から歐洲大戰の直前即ち 1914 年迄の約 10 年間に活動を開始した建築家、これは第一期の建築家によつて養成された人々である。

歐洲大戰のあつた 1914年—1918年迄は建築界は休止。

第三期の人々は歐洲大戰後から今迄即ち 1918 年から 1933 年迄の間に活動を開始した人々、これは第一期及第二期の建築家に養成された人々である。

而してこれ等第一期、第二期、第三期の建築家の大部分は、何れも今年迄活動を繼續して居る。これを建築家の生れた年代で云ふと

第一期の建築家は 1850 年代に生れたものが多く。

第二期の建築家は 1870 年代に生れたものが多く。

第三期の建築家は 1880 年代に生れたものが多い。

更にこれを詳しく擧げて見ると

第一期に屬するもの

ワグナー (Otto Wagner) 1841

メツセル (Alfred Messel) 1853

サリバン (Luis Henry Sullivan) 1856

ベルラーヘ (Hendrik Petrus Berlage) 1856

ヴアンデベルド (Henry van de Velde) 1863

第二期に屬するもの

オルブリツヒ (Josef Maria Olbrich) 1867

ベーレンス (Peter Behrens) 1868

ライト (Erank Lloyd Wright) 1869

シユマツヘル (Fritz Schumacher) 1869

ペルチツヒ (Hans Poelzig) 1869

マツクスベルグ (Max Berg) 1870

ホフマン (Josef Hoffman) 1870

アルビンミユラー (Albinmüller) 1871

カウフマン (Oskar Kaufmann) 1873

ストラウメル (Heinrich Straumr) 1876

ボナツツ (Paul Bonatz) 1877

ストウルナード (Oskar Strnad) 1877

第三期に屬するもの

アンカー（Alfons Anker）1872
クライス（Wilhelm Kreis）1873
タ ウ ト（Bruns Taut）1880
ベツケル（Fritz Becker）1883
グロピウス（Walter Gropius）1883
デユドツク（Willem Marinus Dudok）1884
フアーレンカンプ（Emil Fahrenkamp）1885
ヴアンデアロー（Mies van der Robe）1886
コルビユジエ（Le Corbusier）1887
メンデルゾーン（Erich Mendelsohn）1887
マーゴルト（Emanuel Josef Margold）1889
ルツクハルト（Hans Luckhardt）1890
アウト（J.J.P, Oud）

この生年月で、建築家を分類することは、建築作品の新舊、良否とは何等の關係はないが、大體その活動し始めた時期を知り、從つてその建築家が他から受けた影響などを知るに便利なのでかく分けて見たのである。

第一期に屬する人々は、みな新興建築の開拓期に働いた建築家で、そのうちでも墺のワグナー（セセツシヨン）、米のサリバン（シカゴ派）、白のヴアンデベルド（アール・ヌーボー）の努力は特筆すべきものである。ベルラーヘ（オランダ傳統派）とメツセル（獨乙傳統派）はルネツサンスより轉じて來たもので前三者程革新的ではないが、各々、和、獨の開拓者として功績がある。

第二期の人々は各々ウキーンセセツシヨン、藝術家村、傳統派、構造派、表現派の方で述べて來た、これから書くのは第三期の人々の活動が主である。

純　粹　派

世界大戰後に活動を始めた建築家は、大戰以前の夫と、建築觀にも作品にも、著しい相違を持つて居ることが分る。一言にして云へば、機能の合理的解決、建築の形の簡明であるが、その動機としては（1）傳統精神よりの解放。（2）建築をその本質より解決せんとする努力。（3）新建築材料の發見。（4）構造法の進歩。（5）暖房、衛生、換氣、電氣其他の設備の進歩　（6）經濟的考慮。（7）機械、自働車、汽船等から教えられた美。其他種々の動機があるが、これ等から表現された建築の形式的特徴としては

1 無裝飾（平明な壁面の尊重）
2 解放的プラン

3 輕き平易な構造(大きなスパンの建物)

4 大きな窓面積(時として壁全體がガラス張りのことあり)

等が認められ、著しく簡明な形式となつた。形を簡單にすると云ふことは、今迄とても企てられて居たが、しかしそれは單に形の上ばかりの企てであつたに反し、大戰後では、その依つて來る所の建築の要素の科學的追及によつて、純粹にした結果、形の簡明をもたらしたものである。

換言すれば、要素の純化による形の純化である。筆者はこの點に注目して大戰後のグロピウス、コルビユジエ等の一統を純粹派として便宜上、一まとめすることにした。(この純粹派に一まとめすることに對して、グロピウスの著書「インターナショナル建築」にまとめた新建築の形式よりして、インターナショナル建築派と命名する人々もある)

獨 乙 メンデルゾーン (Erich Menlelshn) グロピウス (Walter Gropius)
フアーレンカンプ (Emil Fahrenkanp) フイツシヤー (Alfred Fischer)
マイ (Ernst May)

和 蘭 アウト (J.J.P. Oud) ウイルス (Jan Wils)
デユドツク (W.M. Dudok)

佛蘭西 コルビユジエー (Le Corbusier) ステブン (Mallet Stevens)
ルルサー (Andre Lurçat)

等である。

これ等の他にも若い建築家でこの派に屬するものが多いし、又これまで述べた傳統派、表現派に屬する人々でも、最近はすべて、この純粹派の方へ轉向して居る。例へば表現派の最高位置を占めるペルチツヒでさえ、ベルリンの放送局の如きを造つて居るし、構造派の高峰ペーター・ベーレンスに、ストツトガルトの共同住宅あり、傳統派のシユマツヘル等もみな現代に於ては純粹派の作品を造つて居る現狀である。本誌の卷頭に新興建築として揭げてある多くの口繪寫眞は、すべてこの派に入るものである。

メンデルゾーンは、大戰後アインスタイン塔の表現派的作品によつて、名をなしたが、後に轉向して純粹派的作品を數多く造つて居る。そのうちショツケン商店、ヘルビツヒゼーネ商店、映畵館ウニフエルズムが有名である。

グロピウスは、1919 年ワイマールの國立バウハウスの長となり、後轉じて 1924 年デツサウにバウハウスを起して、急進的の藝術運動に從事したが、1928 年辭してベルリンで事務所を持つて居る。バウハウスも今はあまり盛名がないが、グロピウスの居た頃は非常に盛んで、新興建築の策源地の感があつたものである。

「世界的に開けた交通や、世界に共通な建築技術によつて、現代の建築は國民とか、個人とかが自づから持つ所の境界相違を打ち越へて、總ての文化國では共通の性質を持つ樣になつた。建築は常に國民的であり、又個性的であるにしても、この三つの焦點、即ち一個

人、國民、人類—のうちで第三番目の最も大なるもの(人類)が遂に前二者(個人と國民)を壓倒してしまふ故に“國際建築(International Architekture)”の名が生れる」

と云つて建築の根據を“人類”に求め國際建築を提唱して居る。作品にはアルフエルドの製靴工場、バウハウスの校舍、職員住宅、デツサウのジードルング等がある。

フアーレンカンプはグロピウス程に理論的でなく、簡明、直截、清新な作が多い。ミユールハイム市公會堂內部、パラストホテルの改裝、ハレ市のアクロポリス案、國際聯盟會館案等がある。

エルンスト•マイはフランクフルト•アム•マイン市の建築技師として、數多くのジードルングを造つた。住宅の大量建築に着目し、各部分品に標準規格を造つて、これを組み合せ、住宅の標準化による多量生產を實行に移し有名である。

マイの造つたフランクフルトのジードルング以後ドイツ各地にこの計劃があり、タウトも、アンカーもグロピウスも同じ行き方で、ジードルングを造つて居るのは注目に價する。

オランダの純粹派はアウト、ウイルス、デユドツクの三人で代表される。

元來オランダには表現派の系統を引いた幻想的な建築家の群、即ち天才デ•クラークを盟主としたアムステルダム派と、ここに說くアウトを盟主としたロツテルダム派があり、丁度その中間を行くのにヒルベルシユムのデユドツク一派がある。(日本で一時騷がれたオランダの新建築は多くはアムステルダム派を指す)アウトにはロツテルダムの共同住宅。ウイルスにはアムステルダムの大競技場、デユドツクにヒルベルシユムの學校、共同浴場、アムステルダムの百貨店等の作が有名である。

コルビユジエ、ステブン、ルルサーの三人はフランスの純粹派を代表する。フランスではトニー•ガルニエー(Tony Garnier)が1905年に旣に工業都市の大計劃を發表して世人を驚かした、ガルニエーは今リヨン市の技師として、住宅、運動場、屠殺場等の作がある。次でペレー(A. & G. Perot)はコンクリートのスレンダーに造れる性質に着目して、レンシー及モンマニユイーの教會堂を造つた。

コルビユジエについてはあまりにやかましく論ぜられて居るからここには說かない。作品にボルドー近郊の住宅群(1925)、ストウツトガルトの住宅(1927)、國際聯盟會館案、ソビエートロシヤ中央會館案等がある。ステブン、ルルサーは共にコルビユジエの流を汲むもので、前者にステブン街の多くの住宅があり、後者に住宅、聚合住宅の作がある。何れもコルビユジエ程に理論偏重者でなく、大衆の意向にも投じて居る樣である。(1933•5•25)

これ等の新興建築の系統的記述の詳しいものはアル ス建築大講座に石本喜久治氏と筆者が共同で執筆した最近建築樣式論があります。又武田五一博士著「意匠及裝飾の理論と沿革」にも詳しく出て居ます。なほメンデルゾーン、グロピウス、ピルチツピ、ペーターベーレンス、フアーレンカンプ、アウトの個人についての建築觀、作品等の詳しいものは、雜誌「新建築」昭和2年頃より昭和4年頃迄に筆者の執筆したものがあります。なほ上述の概說には揷繪が必要でありますが、載せることが出來ませんでした“Die Baukunst der neuesten Zeit”と云ふ本に、よくまとまつて豐富に出て居ますから、ついて見られたら、御參考にならうと考へます。

ソウエート・ロシヤの都市計畫と建築

藤田進一郎

I

革命前のロシヤの都市には、まだ社會的、經濟的計畫なるものは見られなかつた。尤もレニングラード（革命前のセント・ピータスバーグ）やオデツサあたりには都市計畫らしいものがちよいちよい現はれかけてゐたやうだが、それも一部特權階級の趣味を滿足せしむるためのものに過ぎず、產業一般の進歩とか、勞働者の福祉の增進とかを目標にしたものではなかつた。この點は、他の資本主義諸國と少しも變りはない。どこへいつてもブルジョア階級の住宅は一等場所を占め、無產勞働者階級は貧民窟におしこめられてゐた。工場と人口との分布も混沌としてゐた。しかもロシヤにおいては、民衆文化の標準は、他國に比べてすつと低いだけそれだけ、一層悲觀すべき狀態にあつた。

特に目だつた特徵は、農村勞働者と都市勞働者とが、全然ちがつた二つの別天地に隔離されてゐたことである。西ヨーロツパの諸國、ことにイギリスあたりでは、產業革命も早く行はれ、工業も著しく進歩し、資本主義制度も爛熟してゐる上に、領土の面積も狹くて小ぢんまりであるのみならず、道路も鐵道も國內に四通八達してゐるので、都市のブルジョア階級に屬する人々も、絕えず農村に接觸することができた。それが農村の勞働者と密接な親しい關係を生じ、生活程度の向上を促し、むしろ農村勞働者の生活程度の方が、工業都市の勞働者のそれよりも改善された狀態にある場合もあり得たのである。

ところが戰前のロシヤにおいては、交通の不便からブルジョア階級のものが、農村に出かけてゆくといふやうなことは絕對になく、互ひに遠く隔つた村と村との間の交通の自由も、極めて制限されてゐたので、そこに住む勞働者同志、または都市の工業勞働者との接觸も絕對に行はれなかつたので、いつまでたつても、周圍の世界とは文字通りに隔絕された武陵桃源に、原始的生活をつゞけるの外はなかつたのである。

そこで、革命の成功と同時に、ソウエート・ロシヤ當局者の直面した重大問題は、その固有の共產主義政策に合致するやうに、何よりもまづ公共生活、集團生活の社會的構造を建て直すことであつた。しかしてこの重大問題を解決するための具體的方法は、全國を通じて、工業の中心を科學的基礎の上に改造することゝ、これらの工業中心地を繞りて、その周圍に、工業の合理的發展を保障し、促進するやう人口を再分配することゝであつた。この二つの計畫を完成するには、第一に、現存都市の亂雜無秩序な發展を喰ひとめて、方法的に計畫し直さなければならぬ。第二に、その位置からみても、計畫からみても、生產と分配とが最も能率的に、經濟的に行はれるやうな組織をもつた新都市を創設しなければ

ならぬ。換言すれば舊都市の誤謬の訂正と、新都市の創設とである。

こゝにソウエート・ロシヤの都市計畫が初まつたのである。

2

ソウエート・ロシヤの都市計畫上の一般的原則ともいふべきものは、工場を中心として、それを繞つて、市民の共同生活が營まれるやうに出來てゐる點である。舊都市の不經濟な、無計畫な、でたらめに設けられた工場はすつかりとり拂はれ、新らしい工場が、廣々とした綠樹帶によつて絕緣された市外に分離して設けられた。これらの新工場は、健全なる都市計畫の原理に立脚して、それを中心に勞働者の共同生活團體が、衛星的に發展してゆくやうに計畫されたものである。かつ貧民窟や、その無宗教主義から邪魔ものになつたお寺や、その他無用の建築物の除去は、新規の共同生活に適合するやうに都市を建て直す上に、まことに都合よく、その結果、舊都市の改造には、すゐぶん思ひきつたことも出來る餘裕を生じ、多くの都市では、殆んど原形をとゞめないほどの荒療治が加へられた。

工場、または工場の集團は、中央にあり、自給自足的な共同生活の一單位として組織されてゐる。勞働者はみな自己の働らく場所に接近して住み、健康、休養、慰安、修養等に必要な、すべての施設を與へられてゐる。この單位は、工場地帶、社會地帶、農業地帶の三段に分離され、各地帶と地帶との間には廣濶な空地帶が橫はつて、完全に互ひに隔離されてゐる。社會地帶は、いつも工場地帶と、農業地帶との中央に位し、各地帶は、勞働者の肉體的精神的福祉の增進を考慮すると同時に、工場が最も經濟的に運營されるやうに計畫されてゐる。工場の建築にも、都市計畫の原則が應用され、美しい花壇によつて緣どられた廣い道路が、工場の建物と建物との間に縱橫に設けられてゐる。工場に近く技術講習所や、科學的研究所の建物があり、發電所などゝともに工場地帶を構成してゐる。工場地帶にはまた特に運輸交通の便利と將來の擴張發展とが顧慮されてゐる。

社會地帶は即ち住宅地帶である。こゝには勞働者の住宅を初め、政府の役所、學校、病院その他の公共用建築物、休養および一般社會的改善の施設に必要なる空地をも含み、日常品の配給所もこのうちに設けられてゐる。

農業地帶は食料を生產する。すべての農產物はことごとくこゝで耕作される。國有農場の設けられたところでは、それに附隨した各自の共同生活團體のための社會地帶をもち、前述の工場地帶と同樣の住宅區、學校、休養施設などを備へてゐる。

都市計畫の原理については、主要の動脈的道路に沿うて、細長くリボンのやうに都市を建設せよといふ一派と、廣大な地域を卜して、集中的大都市を建設せよといふ一派とが對立してゐるが、ソウエート政治のイデオロギーから見れば、その何れにも長所もあれば短所もあるから、現代の過渡期を通り越して後、實驗の成果が、もつと詳密なる分析研究を可能ならしむるまでは、どちらとも軍配をあげかねるといふので、兩者の優劣論はまだ決定してゐない。

工場、または工場の集團を中心にして、その周圍に共同生活團體を衛星のごとく分散さ

せる様式も、なるほど、かくて、最大の能率と經濟とをもつて工場を運營することはできようが、また勞働者の生活狀態は改善されるに相違なからうが、しかし、勞働者が、かくまでして二六時中工場と接觸を保ちながら生活しなければならないといふことが、心理的に見て、果して健全無害のものであるかどうかといふことについては、いろいろの議論が戰はされてゐる。

3

住宅地帶内における勞働者住宅の建築様式については、特に愼重に考慮され、多くの試驗的實驗がなされた。最初のほど全國一般に採用されたのは、二戸つづきのカテージ式の二階建を、田園都市(ガーデン シティー)風に建て並べることであつた。ところがこれは、二戸つゞきの分離建築は不經濟だといふのと、家族と家族とを結びつけずに却つて分離せしめ、ソウエート政策の根本精神となつてゐる共同生活充實の主旨に反するといふのとの理由で、間もなく放棄されたのである。

つづいて、大きな中庭を圍んで、四階建の長屋がブロツクをなして建てられることになつた。現在レニングラードには、この方式の勞働者住宅の標本が殘つてゐるが、それを見ると、第1階から第4階まで、幾條かの階段がつづき、その階段の兩側に、3室乃至4室のフラツトが並んでゐる。中庭の中央には共同洗濯場があるが、食事は各戸別々に支度することになつてゐる。これは前のカテージ式に比べると、よほど簡易化し、經濟化してゐるが、しかし、これもカテージ式に對するほゞ同じ理由で再び修正されたのである。即ち今度は中庭の一方を開放し、かつビルデイングの兩翼を短かくすることによつて、建築用地が節約され、階段の數を減じて、一つか二つかの大きな階段が適當の位置に設けられて、その階段が各階の各フラツトを連絡する廣々とした廊下に通ずることにしたのである。かうすると、一つの建築物のうちにある各戸は、互ひに自由に交通することが出來、共同生活の精神は一層振興されること受合である。第1階には共同炊事場と共同食堂と、幼稚園と、洗濯場とが設けられ、廊下つゞきには小さな炊事場もしつけられて、各戸別々の炊事も出來る。

ところが、この中庭式住宅ブロツクの主なる缺點は、最大限の空氣と日光とを、各戸、各フラツトに對して平等に供給することが出來ない點にあるので、この缺陷を補ふため、最近の傾向では、中庭を廢してまつすぐな、長い前面を有したビルデイングを、直角に屈折しながら、道路に沿うて、蜒々とつづけることになつてゐる。また新らしく都市を創建するに當り、空地の十分なる場合ならば、それが可なりの距離を隔てゝ、前後に重ねられてゐることもある。かうして各戸平等に最大限の空氣と日光とが供給されるやうになつた。たゞし、この様式では、公共建築物は、住宅地帶から別にかけ離れて、その附近で一番便利さうな場所に建てられる。

一人當りの住居面積は、普通9平方メートルといふことだが、建築材料や、熟練建築勞働者などの缺乏から、住宅の供給が不足がちなので、現在ではそれ以下の平均7 平方メー

トルぐらゐだらうとのことである。

4

次に建築物のデザインについてであるが、革命の建築上におよぼした影響は大したものである。資本主義社會から、突然に、しかも完全に、共産主義社會へと飛躍的な大變革を遂げたことは、各建築家をして、何とかして、この新社會のイデオロギーを最もよく象徴化した建築樣式を發見しようとする希望に燃えしめたのである。何でもかでも新らしいものに就かうとする焦躁から、空想ばかりが奔放して、初期に考へついたデザインやモデルには、隨分突飛な、奇怪なものも少くなかつた。いろいろと研究の結果、最後に西ヨーロッパに現在行はれつつある現代建築の精神が、その國際的なる點において、革命的なる點において、目的の直接的なる點において、建築費を低廉ならしむる單純さと速度とにおいて、最小限の熟練勞働者を必要とする點において、大衆の産業的氣質に調和する點において、すべてソヴエート・ロシヤの建築家の心を捕へたといはれてゐるが、しかし、これらの機能的樣式（ファンクショナル スタイルス）をとり入れて、さらに審美的に成功するには、その設計者の側において、特殊の經驗と熟練とを要するはいふまでもない。いかにあせつても、一朝一夕でできることではないのである。だからソヴエート・ロシアの建築物は、みな審美眼からは失敗だといはれてゐる。何しろ新らしい建築家に乏しく、學校の生徒が練習のために作製したデザインを、そのまゝ實際に採用したり、たゞモダニズムばかりを追求して、建築の歷史や、外國の建築大家の傑作を碌々研究する遑もなかつたので、それも無理からぬことであらう。それにソヴエート・ロシヤの建築家の特徴として、單に圖上の設計（プロゼクト）だけを準備すれば、それ以上それからできる建築物の建築中にも出來上つてからも、一切關係しないのが常である。プロゼクトが出來あがると、直に專門の建築技師に引き渡され、細目の圖引や、材料、價格の取りきめまで、一切のことが、その設計者からは獨立に、建築技師の責任である。これでは審美的効果をあげにくいのも當然であらう。しかし、これについては、現在すでに非難がもち上つてゐるので、意匠家と建築家とが同心一體となり、互に協同しなければならないことが、だんだんとわかりかけて來てゐるとのことである。

審美的觀念の缺けてゐる證據には、外國人がある建築物を視察にゆくと、まづ與へられるのが、その建築物に關する數字的統計である。その誇りとするところは、その室の數である、窓の數である。審美的に見たそれらはプロポーションではない。現になほ機械に對する狂信と、工業に對する熱意とが、まだ審美的反省を與ふる餘裕を生じない樣子である

新らしく出來た建築物の外觀は、どれもこれもよく似てゐる。住宅だか、病院の病室だか、ちよつと區別のつきかねるのが多い。大たい色彩のヴライエテイーが乏しい。レニングラードやヴオルガ地方、モスクワあたりはまださうでもないが、カルコフでは、セメントの灰色のまゝなのが多い。しかし建築家のシユクセーフ氏などは色彩の用ひ方について熱心に研究中であるから、將來はもつと明るい變化に富んだものが出來上るだらうと期待

されてゐる。

大たい西ヨーロツパ諸國の現代建築を見馴れ、かつ鑑賞しつけたものにとつては、ソウエート・ロシヤの新らしい建築は、何となくもの足りなく感じられる。建築家の仕事というよりも、むしろ技師の仕事に近い。その構成よりも、むしろマツスに訴へる壓力を重んじてゐる。たゞ一つ着想が宏大で印象的なのは、カルコフの『産業の宮殿』と稱せらるゝセラフイノフ氏の設計にかゝる建築で、將來この方向に向つて進んでいつたならば、ソウエート・ロシアの新建築にも、刮目すべき新機軸が現はれるだらうといはれてゐる。

5

上のやうに、建築物外部のデサインや構造には、まだもだ不十分な點は多いが、しかしその他の狀態においては、殆んど思ひがけないほどの改善ぶりを見せてゐるのである。むかしの空氣も光線も碌に通はない、小さい、病菌の餌食のやうな木小屋の集團の代りに、空氣も日光も自由に通ひ、便利に出來上つた小ぎれいな勞働者の住宅が建てられ、その周圍の施設もまたよく行き届いてるだけを見ても、ソウエート政治に對して相當の僻見を脫しきらないものでも、あまり惡口はつけまいやうである。さらに到るところ勞働者の心身の健康を增進する文化的施設が試みられてゐる。レニングラードのごとき帝政時代に一國の首都ともなつたほどの大都市できへも、革命前までは、下水道は無論上水道までも不完全で、非衞生的であつたが、革命後は、りつぱに現代式に改造され、漸次その他の主要各都市にもおよぼされつゝある。

都市生活の一般的改善については、ソウエート・ロシヤは、遙かに他の資本主義諸國の現狀を凌駕しつゝある。公園にせよ、圖書館にせよ、クラブにせよ、運動場にせよ、安息所にせよ、頗る野心的に、かつ大規模にできてゐる。都市として各種の公共的施設に骨を折つてゐるのみならず、市民自らにおいてもまた自發的に、勞働組合や、共同組合の組織を通じて、それとは別にまた各種の施設を完成してゐる。その一二の例をあげてみると、カルコフにおいては、食料品供給組合員は、組合自身の劇場をもつてゐるが、最新式で、設備も整ひ、廻り舞臺も出來てゐる。また組合自身の修養および安息のための公園をもつてゐる。公園內には、讀書室もあり、キネマもあり、音樂演奏場もあり、スポーツ練習場もあり、醫務室には醫師が每日出張して民衆の優生學上の相談に應じつゝある。

スターリングラードにおける機關車製造工場に働く勞働者のクラブは、1,500 人を收容し、室數 43、二つの大廣間から、圖書室、委員會室、研究室、安息室、醫務室、運動室、音樂室、幼稚園までも備はつてゐる。地下室には射擊場があり、屋上には男女の日光浴室がある。近き將來には附屬の劇場も出來るとのことである。

オデツサには 350 人のリウマチス患者療養所がある。大きな自然林の中にあつて數エーカーの面積を占め、ボートや白鳥の浮ぶ湖水をとりいれ、音樂堂、キネマ等が設けられてゐる。病人は一文も支拂はずに、自由にそこで療養することができる。この建築物はロシヤとして珍らしいほど色彩に注意し、農村生活の光景を、低い浮彫で描いたパネルがあつて建物全體を美しく引きたたせてゐる。(をはり)

——主として英國フエビアン協會のソウエート・ロシヤ調査團の報告による——

小住宅のプランの研究 (2)

岡田孝男

I 序言
II 小住宅に於ける室配置の研究
III 小住宅の室の數及廣さの研究
IV 小住宅プランの客觀的優劣比較

（以上4月號所載）

前號に於て筆者は、日本建築協會が30坪內外の小住宅の優秀なるプランを數多く得。それが關西建築界の小住宅に對する答案であることを說いた。そしてこの答案數十案より歸納的にある標準を引出さんことを企て、先づ室の配置の研究の結果

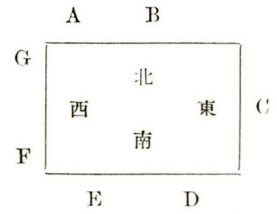
1 玄關の位置によつてプランをＡＢＣＤＥＦＧの七つに分類することを提案した。この分類に從へば、各タイプの室配置は定石的に決まつて來るので、その定石を探つた。これによつて、玄關の位置さえ知れば殘りの室の配列順序は必然的に分明となる。そしてこの法則に從はなければ好いプランが出來ないことを知つた。この詳細の說明は本號に載せた挿繪によつて知られたい。次に

2 小住宅のプランの吟味方法として室を居室部、作業室部、通路部の3部に分ち、この三部間の相互の關係を調べることにより、室配置の優劣を直ちに知る方法を提案した。

本號に於ては進んで、小住宅各室の廣さと數の標準を定め、居室部、作業部の各割合を調べて、住居係數、有用係數を求め、この比較により、小住宅の使用價値の標準を定め、更に第3段として、小住宅プランの優劣比較を客觀的にする爲、プランの要素を分析して多くの條件に換へ、この條件に合するや否やを檢して、優劣比較に資し、審査に際して從來行はれた審査員の綜合的主觀的審査方法の代りに分析的客觀的審査方法を提案する所まで行きたいと考へる。

III 小住宅の室の數及大さの研究

日本建築協會が昨年度より引續き懸賞募集した小住宅の優秀なる案の中より、26の當選案を選び、その敷地の廣さ、1階2階の坪數、更に詳しく居間、茶の間等の室の廣さを、居室部、作業部、通路部、屋外等に分けて列擧し、これ等を横に平均して各室の廣さの標準を知り、又縱に居住係數、有用係數、使用係數等を算出して、そのプランの使用價値を知り、更にこの係數の平均をとつて、標準係數を出したのが第1表である。



小住宅に於ては敷地のどの側に道路があるかによつて玄關の位置がきまる。玄關の位置は室配置の大勢を支配するから小住宅のプランを論ずるにあたりては玄關の位置は極めて重要である。左圖の如く

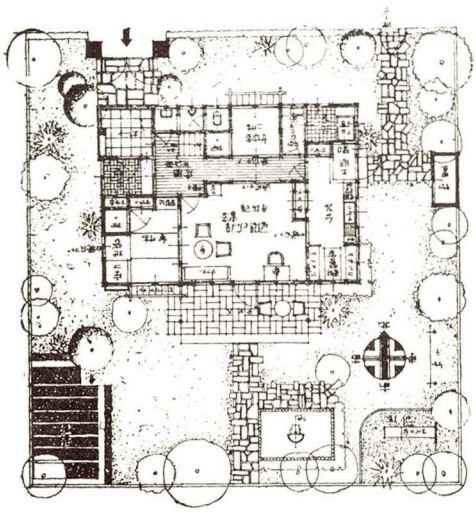
A タイプ　北北西入　　**B タイプ　北入**

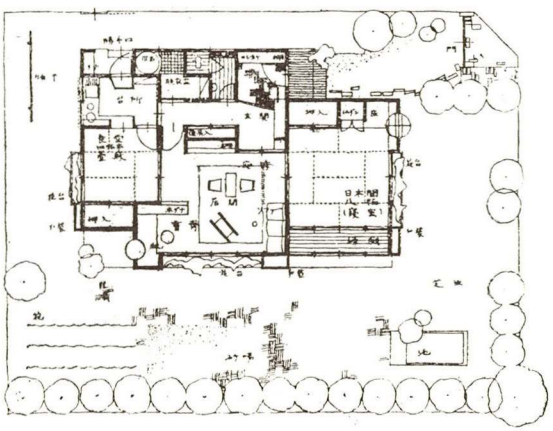
C タイプ　東入　　**D タイプ　南南東入**

E タイプ　南南西入　　**F タイプ　西入**

G タイプ　西北西入

の 6 タイプに分けると下圖の如くなる





（下を南とする爲轉倒しておく）

A タイプの例（玄關が北北西にあるもの）

北に道路のある場合に用ひられる。

南側に居室部がならび

北側に作業部室がならび

通路部がその中間を走りこれを連絡する。

住宅としては最もプランのやりやすいタイプである。

當選案 26 案中 2. 4. 6. 10. 19. 29. 30 の 7 案はこのタイプであり優秀なものが多い。

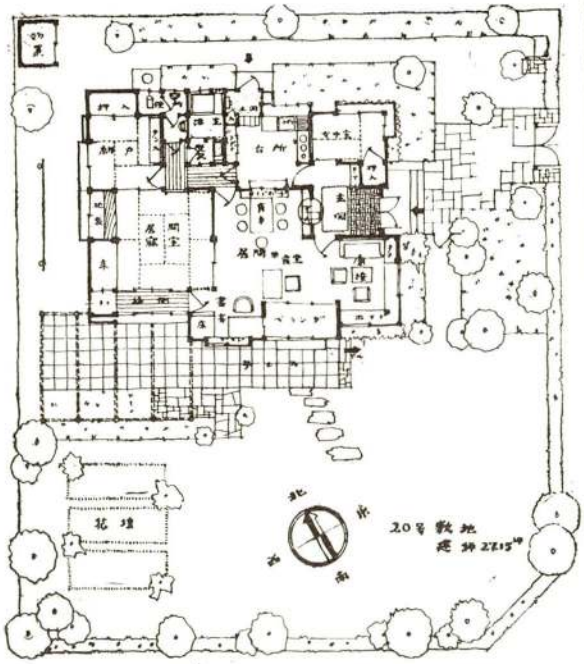
B タイプの例（玄關が北にあるもの）

北に道のある場合に用ひられるのが常であるが稀にはこの例の如く東に道ある場合にも用ひられる。

これも A タイプと同じく南側に居室部がならび、北側に作業室部がならび、通路部がその中間を走るがただ異なるのは A タイプは作業室が右廻り配置をとるが B タイプは左廻り配置をとる點である。

このタイプで東の方へ寄りすぎると玄關が鬼門にあたると云つて嫌ふ。

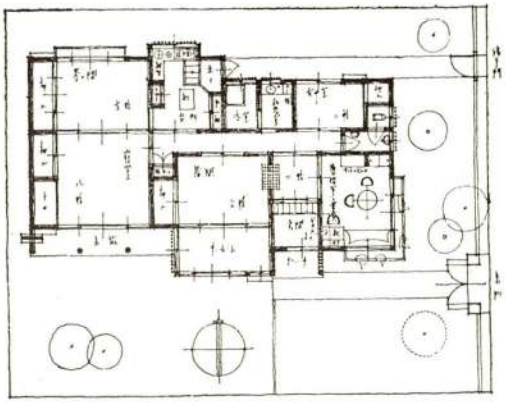
當選案 26 のうち 5. 15. 20. 24. 25. 27 の 6 案がこのタイプである。



C タイプの例（玄關が東にあるもの）

東に道がある場合に用ひられる B タイプと同じく作業室右廻りの配置をとる。

當選案 26 のうち 17 のただ1つがこのタイプである。

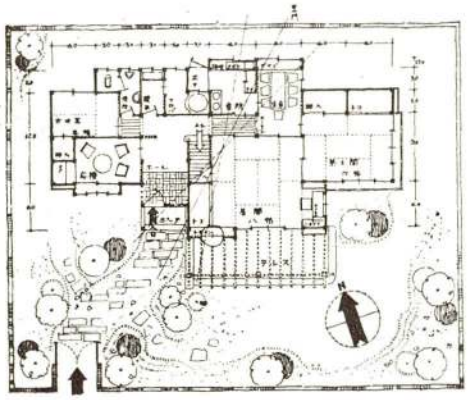


D タイプの例（玄關が南南東にあるもの）

通例は南に道のある場合用ひられるが、本例の如く東に道のある場合にもしばしば用ひられる。

D タイプは E タイプと同じく南側に玄關をとるので居室として用ふべき南側がそれだけ減ずることになり不都合である。且南側に玄關があるため出入するたびに居室部を覗かれる不利があり、又居室部を中斷して通路部があるので小住宅では不便な場合がある。

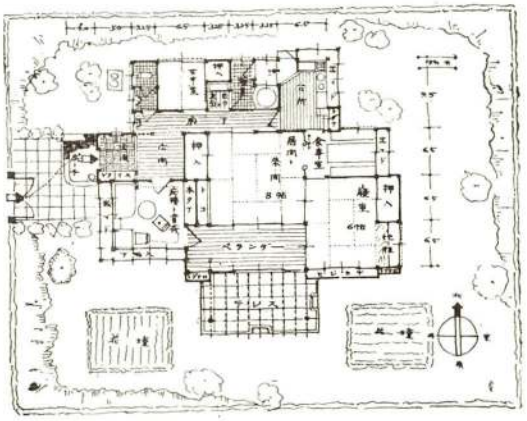
26 案のうち 1. 31 の2案がこのタイプである。



E タイプの例（玄關が南南西にあるもの）

南に道のある場合に用ひられるが西に道ある場合にもしばしば用ひられる。室の配置は丁度 D タイプの逆を行き作業部右廻りで通路部が居室部を中斷する。便否は D タイプと同様であるが東南の方向に主要室をとることが出來る點では D タイプに優る。但玄關が裏鬼門にあたると云つて嫌がられることがある。

26 案中 3. 21 の2案がこのタイプである。

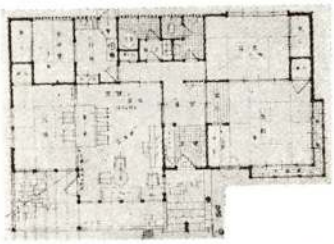


F タイプの例（玄關西がにあるもの）

西に道ある場合に用ひられる。入口がもう少し北に寄るものを G タイプとする。（圖を略す）

F タイプも G タイプも A タイプの様に作業部は北側へ右廻り配置をとり居室は南側へ左廻り配置をとる。而して通路部はその中間を走るから最もプランは作りやすい。

26 案のうち 9. 14. 22. 26 の4案がこのタイプであり 7. 8. 16. 32 の4案が G タイプである。

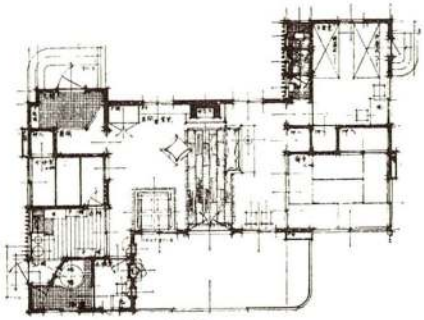


1　生活改善健康住宅1等當選
堀武雄氏案

D タイプ　南道

通路部が居室部を中斷す。

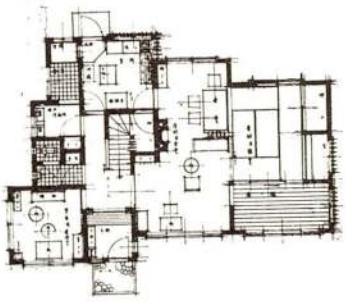
作業室右廻り。　住居係數　68.50%
有用係數　88.8 %
合格條件　45

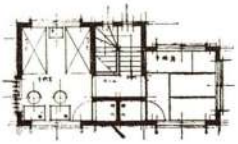


2　同上2等當選
櫻間大丈夫氏案

A タイプ　西道

居室が通路部を中斷す。別莊には廣々としてよし。　住居係數　67.00%
有用係數　92.20%
合格條件　39





3　同上　佳作1席
金子春夫氏案

E タイプ　西道

道より居室を覗かれる不利あり

住居係數　66.50%
有用係數　85.00%
合格條件　43

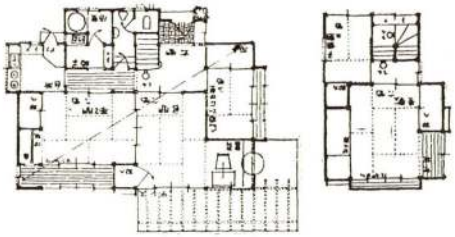


下を南とする傳統倒しておく

4　同左　佳作2席
鐘ケ江、後醍院兩氏案

A タイプ　北道

住居係數　72.20%
有用係數　92.80%
合格條件　43

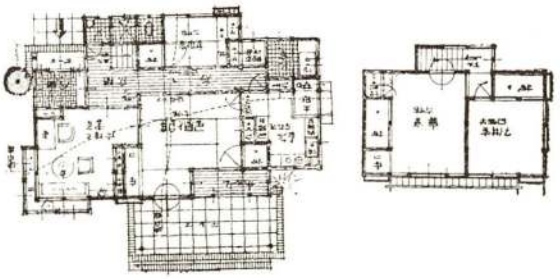


下を南とする傳統倒しておく

5　メートル法に依る小住宅1等當選
堀武雄氏案

B タイプ　北道

住居係數　66.20%
有用係數　78.70%
合格條件　48



同上

6　同上　2等1席當選
保田信夫氏案

A タイプ　北道

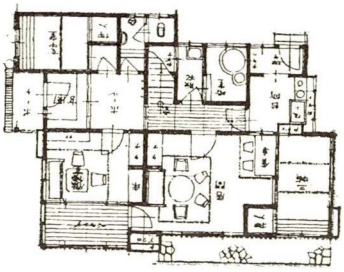
A タイプとして標準的のもの。

作業部右廻り居室部左廻り配置。通路部其中間を走る。

作業部の終り臺所と居室部の終り茶の間は隣り合ふ。

住居係數　57.60%
有用係數　80.00%
合格條件　56

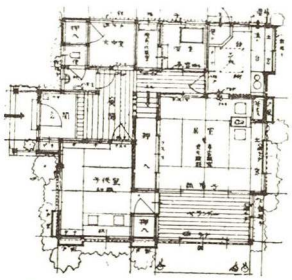
下を南とする傾斜例しておく

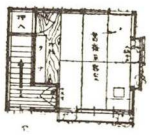




住居係数　56.20%
有用係数　81.60%
合格條件　48

7　メートル法に依る小住宅2等2席
久保田健祿氏案
G タイプ　西道

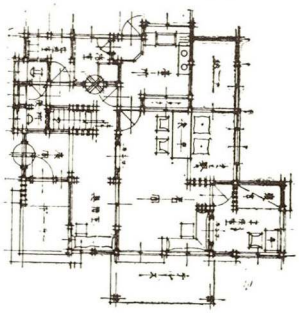


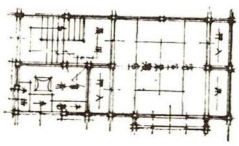


8　同上　3等1席
川部吉助氏案
G タイプ　西及北道

住居係数　59.00%
有用係数　82.00%
合格條件　56

下を南とする傾斜におく

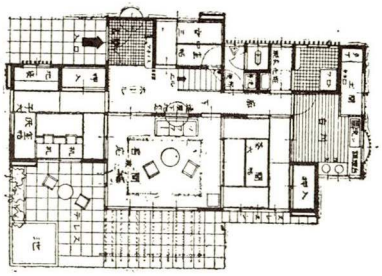




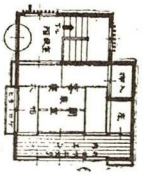
9　同上　3等2席
田子、内田、金澤三氏案
F タイプ　西道

住居係数　59.00%
有用係数　82.00%
合格條件　55

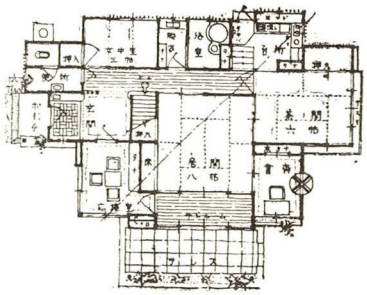
下を南とする傾斜におく

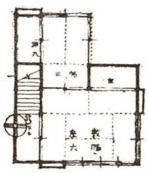


10　同左　3等3席
高木貞一氏案
A タイプ　北道



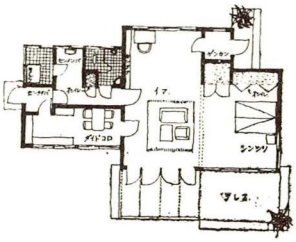
住居係数　52.90%
有用係数　76.00%
合格條件　43





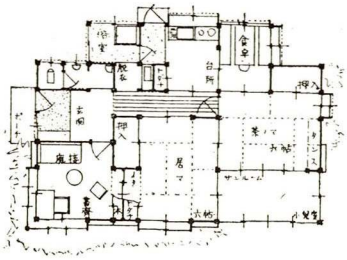
14　綠ヶ丘保健住宅1等當選
山口正雄氏案
F タイプ　西及北道

住居係数　62.60%
有用係数　83.10%
合格條件　52



15　同上　2等
佃十俊氏案
B タイプ　北道
これは門も玄關も鬼門にあたる。

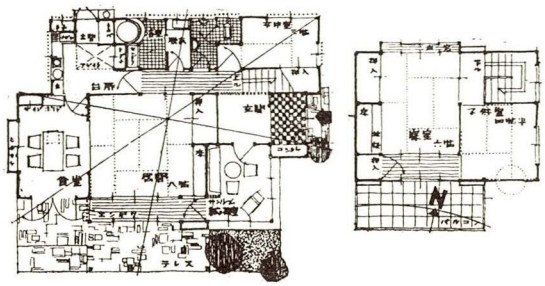
住居係数　64.80%
有用係数　92.26%
合格條件　46



16　絲ケ丘保健住宅 3 等 1 席
筑紫太郎氏案

G タイプ　西道

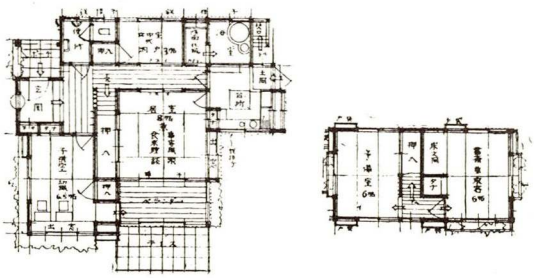
住居係数　63.80%
有用係数　87.80%
合格條件　49



17　同上　3 等 2 席
堀武雄氏案

C タイプ　東道

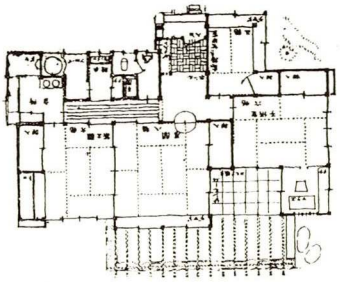
住居係数　56.00%
有用係数　76.80%
合格條件　47



19　大美野田園都市住宅 1 等
川邊吉助氏案

A タイプ　北道

住居係数　59.80%
有用係数　84.00%
合格條件　53

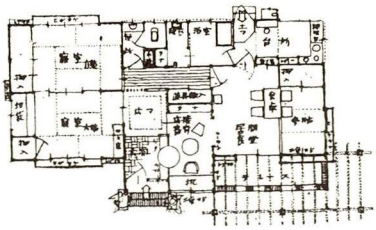


下を南とする為倒しておく

20　大美野田園都市住宅 2 等
楠田忠雄氏案

B タイプ　北道

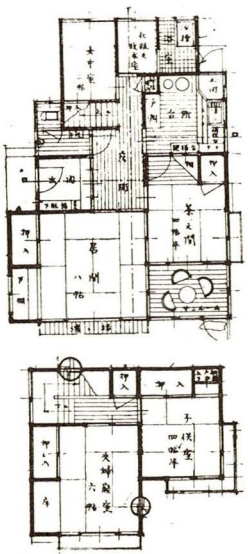
住居係数　71.60%
有用係数　87.30%
合格條件　50



21　同上　3 等 1 席
金子春夫氏案

E タイプ　南道

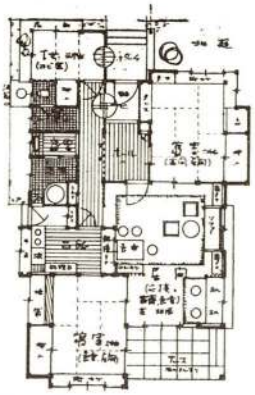
住居係数　54.20%
有用係数　87.00%
合格條件　50



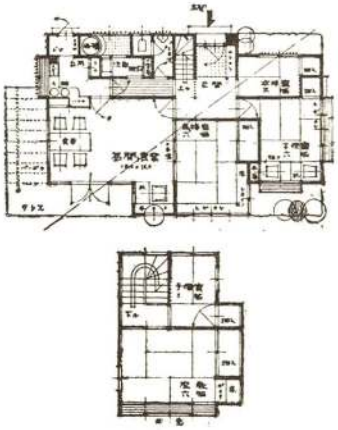
22　同上　3 等 2 席
田邊由次案

F タイプ　西及北道

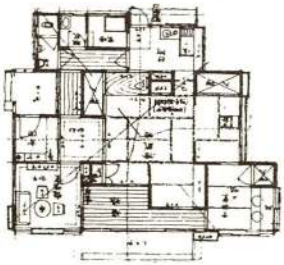
住居係数　59.80%
有用係数　81.80%
合格條件　50



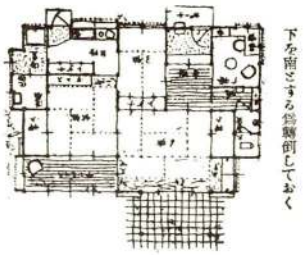
24 實際に建つ住宅1等
角田建築事務所案
B タイプ　北道
住居係數　61.80%
有用係數　86.20%
合格條件　47



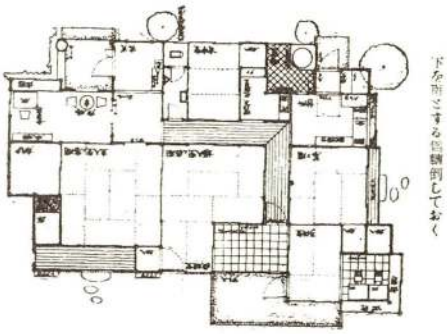
25 同上　2等
堀武雄氏案
B タイプ　北道
住居係數　64.00%
有用係數　82.00%
合格條件　44



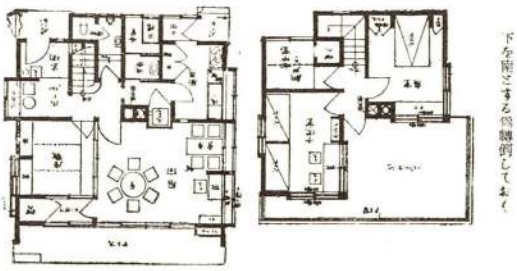
26 同上　3等1席
久保田健祿氏案
F タイプ　西道
住居係數　55.00%
有用係數　68.00%
合格條件　42



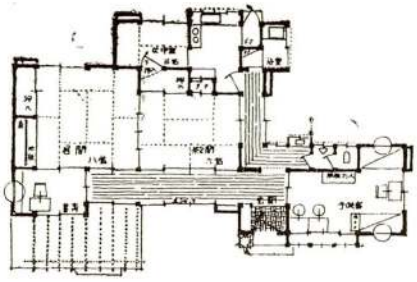
27 同左　3等2席
筑紫太郎氏案
B タイプ　北道
住居係數　59.60%
有用係數　89.50%
合格條件　48



29 阪和上ノ芝住宅1等
村瀬鑛一氏案
A タイプ　北道
住居係數　59.60%
有用係數　83.40%
合格條件　43



30 同上　2等
久保田健祿氏案
A タイプ　北道
住居係數　56.30%
有用係數　77.80%
合格條件　50



31　阪和上ノ芝住宅3等1席
西田哲郎氏案
D タイプ　南及西道

住居係数　71.50%
有用係数　92.80%
合格條件　49





32　同上　3等2席
金子春夫氏案
G タイプ　西道

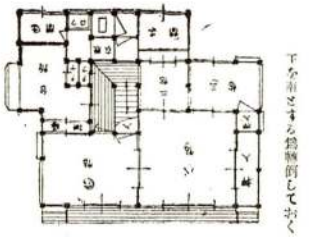
住居係数　63.50%
有用係数　84.80%
合格條件　54

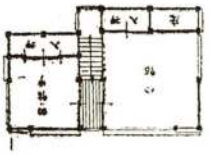
以上 26 案を ABCDEFG の7タイプに分つと次の結果になる。

A タイプ　2, 4, 6, 10, 19, 29, 30,
B タイプ　5, 15, 20, 24, 25, 27,
C タイプ　17,
D タイプ　1, 31,
E タイプ　3, 21,
F タイプ　9, 14, 22, 26,
G タイプ　7, 8, 16, 32,

これにより ABFG の4タイプに優つたものが多く、CDE の3タイプは少ないことが分る。即ち北道又は西道の敷地はプランがやり易いことが分る。

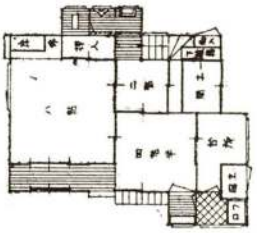
参考案

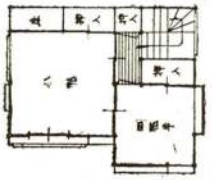




(一)日本建築協會住宅委員會立案第1案
敷地 56 坪　1階 17,5　2階 9,25　延 27,75 坪
B タイプ　北道

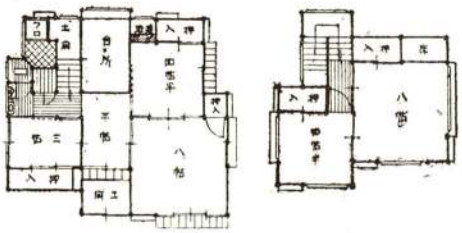
参考案





(二)日本建築協會住宅委員會立案第2案
敷地 36 坪　1階 14,41　2階 9,5　延 23,91 坪
C タイプ　西道
C タイプで作業部室が右廻りにあるのはよくない。

参考案



(三)日本建築協會住宅委員會立案第3案
敷地 56 坪　1階 16,6　2階 9,5　延 26,1 坪
E タイプ　南道

以上(一)(二)(三)は建築と社會第 15 輯第 6 號 61 頁にあり

この表を造るにあたり、敷地の面積は、明らかに分つたものはそのまゝかいたが、中には寸法が明かに分らぬため大體の大さを書いたものもある。又建築の坪數は疊2枚の大さを1坪と見た。柱の眞々の計算では、或は2米を1間としたもの、或は6尺を又は6尺5寸を等いろいろの尺度があつたが、すべて疊2枚を1坪とした　次に居間、茶の間等の廣さは便宜上疊數で表はしてある。

廣さの算定には家の中だけの廣さを取つた。從つて屋根はあつてもポーチやベランダの如き吹放しのところは採らなかつたが、出窓等の如く建具の入つて居る所は廣さに算入した　だから或は設計者の算定した坪數と本表に揭げた坪數は相違するかも知れないが如上の理由によることを知られたい。

又居室部の内へ押入と床棚を入れたことについては異論もあらうが、居間部に居て直接使ふから居室の一部と見做してゞある。サンルーム及廣椽を居室部へ入れて、普通の椽側を通路部に入れたについても問題があらうが、これは椽側とサンルームについて前に論じた事がある如く、筆者の提案である。元來日本住宅には椽側は必要缺ぐべからざるものと信じて居る人が多いが、これは古ガラスが普及して居なかつた頃のことで、今は事情が變つて居る。古の日本住宅では床が疊敷で且つ窓が床まで一ぱいにあいて居て、明り障子は紙貼りだつたので雨風の時には仕方がないから雨戸を入れてこれを防いだ。しかしかくすれば晝なほ暗くなるので、この不便を除く爲に室の外へ椽側と云ふ細長い板の間をつけ、これで室を保護して居たのであるが、今はガラスがあまねく普及して來たからガラス戸さえ入れゝば雨風は防ぐし且つ明るいから、椽側の本來の役目はなくなつたのである。しかしやはり習慣的に椽側をつけ且つ便利なガラス戸を併用して住んで見るとなかなか氣持がよい、冬は暖かくて溫室の樣だから依然日本住宅には椽側は必要であると云ふ人があるがこれは椽側本來の役目よりも新に起つた役目を云つたものである。室を雨風から保護する爲にこそ細長く室を取りまいたが冬暖くてよいと云ふサンルームの役目をつとめる爲には何も細長い必要はないから寧ろ1ケ所にまとめてサンルームとし、こゝを子供室なり又應接なり居室なりに使へば小住宅では甚だ便である。第一細長くては室として寢ることも出來なければ、椅子一つをけば邪魔になつて通れない位で、たゞ通路の役しかつとめない。居間として使へないから普通の椽側は通路部へ入れたのである。しかしこの椽側の考へ方は既に當選案にも歷然と現はれて居て26案中椽側のあるのは數へる程しかない。

次に居室部の室の名は居間、茶の間、應接、書齋、子供室、寢室、客室、次間、豫備室、サンルームといろいろあるが小住宅を於てはこれ等の全部を持つものはなく、何れもそのうちの3つないし5つを持ち、名前は客室とあつても、それを寢室として使ふ樣なことになるから、居間、茶の間等の居室は室の數とその廣さの和を示すにとゞめておく。其他の作業室、通路部の室々はそれぞれみなあるから、平均して標準廣さを出すことが出來た。

この表によつて

	募集題目	綠ケ丘保健住宅				大美野田園都市住宅			
	當選等級	一等	二等	三等一席	三等二席	一等	二等	三等一席	三等二席
	本文引用番號	14	15	16	17	19	20	21	22
敷地及建物坪數	敷地坪數 坪	118.74	145.20	94.50	101.00	80.00	76.50	90.00	76.50
	一階坪數 〃	23.00	19.19	20.24	20.53	21.57	24.00	23.00	19.00
	二階坪數 〃	6.50	—	—	8.75	8.00	—	—	9.57
	延坪數 坪	**29.50**	**19.19**	**20.24**	**29.38**	**29.57**	**24.00**	**23.00**	**28.57**
居室部室	居間 帖	8.00	14.00	6.33	8.00	8.50	9.00	10.00	8.00
	茶ノ間 〃	6.00	—	6.16	6.00	—	6.00	—	5.50
	應接室又ハ書齋 〃	3.83	—	5.50	—	—	4.00	3.50	—
	子供室 〃	3.50	—	—	4.50	7.25	8.00	—	5.63
	寢室 〃	—	9.50	—	6.50	—	—	6.00	6.00
	客室 〃	6.00	—	—	—	6.00	—	6.00	—
	次室又ハ豫備室 〃	3.00	—	2.75	—	6.00	—	—	—
	サンルーム又ハ廣椽 〃	3.00	—	4.00	3.75	4.00	3.00	—	3.00
	居室部ノ押入 〃	2.00	1.75	2.00	2.50	2.50	3.50	3.00	3.50
	床棚 〃	1.67	—	1.00	1.50	1.50	1.00	1.00	2.50
	居室部合計 帖	**37.00**	**24.75**	**27.74**	**32.75**	**35.75**	**34.50**	**29.50**	**34.13**
作業部室	臺所 〃	3.50	5.75	4.00	4.50	6.00	3.00	4.50	4.50
	浴室 〃	1.75	1.50	1.50	1.75	2.00	1.50	2.00	1.70
	脫衣化粧室 〃	1.25	1.50	0.75	1.00	1.00	1.25	1.25	1.50
	便所 〃	2.00	1.75	1.50	1.50	1.50	1.75	1.75	1.50
	女中室 〃	3.00	—	—	3.50	3.00	—	—	3.00
	納戸 〃	—	—	—	—	—	—	—	—
	作業室部押入 〃	0.50	0.25	—	0.50	0.50	—	1.00	0.50
	作業室部合計 帖	**12.00**	**10.75**	**7.75**	**12.75**	**14.00**	**7.50**	**10.50**	**12.50**
通路部室	玄關 〃	1.50	1.13	1.40	1.50	2.50	1.50	2.00	2.00
	ホール 〃	2.00	—	1.60	2.00	1.88	2.50	2.00	3.00
	廊下 〃	8.50	1.75	2.00	3.00	3.50	2.00	2.00	2.00
	椽側 〃	—	—	—	3.75	—	—	—	—
	階段 〃	2.00	—	—	3.00	1.50	—	—	3.50
	通路部合計 帖	**10.00**	**2.88**	**5.00**	**13.25**	**9.38**	**6.00**	**6.00**	**10.50**
屋外部	ポーチ 〃	1.00	1.00	1.00	1.00	1.50	1.00	0.50	2.00
	ヌレ椽又ハ肘カケ 〃	.98	—	—	—	1.16	—	1.60	1.70
	屋外部合計 帖	**1.80**	**1.00**	**1.00**	**1.00**	**2.66**	**1.00**	**2.10**	**3.70**
雜	テレス 〃	5.00	10.00	—	4.00	4.00	8.00	3.75	—
	バルコニー 〃	—	—	—	5.00	—	—	—	—
	雜合計 帖	**5.00**	**10.00**	—	**9.00**	**4.00**	**8.00**	**3.75**	—
係數%	建築係數% 一階坪數＋屋外 / 敷地坪數 %	20.20	13.20	22.10	20.90	28.51	32.10	27.50	27.30
	住居係數% 居室部 / 延坪 %	62.60	64.50	18.80	56.00	59.80	71.60	54.20	59.80
	有用係數% 居室＋作業室 / 延坪 %	83.10	92.26	87.10	77.50	84.00	87.30	87.00	81.80
	價值係數 %	145.70	156.76	156.60	133.50	143.80	158.90	141.20	141.60
	順位	**3**	**1**	**2**	**4**	**2**	**1**	**4**	**3**

實際ニ建ツ住宅				阪和上ノ芝住宅				平均値		百分比	
一等	二等	三等一席	三等二席	一等	二等	三等一席	三等二席	平家建ノ住宅	二階建ノ住宅	平家建	二階建
24	25	26	27	29	30	31	32				
91.00	131.00	115.00	76.00	132.50	75.67	93.72	96.00	99.30坪	88.20		
25.75	23.63	21.60	17.69	30.50	16.25	23.75	24.25	23.54坪	20.51	100.00	72.80%
—	7.50	—	—	—	8.75	—	6.75	—	7.70	—0	27.20%
25.75	**31.13**	**26.60**	**17.69**	**30.50**	**25.00**	**23.75**	**31.00**	**23.54坪**	**28.20**	**100.00**	**100.00**
10.00	13.50	13.00	7.00	8.00	11.00	8.00	6.00				
6.75	—	—	5.25	4.50	—	6.00	3.75				
4.00	—	4.50	2.50	4.50	—	3.00	4.75				
	6.50	3.00	—	6.00	6.00	8.00	8.00	26.15帖	26.15帖	55.64	49.98
7.75	6.75	—	—	—	6.00	—	—	3.7室	4.73室	%	%
—	6.00	—	—	8.00	3.75	—	6.50				
—	3.00	—	—	—	—	—	3.00				
—	—	4.25	3.00	3.00	—	6.00	3.50	1.94帖	1.97	4.12%	3.47
2.00	3.00	4.00	2.50	1.50	1.00	2.00	3.50	2.37坪	2.43	5.03坪	4.38
1.50	1.00	0.50	.75	1.00	.50	1.00	0.50	0.81坪	1.34	1.71坪	2.36
32.00	**39.75**	**29.25**	**21.00**	**36.50**	**28.25**	**34.00**	**39.50**	**31.32坪**	**33.98**	**66.50坪**	**60.10**
5.00	4.00	3.30	3.30	4.00	4.62	4.00	4.50	4.11坪	4.41	8.77%	7.83
2.00	1.25	1.50	1.25	2.00	1.13	1.50	1.50	1.54坪	1.66	3.27坪	2.95
1.00	1.25	1.00	1.13	1.50	.75	—	1.00	1.04坪	1.14	2.21坪	2.04
1.50	1.50	1.25	2.00	1.50	1.75	1.50	1.50	1.64坪	1.68	3.49坪	2.98
3.00	3.00	—	3.00	3.00	—	33.00	3.50	1.67坪	2.13	3.56%	3.78
—	—	—	—	2.00	2.00	—	—	0.17坪	.49	0.36坪	0.88
0.50	0.50	—	—	0.50	.50	—	1.00	0.33坪	.41	0.70坪	0.74
12.50	**11.50**	**7.05**	**10.68**	**14.50**	**10.75**	**10.00**	**13.00**	**10.50帖**	**11.92**	**22.36%**	**21.20**
1.50	1.50	2.00	1.5	2.00	1.50	1.00	1.50	1.59坪	1.71	3.38坪	3.05
2.50	3.00	2.00	2.00	2.00	2.75	—	2.00	1.57坪	2.34	3.33坪	4.15
3.00	2.50	2.50	—	4.00	3.25	—	3.50	1.73坪	3.15	3.68坪	5.50
—	1.00	—	—	2.00	1.00	2.50	—	0.38坪	0.84	0.81坪	1.50
—	3.00	—	—	—	2.50	—	1.50	—帖	2.48	—	4.41
7.00	**11.00**	**7.50**	**3.50**	**10.00**	**11.00**	**3.50**	**8.50**	**5.27坪**	**10.52**	**11.20%**	**18.70**
2.00	0.50	2.00	1.00	2.00	0.75	1.00	.100	1.16坪	1.37	2.45坪	2.90
1.50	0.80	—	—	.75	—	—	1.17	0.40坪	1.84	0.85坪	3.90
3.50	**1.30**	**2.00**	**1.00**	**2.75**	**0.75**	**1.00**	**2.17**	**1.56帖**	**3.21**	**3.30坪**	**6.80**
4.00	9.00	2.50	3.00	4.00	6.00	5.00	2.00	5.10坪	4.13	10.89坪	8.80
—	—	—	—	—	10.00	—	—	—	1.07	—	2.25
4.00	**9.00**	**2.50**	**3.00**	**4.00**	**16.00**	**5.00**	**2.00**	**5.10帖**	**5.20**	**10.80坪**	**11.00**
30.30	18.50	19.70	23.90	23.60	22.20	25.80	26.30	25.00%	25.00		
61.80	64.00	55.00	59.80	59.60	56.30	71.50	63.50	66.10%	60.00		
86.20	82.00	68.00	89.50	83.40	77.80	92.80	84.80	88.50%	81.50		
148.00	146.00	123.00	149.10	143.00	134.10	164.30	148.30	154.60%	141.50		
2	**3**	**4**	**1**	**3**	**4**	**1**	**2**				

	募集題目	生活改善健康住宅				メートル法ニヨル小住宅					
	當選等級	一等	二等	佳作	佳作	一等	二等一席	二等二席	三等一席	三等二席	三等三席
	引用番號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
敷地及建物坪數	敷地坪數 坪	90.00	95.00	?	?	85.00	76.50	80.00	75.00	75.00	75.00
	一階坪數 〃	26.88	23.85	22.75	26.25	17.63	17.56	17.56	19.63	20.88	23.55
	二階坪數 〃	—	—	7.25	—	8.00	7.75	7.62	5.00	9.38	7.00
	延坪數 〃	26.88	23.85	30.00	26.25	25.63	25.31	25.18	24.63	30.26	30.75
居室部室帖	居間 帖	11.00	18.00	12.00	19.00	8.00	7.00	10.75	9.00	13.50	10.00
	茶ノ間 〃	6.00	—	—	—	6.00	—	—	—	—	6.00
	應接又ハ書齋 〃	—	—	4.50	4.50	3.75	7.46	3.75	—	3.00	—
	子供室 〃	—	—	6.00	6.75	4.5	4.50	5.35	6.05	4.50	6.00
	寢室 〃	66.00	6.00	6.00	4.50	—	6.00	5.00	—	8.75	—
	客室 〃	10.75	6.00	—	—	7.00	—	—	6.00	—	6.00
	次ノ間又ハ豫備室 〃	—	—	4.50	—	3.00	—	—	—	3.00	—
	サンルーム又ハ廣椽 〃	—	—	4.00	—	—	—	2.25	4.00	—	—
	居間部ノ押入 〃	2.00	2.00	2.00	2.25	3.75	3.00	0.50	2.00	2.00	2.75
	床棚 〃	1.00		1.00	1.00	2.25	1.16	.94	1.50	1.00	1.75
	居室部合計 帖	**36.75**	**32.00**	**40.00**	**38.00**	**33.75**	**29.12**	**28.44**	**29.00**	**35.75**	**32.50**
作業部室帖	臺所 〃	3.00	3.50	4.50	6.00	2.50	4.50	3.30	4.25	5.25	6.00
	浴室 〃	1.25	1.80	2.00	.75	1.50	1.50	1.50	2.00	1.75	2.00
	脫衣室化粧室 〃	.75	1.70	1.75	.75	1.00	0.75	1.00	1.00	1.50	1.25
	便所 〃	1.75	1.50	1.75	2.00	1.75	1.50	1.50	1.75	2.25	1.75
	女中室 〃	3.00	3.00	2.00	2.00	—	2.75	3.00	2.00	—	3.00
	納戸 〃	—	—	—	—	—	—	1.88	—	3.00	—
	押入 〃	1.25	0.50	1.00	—	—	0.50	00.50	0.50	—	0.25
	作業部合計 帖	**11.00**	**12.00**	**11.00**	**11.50**	**6.75**	**11.50**	**12.68**	**11.50**	**13.75**	**14.25**
通路部室帖	玄關 〃	2.00	2.05	2.00	1.00	1.00	1.50	11.50	2.00	2.00	2.00
	ホール 〃	2.00	1.20	2.00	1.00	2.50	22.00	2.00	2.75	2.00	3.00
	廊下 〃	2.00	.50	2.00	1.00	2.50	3.50	3.25	2.50	3.50	4.50
	椽側 〃	—	—	—	—	2.00	1.50	—	—	—	2.50
	階段 〃	—	—	3.00	—	2.71	1.50	2.50	1.50	3.50	3.00
	通路部合計 帖	**6.00**	**3.70**	**9.00**	**3.00**	**10.71**	**10.00**	**9.25**	**8.75**	**11.00**	**15.00**
屋外部	ポーチ 〃	1.50	1.00	.75	2.00	1.50	1.00	1.00	1.25	3.00	4.00
	スレ椽又ハ肘カケ 〃	—	—	—	1.00	.55	80	—	.50	—	1.20
	屋外合計 帖	**1.50**	**1.00**	**.75**	**2.00**	**1.25**	**1.80**	**1.00**	**1.75**	**3.00**	**5.20**
雜	テレス 〃	7.00	10.50	—	4.00	7.00	7.50	3.00	3.00	4.00	13.00
	バルコニー 〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	雜合計 帖	**7.00**	**10.50**	—	**4.00**	**7.00**	**7.50**	**3.00**	**3.00**	**4.00**	**13.00**
係數	建築係數 % 一階坪數+屋外敷地坪數	30.80%	25.60	?	?	21.50	24.00	22.60	27.50	29.80	35.60
	住居係數 % 居室部延坪	68.5%	67.00	66.50	72.20	66.00	58.00	56.20	59.00	59.00	52.90
	有用係數 % 居室部+作業部延坪	88.8%	92.20	85.00	92.80	79.00	80.00	82.00	82.00	82.00	76.00
	價值係數	151.30%	159.20	151.50	165.0	145.00	138.00	138.00	141.00	141.00	128.90
	順位	**3**	**2**	**4**	**1**	**1**	**5**	**4**	**2**	**3**	**6**

1 小住宅の必要な室及その廣さの標準

2 敷地と建築面積との關係即ち建築係數

3 居室部と建築延坪との關係即ち住居係數

4 居室部、作業部の和と建築延坪との關係即ち有用係數

5 更に住居係數と有用係數の和即ち價値係數

を知り之等の係數の比較によつてプランの廣さの割合の優劣を客觀的に附すことが出來る。

（1）の小住宅に必要な室及その廣さは表の最終の行にある如く、平家建では、居室部が31.32帖で66.50％、作業部が10.05帖で22.30％、道路部が5.27帖で11.20％である。更に詳しく云へば居室部では居間、茶の間、應接室、子供室の4室で26.15帖、サンルーム1.94帖、居間の押入2.37帖、床及棚0.81帖が標準の廣さである。作業部では臺所4.11帖、浴室1.54、脫衣室1.04、便所1.64、女中室1.67、納戸0.17、押入0.33が標準廣さ。通路部では玄關1.59、ホール1.57、廊下1.73、椽側.38が標準となる。この外、屋外部としてポーチ1.25帖、ヌレ椽又は肘かけ0.4帖、テレス4.29帖等がある。二階建では、居室部が33.98帖で60.10％、作業部が11.92帖で21.20％、通路部が10.52帖で18.70％である。更に詳しく云へば居間部では居間、茶の間、應接室、子供室、客室の5室で28.24帖、サンルーム1.97帖、居間の押入2.43帖、床及棚1.34帖が標準の廣さ。作業部では臺所4.41帖、浴室1.66帖、脫衣室1.14帖、便所1.68帖、女中室2.13、納戸0.49、押入0.41が標準となり通路部では玄關1.71帖、ホール2.34帖、廊下3.15、椽側0.84、階段2.48が標準となる。この外屋外部としてポーチ1.25ヌレ椽又は肘かけ0.64帖、テレス5.5帖等がある。これが小住宅の室の廣さの標準であるから、プランを作つた時又は批評する時一應この標準に照し合せて見れば優劣ははつきり判る。

（2）の建築係數は敷地の廣さと建築面積の割合である。平均は25％となつて居るが、これは最初募集の條件として、80坪內外とか300平方米とか敷地の廣さを指定したものと及住宅地の地圖を與へその中の任意の敷地を設計者に選定せしめたものとあるが、そこえ30坪內外と云ふ坪數指定の住宅を設計せしめたのであるから、殆んど出題者の方でこの割合は定めた様なものである。だからここに求めた建築係數は設計者の自由によつたものでない。それだけに價値が薄いところである。それにしても大體の見當だけは分るであらう即ち多いもので35.6％、少ないもので13.2％、平均25％となり、世に說えられて居る標準30％よりも少し割がよい様である。

（3）の居室部と建築延坪との割合、即ち住居係數は多くて71.6％、少くて52.9％、平均標準は62.5％となつて居る。之は日夜居起する部分の廣狹を論するに必要な標準である。

（4）の有用係數は、居室部と作業部の和と建築延坪の割で、多くて92.8％、少くて76.8％、平均80％に達して居る、これは日夜起居する外に或は調理、入浴、化粧等に使用する部の廣さを現はすもので甚だ重要な係數である。

(5) の價値係數は筆者の提案するもので住居係數と有用係數の和を以つて表はす。この係數は居室部の廣さと作業部の廣さと建築延坪から成り立つて居る。そして作業室1と居室部2の割合に含んで居る。これは居室部と作業部の價値の相違から考へついたことである。居室部は日夜たえず家族が使用して居るから最も重要であることは勿論である。これに對し作業部室は、便所にしても浴室にして1日のうち數時間しか使はないがその使用中は重要な役目をつとめる。そこで兩部の價値を同等に見るか、差別をつけるかの問題が起るが、筆者は2對1の割合と假定してこれを求め、小住宅プランの比較にはこの價値係數を使ふことにした。これによつて順位をつけたものが表の最下位にある。

かく第1表により、小住宅に於ける室の數及その廣さの標準を見出し、且つ建築係數、住居係數、有用係數、價値係數等を求めてプランの價値の優劣を判斷する標準にした。

四　小住宅プランの客觀的優劣比較

何によらず多くのものを比較し、その優劣を定めることはむづかしい問題である。この優劣の定め方に二つの方法が考へられる。

(1) 審査員の判斷によつて定める……(主觀的)

(2) 種々の條件を始めに規定しこれに合格するか否かによつて定める……(客觀的)

前者が普通に建築界で行はれる方法であつて小住宅より大建築にいたるまで設計競技の審査には大抵これが用ひられる。即ち審査の順序及經過は應募案を先づ下選びして全然問題にならものをはねる。次に殘つたものを二選、三選して最後に15案乃至20案位を殘しこの中から或は討論により或は投票によつて4案乃至6案を拔いて當選案とするのであるが、この間常に審査員の主觀によつて、優劣の判斷をつけて居るのである。

この際飛び拔けて優秀な設計案ならば間違なく選に入るであらうし。又秀れた批評眼を有する審査員ならば、多くの同じ樣な程度のものゝ中からでも間違なく選ぶことが出來やうが、審査員とても神ではないから、或は佳いものを見逃すことが無いとは云へない。設計競技の時に應募者が審査員の人格力量如何を問題にするのは其處である。應募者にしてみれば一つに審査員の判斷に待ち抗議を申込むことも出來ないから、假りに審査員の認識不足によつて擊退される樣な不幸にあつても浮ばれないことになる。設計競技の當選に對しては、審査員がその責に任ぜねばならぬと前號に說いたのもこの點である。

扨て前述の樣に飛び拔けて優秀な案があつた場合は問題は起らぬが、同じ樣な程度の案が數多くある場合には、その選擇に困ることが起る。危險はこう云ふ場合に生ずる。

審査員がその主觀によつて判斷すると各々學識經驗の相違によつて主觀が違ふから意見が違ふ、その結果は審査員相互間に論爭を起すことがある。

この主觀的審査に比して後者の客觀的審査は、先づあらゆる場合を考慮して數多くの條件を規定しておく。そしてこの規定に合格するか否かによつて優劣をつけるのであるから前者に比べてより合理的である。すべて客觀的に事物を論することは進歩のもとである。

	募集題目	生活改善住宅					メートル法ニヨル小住宅							緑ケ丘保建住宅					大都市美田園住宅					實際ニ建ツ住宅					阪和上ノ芝住宅					合計	百分比	必要度
	當選等級	一等	二等	佳作	佳作	小計	一等	二等一席	二等二席	三等一席	三等二席	三等三席	小計	一等	二等	三等一席	三等二席	小計	一等	二等	三等一席	三等二席	小計	一等	二等	三等一席	三等二席	小計	一等	二等	三等一席	三等二席	小計			
	本文引用番號	1	2	3	4		5	6	7	8	9	10		14	15	16	17		19	20	21	22		24	25	26	27		29	30	31	32			%	
衛生的條件	家ノ方向ハ注意シテアルカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	−	5	+	+	+	+	4	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	−	+	+	+	2	22	85%	○
	各室ノ採光ハ十分デアルカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100〃	○
	居室部ノ日射ハ夏ト冬ト各都合ヨイカ	+	+	+	+	4	+	+	+	−	+	−	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	24	92〃	○
	居室部ニ西日ヲ防グ用意アリヤ	+	÷	−	+	3	+	−	+	−	+	−	3	−	+	−	−	1	−	+	+	+	3	+	+	−	+	3	+	+	+	−	3	16	62〃	×
	通風ハヨイカ	+	+	+	+	4	+	+	+	−	+	+	5	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	25	96〃	○
	夏季夜間ノ換氣ハヨイカ	+	+	+	+	4	+	+	−	+	−	+	5	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	−	+	3	+	+	+	+	4	23	89〃	○
	屋根裏ノ換氣ハヨイカ	+	+	+	+	4	−	+	+	+	+	+	5	+	+	+	+	4	+	−	+	+	3	+	+	+	+	4	+	+	−	+	3	23	89〃	○
	椽側又ハサンルームアリヤ	−	−	+	−	1	+	+	+	+	−	+	5	+	−	+	+	2	+	+	−	+	3	−	−	+	+	2	+	+	+	+	4	17	60〃	×
	テレスアリヤ	+	+	−	+	3	+	+	+	+	+	+	5	+	+	−	+	3	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	22	85〃	○
	便所ハ改良型カ	?	?	?	?	?	+	+	?	?	+	+	4	+	?	?	+	3	+	?	+	+	3	+	+	?	+	3	+	?	+	+	3	15	58〃	×
	防寒ノ設備アリヤ（窓二重）	+	−	+	+	3	+	+	+	+	+	+	6	+	−	+	+	3	+	+	+	+	4	−	−	+	+	2	−	+	+	+	3	21	81〃	△
	臺所ニ西日ガ多クアタリハセヌカ	+	−	+	+	3		+	+	+	+	+	4	+	+	+	−	3	+	−	+	+	3	−	−	+	+	2	+	+	+	+	4	19	73〃	△
	衛生的條件合計 12	10	7	9	10		10	11	10	7	10	9		11	9	9	11		11	9	11	10		9	9	9	12		10	11	11	11				
構造的條件	腰積アリヤ空氣拔穴アリヤ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	25	96〃	○
	耐震的考慮アリヤ	+	+	+	+	4	−	+	−	+	+	−	3	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	22	85〃	○
	防盜ノ用意アリヤ	+	−	+	+	3	−	+	+	+	+	+	5	+	−	+	+	3	+	−	+	−	2	−	−	−	+	1	−	−	+	+	2	16	62〃	×
	屋根ニ谷ガ多スギハセヌカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100〃	○
	二階窓ニ雨風ヲ凌グ庇アリヤ	○	○	+	○	1	+	+	+	+	+	+	6	+	○	○	+	2	+	○	○	+	2	○	+	○	○	1	○	+	○	+	2	14	100〃	○
	一階ト二階ノ柱ガ通ルカ	○	○	+	○	1	−	+	−	+	+	−	3	+	○	○	−	1	+	○	○	+	2	○	+	○	○	1	○	+	○	+	2	10	85〃	○
	一階ト二階ノ間仕切ガ重ルカ	○	○	+	○	1	−	−	−	+	+	−	2	+	○	○	−	1	+	○	○	−	1	○	−	○	○	○	○	+	○	−	1	6	69〃	×
	構造的條件小計 7	4	3	7	4		3	6	4	7	7	4		7	3	4	4		7	3	4	5		3	5	3	3		3	6	4	6				
經濟的條件	敷地ニ對シテ建坪ハ適當ナ割合カ	+	+	?	?	?	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	24	92%	○
	庭ハマトマツテ居ルカ	+	+	+	+	4	−	−	+	−	−	+	2	+	+	+	+	4	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	+	+	−	+	3	20	77〃	△
	居室部ト延坪ノ關係住居効果ハヨイカ	3	2	1	4		6	3	2	5	4	1		2	3	4	1		3	4	2	3		3	1	4	2		2	1	4	3				
	有用室ト延坪ノ關係有用効果ハヨイカ	2	3	1	4		2	3	4	5	5	1		2	4	3	1		2	4	3	4		3	2	1	4		2	1	4	3				
	プランノアウトラインハ簡單カ	+	−	−	−	1	+	+	−	+	+	−	4	−	+	+	+	3	−	+	+	+	2	−	+	−	+	2	−	+	−	+	2	14	54%	×
	建具ガ多スギハセヌカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100〃	○
	經濟的條件小計 6	9	7	4	10		11	9	9	13	12	6		7	11	11	6		8	12	9	10		9	7	8	10		7	6	10	10				

使用的條件	門ト玄關ノ關係ハヨイカ	+	+	?	?	?	+	+	−	+	+	+	5	−	+	+	+	3	+	+	+	+	4	+	+	−	+	3	+	+	+	+	4	21	81%	△
	雨ノ日ニ出入ノ便ナポーチアルカ	+	−	−	−	1	−	+	+	+	+	−	4	+	−	−	+	2	+	+	+	+	4	+	−	+	−	2	+	+	−	−	2	15	58%	×
	外部ヨリ居間ガ見通サレルコトハナイカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100%	○
	玄關カラ居間ガ見透サレルコトハナイカ	+	−	+	−	2	−	+	+	+	+	−	4	+	−	+	+	3	+	+	+	−	3	+	−	−	−	1	+	+	−	+	3	16	62%	×
	玄關カラ臺所ガ見透サレルコトハナイカ	+	+	−	+	3	+	+	−	+	+	+	5	+	+	+	+	4	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	+	+	+	−	3	22	85%	○
	各室ノ獨立性アリヤ	+	−	−	−	1	+	+	+	+	−	+	5	+	−	+	+	3	+	+	+	+	4	+	+	−	−	2	+	+	+	+	4	19	73%	△
	各室ノ大キサハ適當カ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	−	+	3	+	+	+	+	4	25	96%	○
	各室ノ配置ハヨイカ	+	+	+	−	3	+	+	+	+	−	+	5	−	+	+	+	3	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	23	89%	○
	茶ノ間ト臺所ハ隣リ合ハセカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100%	○
	浴室ノ焚口ハ臺所ニアルカ	+	+	+	+	4	−	+	+	+	+	+	5	+	+	+	+	4	−	+	+	−	2	+	+	+	+	4	−	+	+	+	3	22	85%	○
	脫衣化粧室ハ外氣ニ面スルカ	−	+	+	+	3	−	+	+	+	+	+	5	+	+	−	+	3	+	+	+	+	4	+	−	+	+	2	−	−	−	+	1	18	69%	×
	便所ノ位置ハ適當カ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100%	○
	便所ノ廣サハ適當カ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100%	○
	大小便所共外氣ニ面スルカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	−	+	+	+	3	25	96%	○
	階段ノ傾斜ハヨイカ	○	○	+	○	1	−	+	−	+	−	+	3	+	○	○	+	2	+	○	○	−	1	○	−	○	○	○	○	+	○	+	2	9	81%	△
	階段ノ位置ハヨイカ	○	○	+	○	1	+	+	+	+	+	+	6	+	○	○	+	2	+	○	○	+	2	○	+	○	○	1	○	+	○	+	2	14	100%	○
	居間寢室ニハ適當ナ押入ガアルカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	−	+	5	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	−	+	+	3	24	92%	○
	臺所ノ家具配置ハ便カ	+	+	−	+	3	−	+	+	+	+	+	5	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	24	92%	○
	各室ノ棚戸棚ノ位置ハ考慮サレテアルカ	−	+	+	+	3	+	+	+	+	−	−	4	+	+	+	+	4	+	−	+	+	3	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	21	81%	△
	臺所用ノ庭ガアルカ	−	+	+	+	3	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	25	96%	○
	二階ニ二室アルカ	○	○	+	○	1	+	+	+	−	+	−	4	+	○	○	+	2	+	○	○	+	2	○	+	○	○	1	○	+	○	+	2	12	92%	○
	建具ハ開戸ガ多クハナイカ	−	+	−	−	1	+	+	−	+	−	+	5	−	−	+	−	1	−	+	−	+	2	+	−	+	+	3	+	−	+	−	2	13	50%	×
	窓出入口ノ位置及戸ノツケ方ハヨイカ	+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	−	−	3	+	+	−	+	3	+	+	+	+	4	24	92%	○
	臺所出入口ト裏内トハ近イカ	−	+	?	?	?	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	−	+	+	+	3	+	+	+	+	4	26	81%	△
	使用的條件小計	24	16	18	17	14		18	24	20	23	18	20		21	17	19	22		22	20	20	19		20	17	16	18		17	21	18	21				
迷信的條件	鬼門張リデハナイカ		+	−	+	−	2	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	−	3	−	+	+	+	3	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	22	85%	○
	便所ノ位置ハヨイカ		+	−	+	+	3	+	+	+	+	+	−	5	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	24	92%	○
	出入口ノ位置ハヨイカ		+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	−	3	+	+	+	+	4	25	96%	○
	迷信的條件小計	3	3	1	3	2	7	3	3	3	3	3	2		3	3	3	2		2	3	3	3		3	3	3	2		3	3	3	3				
美的條件	外觀ハヨクナルカ		+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100%	○
	室内ハ狹苦シクハナイカ		+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100%	○
	居室部ハ氣持ヨイカ		+	+	+	+	4	+	+	+	+	+	+	6	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	+	+	+	+	4	26	100%	○
	美的條件小計	3	3	3	3	3		3	3	3	3	3	3		3	3	3	3		3	3	3	3		3	3	3	3		3	3	3	3				
結果	合計		45	39	43	43		48	56	48	56	55	43		52	46	49	47		53	50	50	50		47	44	42	48		43	50	49	54				
	順位		1	4	2	3		4	1	5	2	3	6		1	4	2	3		1	2	3	4		2	3	4	1		4	2	3	1				

換言すれば前者が審査員の主観による神秘的、綜合的判斷であるに對し、後者は客觀的條件による科學的分析的判斷である。

そこで筆者は後者の方法を用ひて、分析的審査を行つて見た、これが第2表である。…客觀的分析的審査は誰がやつてもよい理であるからあえて潜越と考へないでいただきたい…

先づプランの要素を分析して條件に換える。

1 衛生的條件　　2 構造的條件　　3 經濟的條件

4 使用的條件　　5 迷信的條件　　6 美的條件

の6つに大別し更にこれを詳細に分けてプランの價値を分析的に調べ、最後にこれを合計して綜合的價値を定めたのである。

この第2表によつていろいろのことが見出される。

1 一つのプランについてどの方面が優れて、どの方面が劣て居るか、即ち設計者の意圖を明瞭に數的に表はす。

2 小住宅で必ず具備しなければならぬ條件と、どうでも好い條件と、なるべく具備したい條件とが分る。

3 多くのプランの間の優劣を客觀的に採點によつて數的に表はすことが出來る。

4 審査員の認識程度を逆に當選案の方から推察される。

(1) のプランの優れたる點と劣る點は表を見れば一目にして分るから設計圖の長所と短所を數的に表はす。引いては設計者の注意の周到なりや否やをも覗うことが出來る。例へば第5號の住宅の例を見れば衛生的條件は 9/12 を滿たし、構造的條件は 3/7 を滿たし、經濟的條件は 11/18 使用的條件は 18/24 を滿たすなど各方面に缺點があり著しい特長がないのに一等になつて居るのはプランの方から云へば解せないことである。又第6號の住宅に於ては經濟的條件が 11/18 で少し劣るが使用的條件は 24/24 の滿點で頗る優れて居ることを知る。

(2) の小住宅で具備すべき條件の輕重は表の最終の行を見れば分る。この際 85% 以上を必須條件として○で表はし、70% 以上をなるべく具備すべき條件として△で表はし、70% 以下は輕く考へられる條件で×で表はしてある。

必須條件としては家の方向、採光、日射、通風以下 55 ケ條あり、なるべく具備すべき條件としては防寒の設備、台所の西日以下 8 ケ條、比較的輕く考へる條件は西日を防く用意、椽側、便所以下9ケ條あると云ふ結果になる。この結果は大體當を得て居ると思はれるが、ただ輕い條件のうち、西日を防ぐ用意は樹木を植えて庭園工事の方に讓つたものとし、椽側又はサンルームは小住宅ではあまり必要でない樣に表はれて居る。便所が改良型か否かは設計案の中の 11 ケ案は不明瞭のものがある。恐らくこれ等は改良型のつもりであらうが、明かにしてないから、この結果が出たのである。防盜、間仕切の重なり、プランのアウトライン、ポーチ、玄關から居間の見透し、開戸などの條件は何れも重要であるが、當選プランを調べて見ることこれが等閑に附してあるのは不思議である。これ等は或

は周到ならざる審査によるか、又はこの點に注意した應募案が少なかつたかに依る。

(3) のプラン相互間の優劣比較を客觀的になすこと。これは本表の主要の役目である。採點により數的に表はされるから一目瞭然である。

例へば第5號住宅と第6號住宅を比較するに5號は48點、6號は56點でプランでは6號の方が遙かに秀て居ることが分る。5號の方は缺點が多いにかかはらず1等になつて居るのは或は他のエレーベーションなどの條件によつたものかも知れない。それに反し6號は用意周到なプランで明かに1等の價値があることが數に表はれて居るのである。

その他審査の順位と筆者の企てた第2表の客觀的分析審査の順位との間に著しく相違のあることを知るのであるが、これは筆者の試みた第2表はプランについてばかりやつたので、エレベーションは全然度外視して居る所から起つたものと思ふ、事實、應募案審査にあたつてはエレベーションが甚だしく審査員を誘惑するのは爭はれぬ所であるから。

(4) の審査員の認識程度を逆に當選案の方から推察するのは甚だ潛越なことであるが、第2表を見ればほぼ見當がつく、例へばメートル法による小住宅の審査員諸氏は構造的條件のうちで、柱が通るか否か、2階の間仕切が1階の夫と重なるか否かと云ふ二條件を著しく寬大に取扱つて居られることが表に現はれて居る。(事實審査員の審査評にも今回の當選案には2階と階下の重ならない構造的の缺陷あるものが多かつたのは遺憾であると云ふ意味のことを書いてあるから、意識的に寬大な取扱をされたものと居ふが、小住宅に於ても、この二條件は嚴格に考へねばならぬと思ふ。)

以上第2表の効能書をならべて、客觀的分析的審査の合理的なことを推奬したが、この客觀的審査方法にも幾多の難點がある。その最も大なるは

1 如何なる條件を採るべきか?

2 採用した條件甲乙間の價値の輕重をいかにつくべきか?

の問題である。採用せる條件が不當ならば、それによつて得た結果に價値のないのは勿論であるが、假に適當な條件をことごとく擧げたとしても、これ等の條件を對等に扱ふべきか、又は輕重をつくべきか、若し輕重をつけるとしたらその差違如何と云ふことが問題となる。しかしこれは審査方法の本質的問題でなく、從屬的の問題であるから科學的研究により進歩の可能性はある。かの主觀的綜合的審査がたゞ審査員の判斷にのみたより、何等そこに施こすべき手段なく、假に審査に不審を抱いても『審査に對して抗議することを得ず』などと云ふ實に亂暴きはまる野蠻條件が、巾をきかせて居てどうにも仕樣がない、胸をなでて我慢する樣な中世紀的風景に比較して、この客觀的分析的審査は、はるかに剛かである。そして進歩的である。

この意味に於て第2表はたとえ幾多の缺點があるとしても、それを科學的に順次正して遂に正確なものになし得る可能性はある。ことに小住宅の如く條件が規定しやすいものにあつては、この審査法を提案しても間違は少ないと考へる。

(**附記** 本稿は五月號に揭載の豫定であつたが都合で後れて本月號になつた。執筆者の御諒恕を願ふ。編者)



新興建築展覽會後記

日本建築の愛好者にして熱心なる研究ブルノ・タウト（Bwno Taut）氏の訪日を機會に日本建築協會が試みた二つの仕事が朝日會館に於ける新興建築展覽會（自5月8日至5月12日朝日新聞主催）の後援と本會期中に於ける本協會主催のタウト氏歡迎講演會とであつた、筆者は暫く展覽會に就いて後記的な筆をとることにしよう。

建築の歷史は古く人類と共にあるが昔も今も大衆を離れて存在した建築は無い、建築が大衆のものである限り建築家も大衆も其建築に對する目的なり慾求なりは同一のものでなければならぬ筈である、それがある場合專門家の爲めにのみの技術的な自己滿足であつたり、或は又餘りに妥協的な放任されたる大衆的の所產であつたりしてゐる間は決して建築の健全なる發育を產むことが出來ないのである。

こゝに於て建築の博覽會の計畫が必要となるのである、理論的な檢討と大衆化とが斯くの如くして試みられる。

されば今回の如き新興建築展覽會は之を單にタウト氏の來朝記念及歡迎の意味許りで無くもつと一般的に寧ろ斯くの如き機會に於て建築家も大衆も膝を突き合せて建築の事を考へてみる事を望んだものと思はれる、今日に於ける我々の建築を、自分の問題として反省してみることなのである、而も之がタウト氏への最もよき歡迎ともなれば又記念ともなるであらう。

曾て試みられた建築に關する展覽會の印象は1888年倫敦に於けるウヰリアム、モリスの新工藝展よりセセツシヨンのウヰーン第1回展(1897年)續いて1900年の巴里大博覽會等に始り實に多くの計畫が次々と實現され之等に依つて啓發され、育てられた事の大であつた事は1900年以後世界に於ける新建築發達の現狀が最も雄辯に之を證明してゐる。

極く最近の例としては伯林（一昨年）の建築博覽會及びそれより前のストツツトガルトの住宅展等々あり、今や我々は我々の建築に對して無關心ではゐられない時期にあるのである、而も其傾向たるや形の問題にもせよ或は機能、經濟の問題にもせよ既に人類の立場に於て出發してゐる以上、我々は個人とか、民族とかの建築を考へると同時にもつと廣く國際的に前二者をも包含する大いなるものの建築に就いても考へる時機に到達してゐる事を識らねばなるまい。

新興建築展＝：

先づ新興とは何を表はすことか、曰く、白く單純なる壁、曰く簡明なる原始的機能或はあらゆる近代科學の建築的消化等、勿論之等は間違つた解釋では無からう、併し未だ我々は所謂新しいと呼ぶ建築に尙多くの不滿を有つのである。新しい日本が求めつゝあるものに實に多くの題目がある。



そしてこの一つの滿されざる世界の、日本の、新建築に求めつゝある建築的努力の姿こそは新興の名を以て冠せしめなければならぬものである、日本は曾て日本の建築を有つたことがある。が併し之は日本のクラシックであつた、現代の日本は更に現代の日本の建築を求めつゝ懸命なるものがある、之が國際的にアナクロニズムであつてはならぬと同時に又日本の土から離れたものであつても駄目なのである。茲に日本の新興建築なるものゝ立場があり從て意義が明瞭になると思ふ。

扨て今回の展覽會に就いて二つ三つ報告的なものを擧げて筆者の役割を終ることにしやう。

掲示された寫眞に就いても想像出來るように展覽の内容は

（A）日本の新興建築（寫眞及模型）
（B）外國新興建築寫眞（主として獨逸、佛蘭西）
（C）タウト氏記念室（同氏作品寫眞）
（D）特別出品（滿洲農業移民に對する居住地計畫の一部）
（E）モデル、ルーム（委員案五種）

の五種類であつた

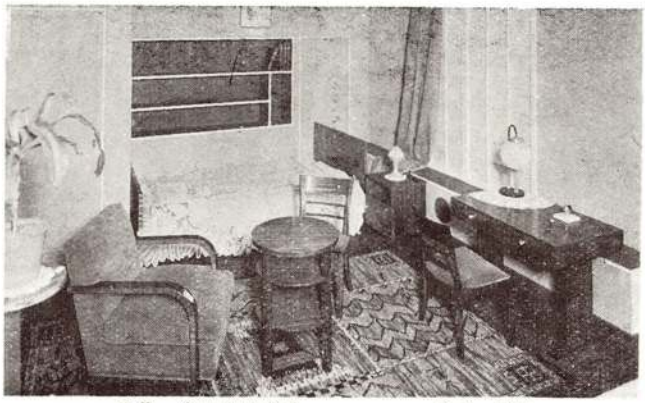
大部分の材料が外國のものであつた爲めに寫眞や繪畫等の展覽であつたのは止むを得ないが項目別にして

集合住宅——三十有種
住　宅——十四種
學　校——六　種
病　院——五　種
公共建築——十四種
事務所——四　種
工　場——三　種
記念建築——十一種
教會堂——三　種
其　他——十四種

等百數十點を展覽し得たのは誠に成功であつたと思ふ、それに就いても材料蒐集に盡力下された藏田、山脇、今井、山田、吉田の諸氏に對して厚く感謝申上度い、新しい明朗なる感覺を以て歪められたる材料の美しさを以つて、簡單なる構造の可能性それに近代的合理性と熱意を以て遠く外國の建築が呼びかけてゐるのがこの會場の氣分であつた、我々はウワスベリのものを視てはならない、展覽されたる寫眞から其背後にある彼等の尊敬に値する努力を、尙廣く彼等に期待してゐるであらう大衆の建築的慾求と理解をこそ認識したいものである。

モデルルームはこの展覽會に於ては一つの休息所であつた。計畫がそうであつた樣に寫眞からの疲勞を救ふ目的と、幾分は興趣をも添へる程度のものであつたのである。從つて今回の展覽會では附屬的な試みとして取扱つたまでゝある。あれを以つて新興建築の實例（？）なりと觀取される憂が無いでも無いが此點は別に說明の要がなからう。

要は展覽會である、この催しが初めにも述べた如く、展覽の意圖及目的を、一般觀者に、學生に技術者に、傳へ得られたならばそれで最う充分としなければならぬ、故にこれは將來に殘された或は約束されたる實現への努力が要る。この次に展覽する時には大部分日本の現代建築を以つて、我々の土に建てられた實例を以て而も尙求めて止まざる日本新興建築の姿を以てもつともつと廣い國際的な會場を埋めつくしたいものである。（終）



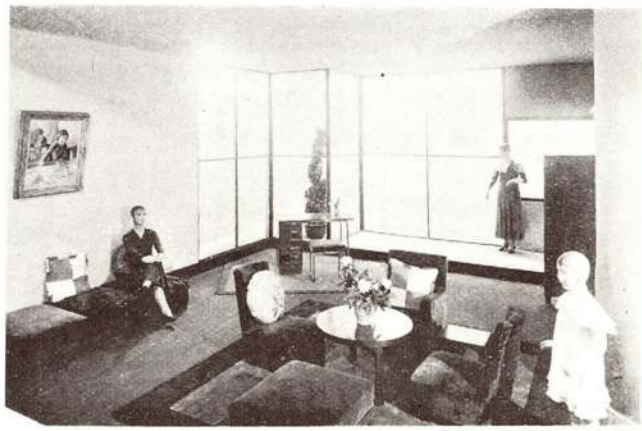
設計　小田島兵吉氏　　家具　林屋

アパートメントハウスの部屋



設計　河田孝男氏　家具出品　三越

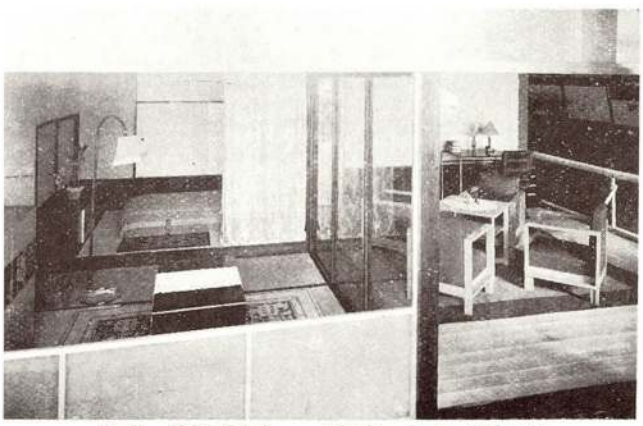
住宅の應接間





設計　石川純一郎氏　　家具出品　高島屋

小倶樂部室



設計　篠原次郎氏　　家具出品　三越・宮崎タンス店

住宅の居間と寢室



設計　中西六郎氏　　家具出品　玉屋　製造　河津商店

週末莊の居間と寢室



東洋陶器株式會社前の見學團一行

西部日本の見學旅行

月の29・30兩日の祭休日を利用して本會滿十五年記念事業の一たる西部日本の見學を行ふ。23日の午後6時半大阪驛に集合する者 19 名、病にて此行に加はることを得ざりし人1名事故の爲不參の者1名、外は少數ながら皆熱心なる一團なり。折柄觀光團參の客の歸途とて旣に京都に於て滿員となれる3等客車中に分け入り、押詰められたる中を明石、姫路あたり迄立ちつゞけの旅を我慢してゆく。

由來3等車の乘客多くは卒直氣輕にして人に接して城府を設けず、一見舊知の如くあなたは何處迄、姫路迄、では其御席は私に讓つて貰ひます。や僕の坐席は契約濟だなどと和氣靄々のうちに夜は次第に其色を濃くし汽車はひた駛りに走る。

明くれば 29 日午前5時頃、皆目覺めて洗面もそこそこに食堂に入る。豫定の時刻下の關着、西日本の外玄關たる此地の連絡設備甚だお粗末にして今に格別改められざるを妙に思ひつゝ連絡船に上つて先づ關門海峽の風光に浴す。茲處にて東洋陶器株式會社の大堀正一氏の態々なる出迎を受け一同に代りて其歡迎を謝し其參觀順序等の打合せをなし、門司、小倉を經て八幡驛に下車、茲處にて長崎より態々來會せられし末廣君を併せて一行東門より製鐵所に入る。

今日は天長祝日の事とて其作業の大半は休止中なりしが、折よく出銑時刻となり居たる鎔爐に上りて其噴出の狀態を見る。甚だ壯觀にして工業原料の第一が斯くして滔々として赤く奔流する樣最も見事にして此赤さこそは國を富まし民を益するもの、思想の赤さとは正反對なり。

幾多の工場を通過し軌條の製作を見る、一塊赤熱の大銅片が次第に其長さに伸展せられつゝ一定の範に剋まれて軌條の形となりて延展し、それが定尺に裁斷せられ冷却せられゆく迄の有樣を最も明確に且つ裕つたりと見て茲に製鋼事業の一部を頗る正しく認識し、他の作業を類推し得るの根本智識を得しは甚だ幸福なりし。

斯くして何等の騷音障害等に累はさるゝ事なく此上もなき良き事情の下に方々の工場をあるき其擴張工事の內容などを聽取し我製鋼界の發展の著大なるものあるを知る。

想起するに過ぐる明治 30 年始めて此工業が我國に興されて後の續ぐところの數年間は其事業なかなか困難にして、更に豫期の業績を得ざりし時、朝野の間物議轟々として幾回か其廢止論さへ叫ばれたる事ありしが、日露の戰役は之に飛躍の機を

興へ以來次第に進展して世界戰と共に劃期的發達を遂げて今や本邦製鐵界に君臨するに至れり。

最近更に其組織を變更して大小民間經營の同種のものを併せて半官半民のものたらしむる案決定せらる。思ふに我國半官半民の大會社の一に南滿洲鐵道株式會社ありて其從業員に官吏程の循吏性と紀綱なく、又會社員程の敏活性經營方法執られず、其所謂徒らに大にして業績常に擧がらず、終始政黨の喰物となりて國家の進展を妨ぐる事甚大なり、本製鐵所の組織の變更には此苦汁を嘗めざる樣始めより深く戒心するを要し、之によりて工業界に獨占壟斷して其製品の價格を不合理に昂上せしむるが如き事なく、眞に國策樹立の基礎として安價良品の潤澤なる供給をなし今日迄之に投じたる國民の血稅の一部を償ふ樣せられむ事を希望す。

此工場は目下大規模の擴張中なるが更に舊規模の整理を斷行して其產業機構の根本合理化の要あり。唯り我建築界のみに止まらず一般の業界社會は安價なる鋼材を潤澤に得て充分に其根本生活を改善せんことを欲す、此國民の寄托に背く事なく萬全の計を立て遠き將來に對し世界產業爭覇線上の先頭に立ちて進まんことを期すべし。

午前 11 時過ぎ此參觀を了る。八幡の街角に立ちて來るべき市會議員選擧の立札などを見る、國家政治事務の政黨的取扱ひの可否は今予の議せんとする所にあらず、此純工業市に於て政黨の色彩を何れの方面、何れの經營に加ふべきやを知らず、市民は唯一の純工業市民としてのみ存在し居りて其利害は全然同一なる筈なり。若し此間に政友、民政などと爭ふが如き事あればよく市民の幸福たり得べきや如何。

扨此八幡市の如き純工業市の計畫が他と異なりて行はれつゝありや、法規は千篇一律、茲處も彼處も同樣にして此純工業市と他の性質のものとを區分せず、此市民の幸福は皆が煤煙と騷音より脫れて靜に自然の惠澤に浴するにあり。道路、公園、家屋其他の設備悉く一階級的なる事を要し、全然民衆的なる事を要し、而して又眞摯ならんことこそ其生命ならん。

此地洞海の一部にありて三面殆んど山峰にして平坦部甚だ尠なく而して其山は矢張り荒れたり、此背後の山の植樹などは市民の保健上より見るも最も重大なるものあらん。而して其一階級的建築設備も又必要ならん。

此等の諸點猶改善の餘地多きを思はしめたり。

茲處迄態々出迎へられし自動車にて小倉に向ふ道路の鋪裝新たにして坦々たり、たゞ何故にや比較的幅廣き道に街路樹を見ることを得ざりし。新開の市街としての家並形式等の整はざる事も亦缺點なり、九州の一角と雖も相當の技術指導家もあるべきに、左りとは餘りに鄙びて折角の道路と家と其對照の甚だ宜しからざるは如何、戸畑より小倉に入るあたりは殆んど舊態なく將來の發展を豫期して光明と希望とを覺ゞ。

勝山城濠の一部には猶古き姿あり、300 年の短かき間ながら史蹟として此上の破壞なきことを望むと共に人にありては舊何藩や何縣人などと云ふ極少局部的原始的民族結集の力を信ずる事なく廣く人材と智識とを集めて西部日本の發展を期すべし。

由來九州の人最も排他的なり、鹿兒島、熊本、佐賀等々其弊今に存す、如此は事を就す所以にあらず、事直接の關係なけれど一言を加ふるのみ。

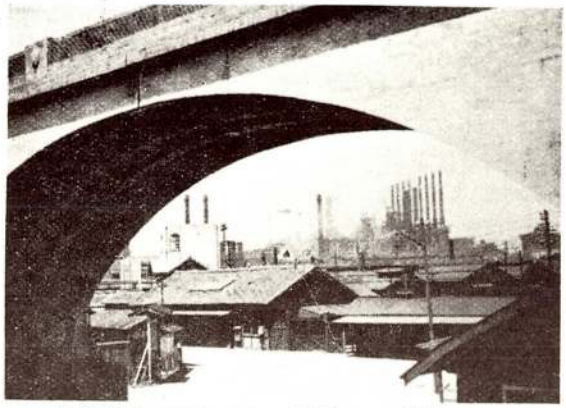
東洋陶器株式會社の工場は紫川畔に位置して風光明媚なり。たゞ何時迄斯くあるべきか、工業進展の爲には次々にと工場の建設せられて舊蹟も古地も其歷史も其景觀も破壞せられゆく事大阪の如くなすが可か否か。

今日天氣晴朗此門前に立ちて氣先づ快爽也。

樓上に入りて其製品の陳列せられたるものを見る。衛生用と食用との幾百種のもの見事に整備せられて一目瞭然たり、寫眞撮影の準備成り一旦降下し更に上りて茲處にて晝食を饗せらる。

今日は工場の休日なりしが我等一行の爲に特に其日を變更して作業の狀態を縱觀せしめらるゝと共に常務や技師長等の幹部諸氏が特に出席して懇篤に斡旋せられし事感謝するに堪えたり。

晝食の後技師長より製作に關する說明（別項參照）を聽く、原土、原石の粉碎、調合、揑据、其造型、加工、燒成、檢査に至る洵頗る明確にして實地視察に先だちて我等は充分なる豫備智識を得よりて工場を一巡して其印象更に確實なり。此工場殊に淸潔にして又よく整備し、靜にして何の障害なし、斯くありてこそ從業員も其全人格を傷つけらるゝ事なく、牢獄に驅使せらるゝの思ひなく



八幡製鐵所を東門から望む（岡村忠一氏撮影）

其自尊心を保ちてよく其能を發揮して滿足して作業するものと覺えたり。

前途を急ぎたる爲食器部を大觀したるだけにて其全貌につき更に詳細なる智見を得るに至らざりし事は我等深く遺憾とする所にして折角の會社の好意に背き其罪甚だ大なるを覺ゆ。

本工場が優良品の製作を目指して研究に調査に頗る周到なる注意を拂ひ其設備を充實して自信ある製品を市場に送り出しつゝある點は我等使用者に於て最も安心し得る所也。今後も東洋陶器の名に背く事なく、食器等にありては猶一段の工夫をこらして其形貌に紋樣に色調に益々雅美性を發揮せらるゝ樣至囑する所也。

午後四時告別、會社より送られて小倉驛着。茲に車中消閑の給養迄遺憾なく供せられ一層感銘して出發、汽車は折柄の暖かき日を山野村里の間を縫ひて走る。つゝじ、ふじ其花美なり菜種と麥と其色どり佳し、此沿道の山容水態は寧ろ平凡にして何の奇なきも前途に望を懸けてゆく我等には少しも退屈する事なかりし。

午後6時半別府着清風莊に入り一浴して小宴を張る、昨夜殆んど熟眠せざりし人々が今日の視察に大した疲勞を見する事なく歡談暢語、時のうつるを覺えず、宴終て後更に市中を漫步せし元氣の人達も多かりし。

四月の晦日は不幸にして雨降れり、8時50分自動車に分乘、茲處を訪ふ人々のなすが如く月並の地獄廻りをなす、抑も歡樂境に入りて地獄廻りと言ふ事頗る妙なれど到りて見るに全く其名に背かず矢張り地獄なり。

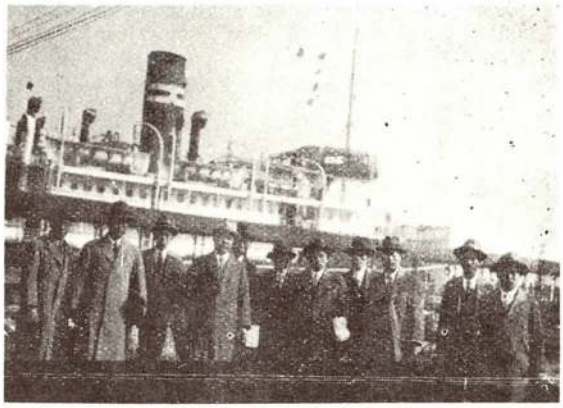
別府一帶の地頗る廣く熱泉に富み到る處湯や蒸氣を噴出し、鹽類泉、鐵泉、硫黃泉等々各種の泉悉く具備し實に世界の泉都たるに係らず、其噴出する泉に種々の名稱を冠し之に關ひして人を呼びて金を取る、宛がら三途の河を渡るに等し唯三途の河にては渡岸に僅かに六文錢を要し、（今日も猶變化なきや否や通知なし）茲にありては一箇所毎に幾錢、十幾錢を徵收せらる、加ふるに何樂何土產と强ひらるゝ事うるさき限りなし。田舍漢たらざるも頗る寒心して警戒する事を要し矢張り地獄の名に背かざるを覺えたり。

泉都としての別府の現狀は其古き姿を知り居る二三の者には全く驚歎の外なく、一行の人々も其意外の俗惡に驚き呆れ、如何に地方人が無自覺にして唯目前の利益をのみ追ひて遠大の計を立てざるかを怪しめり。地方の官僚有司たる者此點に猛省して今にして根本的改善の策を立てゝ進むにあらざれば折角の勝地は滅茶苦茶とならん。

泉都の理想建設は頗る面白き事と思ふ、其自然美を損せざる程度に於て海岸の整理市街の建設其道路と家と、其靜かに寬ぎて療養をなし一方又遊歡をなし數日、十數日或は更に長期に亘りて滯留保養するに必要なる旅館、下宿、家庭的別莊、住宅より圖書館、演藝場、博物館、運動場、娛樂場等一切の施設を遺憾なく整備する事を得ば世界の人々の來遊期すべく我國の利益蓋し又尠なからざらんに國家先づ此事を顧みず、地方の官僚等は目前此醜貌を見ながら少しも之を改むる所以を知らず、惜しむべきかな。

午前11時40分紫丸に乘る、大分に寄航し豐後水道の橫波に搖られて夕食をそこそこにして橫臥船瀨戶內に入りて全く靜穩長濱、高濱、今治の寄航別條なく、5月1日午前5時神戶に入り同行中の2人下船、午前8時大阪着殘れる人々恙なく上陸解散す。（此行東洋陶器株式會社大阪出張所主任澁谷氏同行せられ始終便宜を計られたる事特に感佩の至に堪えず、謹んで謝意を表す）

九州見學外記



梅田出立も無事乘車出來たが、扨て車内の混雜は是りやドウジヤ！。何しろ二日續きの休日と、天理教信者の本山からの歸國とが鉢合せたので掛る所もない立往生。神戸では減くであらうと思つたが倍々增加と言ふ有樣、其内姫路近くで下車する人と豫め交涉して漸く一席を贏ち得たが他の同行氏は未だ立ん棒が多い。岡山邊では大分空席が出來自分の背後の同行二氏は四席を占めて横になつたが。其處へ隣の客車から三十前後の女丈夫（天理教師？）が現れて「サアサアあなた方は誰に斷つて二人分の席を占領するのですか起きなさい起きなさい、立つて居る方は遠慮なく此處へ御掛けなさい」と時ならぬ女車掌の整理に折角の安眠計畫も無殘に打破られて又鮮詰の憂目を見る。此女丈夫客車の中程に小兒を抱いて寢て居た中年の女房に同じ筆法で二席占領の不都合を難詰したが、相手は一向起上る氣色はない。躍氣になつた自薦女車掌君樣々な惡罵で恥しめるが横臥の女は頑强に沈默の反抗を續け遂に横の女は立てる女を足蹴にすれば、立てる女は拳骨を横の頭部に見舞ふと言ふ緊張せる場面にまで到つたが遂に女丈夫君も斷念して「貴女の樣な女が日本に居るから世の中が暗黑なのよ」と捨臺白を後に隣りの客車へ引上げたので漸く車内は夜の眠りに落ちて行く。

ひた走りに暗を行く列車も富海を過ぐる頃には夜はほのぼのと海上に明けて、空の氣色は今日の天候安全を示して居る。

關門の港は朝の仕事に忙しく、城山の中腹の春帆樓は曾ては日清媾和の跡、其の聽潮閣では曾つて故春畝公の記念館に關して面謁したるは公が渡滿の際であつた、公のハルピン驛頭の死、今日の滿洲問題に幾何の基礎を爲して居るかと思へば感慨無量である。

製鐵所の見學は自分には已に舊知であるので差して珍らしくはないが只熔鐵爐の設備が舊時に比して擴張進展せる點が目立つ。只相變らずの彫大振りには驚いたが一面には今少しコンパクトに出來ぬものかと思つた。

東洋陶器の見學は自分には興味を期待したものであつた。其れは此工場の創建時に自分が其れに關係したからである。當時會社では大倉和親氏が計畫の大綱を定めて我々施工者に指示された。即ち製造工程を縱斷的に配列し其れを一單位として建設し將來擴張の場合は側面的に增築を爲す計畫であつた。

此の計畫が今日果して如何樣になつて居るであらう？。是の見地から工場を拜見し又當時の技師長であつた現常務取締役の百木氏の說明を聞いて

起業當時の方針は大體に於いて變りないが器械の進步は從來の工程に變化を生じて最初の方針通りには實行出來なかつたと。

此結論は蓋し事業進步に於ける止むを得ざる結果であると同時に工場建築が如何に融通性を必要とするかを示すものである。而して其の一面には製造業が其進步の爲め不斷の研究と、努力とを必要とするかを暗示するものである。

東洋陶器が此點に遺憾なき手段を盡されて居ることゝ、殊に製品檢査の用意周到なることは同社工場長の講演と實地說明とに依りて充分に吾々を納得せしめた。此の主旨は恐らく故森村市左衛門氏の遺訓に依るものであると思ふが、斯の如き主旨を營利業上に行ふことは言ふべくして實行至難のことであるが、我々の工業が模倣から離れて獨

自の立場を造るには斯の如き堅き信念に依らなくてはならぬ。

別府の一夜は和氣靄々裡には團長の微吟低唱を聞くことを得たことは如何に其盛なりしかを示すバロメーターである。

翌日の地獄廻りは當然の結果として前夜の極樂見物連中両已の勤行にして、自分は已に其勤めを了つたものとして其同行を免ぜられ獨り大分に向つた。

大分では實踐女學校の今村校長を訪れて過般の勞を謝し、更に大分圖書館にて上紀の原本なるものを一覽し更に同圖書館司書の添書にて白竹圖書館に行き上紀抄譯と同時の複寫本たる春藤氏手記の上紀跋及鶴峯戊申氏著の鎖木文字考を一見し夕頃歸別翌一日午後の出帆にて別府を去り船中小學教育の權威者芦田惠之助氏と同室し翌日汽船中にて同氏の講話を願ひ非常に有益なる親の心得を得たことは實に此見學の有益なる事の更に倍加せるを思ひ茲に所感を述ぶと云爾（德政金吾記）

衛生陶器の製造行程

東洋陶器株式會社工場長　坪井禮三

本稿は西部日本見學旅行に於て東洋陶器株式會社を見學の際、同社工場長坪井禮三氏が親しく我々見學團のために講演をして頂いたその略記であるが衛生陶器の原土原石の粉碎、調合、捏据、其造型、加工、燒成、檢査に至るまで瞭然明確なるもので茲に掲げて會員諸君の參考の資に供する。（編輯者）

1　衛生陶器の製造方法

衛生陶器は素地と釉藥より成り、素地の原料は長石、硅石、磁土にして、釉藥は上記三種の外に石灰石、苦灰石、其他金屬酸化物を原料とす、是等原料を微粉の泥漿となし、石膏製の型に流込みて製形す、流込みたる物の乾燥は、普通天日乾燥、或は熱風乾燥なるも、東洋陶器會社にては濕度、溫度、氣流の方向轉換を全部自動調制するプロクター式ヒユーミヂチードライヤーを使用す。

燒成爐の樣式は種々あるも、東洋陶器會社にてハドレスラー式隧道窯3基、カーボラジアント窯3基を使用す、隧道窯は長さ110米突、ヒーチングゾーン、フアイヤリングゾーン、クーリングゾーンよりなり燃料はフアイヤリングゾーンにて燃燒し、ヒーチングゾーンを經て煙突に通ず、品物は貨車に載り、此の窯を徐行通過する間に燒成冷却す、カーボラジアント窯にては、バスタツブ、スマールの如き大型製品を燒成す、共に衛生陶器燒成爐として最も進歩したるものなり。

衛生陶器は2回燒成するを以て原則とす、初めの燒成を締燒と稱し、攝氏 1,140　度より　1,300 度に燒成す、次に之に釉藥をかけて 1,140 度より 1,280 度に燒成す、之を釉燒と稱す。

米國の一流會社の製品は、總て2回燒成を行ひ型錄にもツワイスフアイヤリングと明記す、然るに我國に於ては、品質品位の優秀よりも、値段の安きを歡迎せらるゝ需要多きを以て、國產品の 8 燒は割成を1回としたるものにして、ツワイスフアイヤリングの製品は2割に過ぎず。

2　衛生陶器製造中に生ずる缺陷に就いて

金屬製品は原料を熔かしたる上に、型に流込みて製品が出來、不良の點あれば更に加工修正し得るを以て、寸法形狀を正確にする事容易なるも、陶器製品は、原料にて形を作り、之を高溫度の下に熔かして製品となす、而して一度熔かせし上は、加工修正の方法なきを以て、陶器製品は必ず缺點

を有す、缺點の種類は 10 數種あるも、其內寸法の正確ならざること、形狀に狂ひを生ずること、呈色の不同なることの三つは、必ず生ずべき共通の缺點とす。

元來衛生陶器は、型の寸法より燒き上ぐる迄に10乃至15パーセント收縮す、此の內4乃至5パーセントは乾燥に依る收縮にして、他は燒成中攝氏900 度以上に於て生ず、收縮の進行と共に呈色の變化を生じ、且化學變化の進むに從ひ、自重に耐へずベンデイングを生ず、衛生陶器は此の收縮の途中の製品なるを以て、例へ燒成溫度が絕對に均一なりとするも、被燒成品の大さ、肉厚、構造が異なる時は、收縮率、呈色、ベンデイングに差を生ずべきを以て、均一製品を製造すること頗る困難なり。

衛生陶器の表面釉藥に網狀にヒビの入りたるものあり、此のヒビを貫入と稱す、貫入は素地と釉藥の膨脹率の不同により生ず、貫入防止に必要なる條件は、素地と釉藥の調合を適當ならしむること、素地の粒子の大さを一定ならしむること、燒成溫度を均一にすること、燒成時間を一定にすること、素地の氣孔率を小さくすることの5條件とす、此の內技術的研究に待つべきもの少しとせざるも、大半は設備の優秀に依て解決せらる、同一工場の製品にして、10數年間貫入の生ぜざるものある一方に取付後數ケ月にして貫入を生ずるものあることは、其工場の設備の不完全に起因すること多し。

米國が今日優秀なる製品を揃へることに於て、世界に誇り得るは、米國の繁榮が高級品を大量に要求せし結果なるも、其の成功の大半は衛生陶器製造に關する設備の改良と進步にあり、之に反し英國は衛生陶器製造の嚆矢にして、優秀なる技巧を有するに拘らず、遲々として進步せざるは其の設備の舊式にして充實を缺く結果なり。

3 衛生陶器の品質品位に就て

今日我國市場に在る衛生陶器は、氣孔質衛生陶器、熔化素地衛生陶器、化粧素地衛生陶器、着色衛生陶器の5種に分類せらる。

氣孔質衛生陶器とは、我國需要の8割を占むる一度燒製品にして、燒成火度低く、材質弱くして破損率多く、貫入生じ易く、凍傷を起し易き缺點を有す、東洋陶器會社製品中、P製品と稱するものは、燒成火度攝氏 1,250 度にして、吸水量標準6 パーセントなるを以て、前記の缺點を有せざる迄にしたるものにして、ビトリアス素地と多孔質素地の中間に位するものなり、然るに攝氏 1,'40度位ひに燒成せられ、吸水量 20 パーセントに及び、破面は小刀を以て削り得る程弱く、貫入の發生容易にして衛生陶器として價値なきもの吾國市場に散見せらる。

熔化素地衛生陶器とは、高溫に燒成して素地を熔化せしめたるものにして、吸水量は2パーセント以下堅牢にして貫入生ぜず、凍傷も起さざる高級品なり、之が製造には種々の困難を伴ふ爲めに優れたる技術と最良の設備を要す、市場には熔化素地にして尙且、質脆く貫入の生ずること、氣孔質素地の優良品に劣れるもの亦少からず。

化粧素地衛生陶器とは、耐火度强き原料にて製形し、其上に純白の化粧を施し、更に釉藥をかけて燒成したるものにして、浴槽、ストール、シンクなどの大型裝品なり、之が製造は衛生陶器の中最も困難なるものなり。

着色衛生陶器は、需要一般的ならず、特種の場所に使用せらる、我國にては東洋陶器會社以外には未だ製造せられず。

斯くの如く衛生陶器の品質、品位に優劣の生ずる原因は、頗る複雜なるを以て、1 個の見本は單に形狀見本に過ぎずして、其の工場の製品全體の品質品位を判斷するには、是非共其工場を視察して、果して優良品を製造し得る、第1設備を有するや否や、第2製造方法、製品檢査の實狀を確め、第3更に其工場の製品を多數取付けたる代表的建物に就て、其の出來榮へを檢討せらるゝ事を必要とす。



如意輪寺三重塔前の一行

櫻花爛漫の吉野山行

春秋二回の大會を毎年やつてゐる協會は、本年は春吉野の花見と云ふ陽氣一點張りの會であつた前日の雨で氣遣はれた天氣も恵まれて降らなかつたが、歸りは絶對に雨が降らなかつたとは云へない有樣。一行 60 名餘り、大會委員長竹腰氏、副會長池田氏外役員、委員の連中、電車の混雜をさける爲めに、晝1時の出發、着いたのは3時頃。

花は少し早かつたが荒されてなかつたので幾分氣持は良い方。サクラ花壇と云ふ旅館兼料理屋の大廣間で夜の會を開く前に、如意輪寺の住職加島締忍氏の約1時間に亘つて吉野山の舊跡、藏王堂、吉水神社、護良親王と、村上父子の忠義振り、吉野の山で忘れてならぬ後醍醐天皇、楠正行、靜香姫の事跡等をモダン式な極く〳〵だけたる御講演があつた。

締忍氏は吉野の深山淨土宗吉野朝時代の勅願寺如意輪寺で、ありし昔の事どもを考へ浮ばせてゐるのも愉快の事であらう。

次の宴會は竹腰委員長の挨拶、阪口世話係長の料理の說明付きで賑き、二三の餘興を交へて盛會であつた。第二次會は速記者酒の廻り良く其後の事情は不明であつたが、3 時頃まで一隅で四・五人宴會の延長をやつて居つたやうでもあつた。宴會場は、また寢室と早變り小學校の修學旅行式でこれもまた面白い、夜の夢各人各樣であつたと思ふが。

翌朝揃つて如意輪寺詣り、カメラに記念を印し自由行動、此頃は雨がぽつり、歸路橿原神宮へ參詣したもの大多數であつた。

此の大會に委員の方々及び吉野工業の山村校長、岡部教頭、吉野山の建築天神、橋本氏の御盡力に誌上を藉りて謝意を表す。

大阪市の「シビツク・センター」計畫理想案懸賞募集の趣旨に敷衍して

加藤善吉

1. 募集の眼目

本邦最初の都市計畫上の懸賞募集案として今回日本建築協會が發表した「大阪市シビツク・センター」計畫理想案懸賞募集の趣旨は募集規定にその大要を示されてあるが、尙少しくこれに敷衍して卑見を述べ計畫の參考に資したい。

本案募集の眼目とするところは表題の示したやうに大阪なる都市の中心をなし、市民の意氣と誇りとを表徵するに足るべき經濟都市、大阪に最も適しい「シビツク・センター」の理想的計畫案の優秀なものを得たい熱望からであるが、この計畫に當つては近代的都市、各般の要求に應ずるために現在大阪都市計畫或は都市計畫事業として決定し或は實行の緒にあるものより更に進むで實質的に内容を異にする計畫の必要あるものと考へられるから既定計畫或は事業を尊重すべきではあるが必ずしも之に拘泥する必要を認めない。

2. 計畫指定地の現狀

然しながら本案計畫の指定地は現在どんな狀態にあるか、どんな都市計畫が決定してゐるかを熟知するの必要あることは言ふまでもない。

指定地は圖面に見るやうに廣路御堂筋線（幅員24間）と梅田九條線（幅員16間）の二大幹線に挾まれた地區で大阪驛以南土佐堀川南岸を含む概要の區域である。

現在の大阪驛附近は前に僅かな廣場を控へ狹隘な前面道路は市電と自動車錯綜し混亂雜閙忍びざるものがある、之れに加へて右に阪神電鐵、左は大百貨店を傘營し高層ビルを擁する阪急電鐵の終端驛を控へて居るから一層の混亂を增し大阪に於ける交通の難所と云はれてゐる。

驛そのものは改築中に屬するが其の本家は古色蒼然として舊體を存し、これを圍繞する建築群は陋態を守り倭屋櫛比し廣告塔雜然と醜體を曝してゐる、これがまた脆弱可燃質な建築物を以て滿され世界的大大阪の玄關としてその都市の第一印象を與ふべき最も大切な大阪驛頭の光景は「不快な都市」を表徵するの現狀である。それより南下して土佐堀川に至る間と雖もその大部分は木造家屋を以て充され、耐火構造の建築物は十指を屈するに過ぎない。

都市構築の基調として平面傳播の建築物を整理防禦し、局所に十字形平面を持つビルデイングを建設し、他は自由空地とするコルビエジエの計畫は必ずしも正當であるか否かは疑問であるが、大阪市現在のやうな中樞地に於てすら倭小弊屋の平面的發展の都市に於ては大に考慮すべき一指針と云はねばならぬ。

3. 大阪驛附近及び計畫指定地に於ける都市計畫事業

斯かる現狀を矯正するために大阪驛を起點として諸般の都市計畫は進められ、着々實行の運びに至りつつあるが、就中交通緩和の方策として最も主要な街路事業の其の根幹をなすべき廣路（御堂筋線）は阪神電鐵梅田終端驛前から東に曲げ大阪驛前を經て阪神急行電鐵梅田終端驛を南下して難波に至るもので其の幅員は 26 間である。驛の前には 4,200 坪の廣場を作つて駐車場其の他に充てる、これがために街路と廣場で都合 52 間の幅員となる。本事業は阪神急行前から難波南海鐵道驛前まで略ぼ完成の域に達してゐる。さらに梅田九條線は阪神電鐵前から南下して肥後橋を經て右折し九條に至る幅員 16 間である、又梅田十三線は阪急電鐵ビル西側より十三方面に走り幅員 15 間、北野線は完成して梅田善源寺市電線と並び配されその中間を結ぶ角田町線（幅員 12 間）がある。なほ現在の阪神電鐵の北方に梅田町線（幅員 12 間）が配されてゐる。而して大阪驛前の人の交通量現

在既に日に 20 萬を算し、さらに地下鐵のために一層の增加を見るであらう、これ等の關係を考慮しその緩和を圖るために廣路御堂筋線曾根崎2丁目から西に走り、梅田九條線に連絡する東梅田町線が計畫されてある。其の他大阪驛附近の整理事業として決定した都市計畫事業に附帶して同時に決定されたものであるが、廣場及道路の歩行者の安全を保たしめるために、6本の地下道を敷設して驛から向側に至り、又驛から阪急阪神電鐵乘場に至る歩行者の便利を圖る計畫が事業として決定を見てゐる。

更に土地の經濟的利用を圖るために驛の向側の一廓 6,300 坪の土地を超過收用して建築敷地造成を爲し大阪驛前に適しい建築敷地を構成せしめんとするもので今や當局は區劃整理に依つて之れが實現に着々準備を進めつつある、この事業たるや驛前整理の都市計畫事業として昭和3年に決定せられたものであるが之れが決定の審議に際して我が片岡會長は都市計畫委員として更に進むでこれと一體不離の位置にある梅田九條線と廣路（御堂筋）の間北は大阪驛より南國道2號線（市電櫻橋から梅田新道に至る線路）に至る土地を包含し、この地區全體の建築敷地造成を企圖すべきを提唱されたのであるが、原案を急遽施行するの必要に迫られある關係上當時は不幸單に內務大臣に建議したるに止まるの已むを得ざるに至つたのである

更に特記すべきは高速度鐵道であるが、市營高速度鐵道の新設は大阪の交通に劃期的衝動を與ふるもので之れが大阪驛附近に著しい影響を與へるそのうち大阪驛附近を通ずるものは豐能郡豐津村より大阪驛東側を經て御堂筋を通つて南下し、住吉區我孫子町に至る線と東成區森小路町南端から天神橋6丁目京阪電鐵南側、大阪驛東側を通つて松屋町線を經て天王寺驛南側に至るものとあり、何れも市內は地下式構造である、本事業もその一部工事竣成して過る5月20日梅田より心齋橋までの開通を見るに至つたのである。

4. 大阪驛擴張計畫と各會社電鐵線

大阪驛は目下工事中で驛本家を除く外は略完成の運びに至つてゐる。而して大阪から新淀川間は高架として大部分の竣工を見るに至つた、現在の阪急の梅田乘入れは高架であるが一時的の假設で既に鐵道省の許可のもの、近く現在の鐵道線路上を橫斷することになるので從つて省線が高架なる結果天神橋6丁目附近の阪神北大阪線とともに阪急電鐵は梅田終端附近で鐵道の高架線下を橫ぎり路面下に降りることになる。

大阪驛本家の改築は目下設計中のよしであるがその建築物の前面は大體現在の驛の玄關の突端から 30 尺後退する、その大さは現在のものに比して餘程大きいもので大體の形ちは東京驛より間口が狹く奥行が廣くなるとのことである。

これと關聯して各電鐵會社線の計畫であるが懸賞計畫案指定地に近接してゐる電鐵會社線は現在阪神電鐵と阪急電鐵の2線である。阪急電鐵は大阪驛より梅田十三線を隔てた一角に大百貨店兼營の巨大なビルデイングの現出既に工を終はつた、只遺憾な點はこの建築物のために前面廣路が扼喉の觀を呈し之れがために交通上にも惡影響を及ぼしてゐる。

阪神電鐵も前記市營高速度鐵道と直接の聯絡を保つために現在の營業線出入橋及梅田終端との中間から漸次降下して梅田九條線を路下式を以て橫斷し大阪驛前の路下に至りその直下に地下停車場を設置する計畫があるやうだ。

京阪電鐵の大阪阪驛附近乘入れは既に免許を得て省線舊城東線の拂下げを受け櫻宮を經て阪急電鐵の裏に進出する豫定である、かくの如く三大電鐵線が相競ふて大阪驛に突出するからその將來は如何に交通の混雜を來すかは想像に難くない。

5. 指定地附近の高層建築物

指定地內及其の附近の高層建築物の御堂筋に面しては先づ大阪驛の改築を豫想される驛本家と既に竣工した阪急ビルを始めとして曾根崎警察署、曾根崎ビル、大平ビル、堂島川を越へて日本銀行之れと對峙して市廳舍あり、梅田九條線に面しては大阪每日新聞、中央郵便局と之れと道を隔てて大阪朝日新聞、朝日ビルあり、中央郵便局は大阪驛の改良計畫と共に大阪驛の西方に約 3,000 坪の土地を得て新築される豫定である、阪神ビルの計畫もあるやうで其の位置は驛前の都市計畫事業として決定を見た建築敷地造成地の一廓を卜して實現を見る模樣である。中之島にあつては中央公會堂圖書館がある。

6. 懸賞案計畫として本區域を撰定した根據

指定區域の現狀及計畫前述の通りであつてこの區域をして今回絕好の位置として「シビック・セン

ター」の計畫案指定地に選定した理由は(1)大阪市が近き將來に於て都制の實施を見るべきを想定し都廳舍の位置として好適なりと信じたこと。(2)從來歐米に於ては特に市民の留意し來つた都市の第一印象を與へる驛前の計畫を包含し得ること。(3)大阪市の水の都として持つ天惠の河岸地を利用し得ること。(4)現に中之島は一部既に公園遊歩道等の自由空地あること。(5)本區域は其の幹線は防火地區であり更に美觀地區の指定を見むとする樞要の地であること、之れを綜合して考察するときは本區域は計畫施設宜しきを得れば將來大阪市の「シビック・センター」として最も繁榮を來すべき運命を有するものと推定するに難くないからである。

7. 「シビック・センター」の計畫

以上述べたところの現狀と計畫に依つて區域の全貌が略窺知し得ると信ずるが未だ產業經濟の大都市として世界に誇り得る「シビック・センター」なく亦其の計畫をも持つて居らない。

大阪の都市計畫が既に着々として進渉し街路に河川に、橋梁に、公園に、下水に夫々特異の技能と巨額の費用とを傾注し、都市の面目を更新しつゝあるが都市構築全般の上から見ればまだまだ遺憾な點が尠くない、殊に自らも樂しみ、人にも誇るべき都市の面目を代表する中心地區がないことは恰も顏を濃いて目を點せざると同樣である。

歐米に於ては何れの都市と雖も「シビック・センター」がある、又その改造に大なる努力を拂ひつゝある。

古くは巴里に於けるが如く巴里は今から60—70年前國力を賭して主要街路と「シビック・センター」の改造を斷行したことは都市計畫上の一大偉蹟として周知のことである。

米國に於ても 1893 年市俄古の世界博覽會を機として都市美の向上に對して絶大の注意を喚起し各都市共に都市計畫に精進し「シビック・センター」の改善施設に力を致したのである。

一般に歐羅巴中世紀の都市は各都市ともに其の中心に近く廣場をとりその周圍に公共建築物を配した、或は噴水、記念像を配した。米國各都市もそこに配置される建築物は市役所、圖書館、公會堂、博物館、美術館、公立學校、警察署等で又記念像、記念碑が都市の焦點となつてゐるところもある。

即ち廣場或は公館の廣き前庭といつたものは一つの「ランドスケープ」を構成する要素である。

これまで種々研究されてゐたクリーブランドの「シビック・センター」の擴張計畫はこの程都市計畫委員會の承認を得、公債に財源を仰ぎ今後3年間に完成の豫定と報ぜられてある。

ワシントンの「シビック・センター」も國父ワシントンの生誕2百年祭を機に國富と權力と無限の國民的自負を傾けて完成を圖りつゝある。

而して驛前計畫としては都市美のために各種の施設を進めてゐる點で有名なミネアポリスの咽喉を扼する同市のダウンタウンの街園は停車場に接し所謂ゲートウエイトとして完成したのであるがこれが驛より出る外來者に非常な好印象を與へてゐると云はれて居る。

河畔の利用としてテームス河畔の如きその景觀は倫敦市民の誇りであるとともに河畔の逍遙は市民の行樂の一つとなつてゐる。

蓋し都市にはそれぞれの都市の特色があつて之等と事情を異にするものあらんも我が大阪の如く徒らに煤煙の都として唯喧囂噪音にわずらはさるるのみで大大阪の面目を表はすべき「シビック・センター」なるものがない、故に大阪の都市生活が知らず識らず不用意のうちに育くまれる美しい情操或は快適の精神が漸次衰頽してくる。もとより都市の美は外裝の美を欲するものではなく須らく內より溢れ出るものでなければならないが大阪市の現狀は世界屈指の大都市として遺憾なりと云はざるを得ない。

8. 配置さるべき建築物

都市にそれぞれの特色ある如く都市の建築物にも亦その都市の地方色彩が現はれるものである、京都は京都に適しき都市建築の色彩あり、奈良には又奈良の特異性がある、故に都市に配置さるべき諸建築物の樣式に就ても十分の考慮を要すべきで徒らに歐米の模倣をなすが如きは大に愼むべきである。都市建築は個性的美より集團美を重要視せねばならぬ、實に建築物の綜合的外觀は明かに都市人士の風格を表現する。

建築家は須らく環境を十分考察して之れに調和せしめるの必要があると思ふ。環境が甚しく時代と沒交渉沒趣味のものなる場合殊更に熟慮すべき

であらう、即ち都市建築は個性美を表現すると同時に都市構成たる建築は其の都市全體としての集團美の萬全を期せねばならぬものである。

今回募集の「シビック・センター」として配置さるべき建築物は驛前には適切な建築物を配置し中之島には想定都廳舍を中心とせる公共諸建築物並に遊歩場、廣場等、自由空地が配置さるべきであるから建築物自體の樣式は勿論環境の調和に十分の留意が必要である。

都市の建築に對する美的制限は近時米國に於て盛んに唱導される、米國都市に於ては公共建築物及記念建築物等の制限に對して都市美審査會は大なる權限を附與されてゐるが鐵道終端驛、公共用事務所、百貨店、アパート等について審査會はその建築物の設計者の撰擇までやつて居る。

9. 都市計畫と美觀と建築家

我が國の都市計畫法は都市計畫とは交通、衛生、保安、經濟等に關し永久的に公共の安寧を維持し又は福利を增進するための重要施設の計畫であるとしてあつて美觀に關しては餘り重要視せないものの如くであるが、之等の形而下の施設に依つて都市計畫が完成の上は一の有機體として「シビックアート」として最大の價値を有するものとならねばならぬ、都市計畫はそこに重點を置きこれを目標として進むべきでそれが都市計畫の最高精神であらねばならぬ。現時行はれつゝある都市計畫はこの重大性を有する美觀なるものが閑却され勝ちである。街路の計畫に、建築敷地の構成に、凡てに於て建築なる立體的考察を念頭に置きて考察さるべきである、そこに深き考慮を拂はれない計畫は如何に街路の美を成したりと雖も何等の價値なきものとなつて終ふ。この點に關して現代の如き土木偏重の都市計畫に於ては有りがちである。それに對して關大阪市長は「住心地よい都市」と題する論文の一節に今日の現狀に慊焉たることを述べられてゐる。即ち我が國の都市計畫は餘りに土木技師に任せ過ぎはしなからうか、歐米の都市計畫は主として建築家の手で行はれてゐる、倫敦計畫のクリストハーレン、市俄古市の計畫者ダニエル・バーナム、オーストリアのミカロ・ジツテも建築家出身であり、戰後獨逸の大ケルン市の都市計畫を立案したエフ・シユーマーもハンブルグ市の建築局長であつた、以上は著名な事實だけをあげたに過ぎないが日本の都市計畫が今のところ土木專門家の獨占であるやうに見えるのにくらべて多少異樣の感がないでもない、と述べられてある。其の外巴里の都市計畫を大成したものはバロン・ホツスマンであるが其の計畫に於て路易 14 世は當時の建築家に命じて立案せしめたものである、近くはコルビゼエの如く歐米の都市計畫に於ける建築家の識見と手腕とは共に躍如たるものがある。我が國の建築家は宜しく都市計畫に進出して十分の手腕を揮ふべきではあるまいか。

前數項に亘つて述べたところに依り趣旨の內容も盡きたのであるが之れを要するに今回の「シビック・センター」計畫理想案の懸賞募集に依つて(1)從來歐米に於てはこの種募集に依つて終始都市計畫の進歩向上に不斷の努力をなしつゝあるに不拘、我が國に於ては始めての試みである。(2)その結果として理想的「シビック・センター」の計畫を得、大阪驛前の整理上の完全を期し得る。(3)一般市民の無關心な都市構築上の問題に覺醒を促す(4)從來の土木偏重の都市計畫を矯めたい。これを機として他の大中小都市にも完全な都市構築の必要觀念を植付けたい。其の他種々な影響を與へるであらうことを期待してゐるのであるから都市計畫に從事せらるる方面、本問題に興味を有せらるゝ方面或は不斷の研究を續けられつつある方面の方々は本協會のこの新しい試みに對して絶大の好意を持たれて應募せられむことを望み殊に我が建築協會員はこれが機會を活用して大なる健闘奮發をなし優秀な作品を發表し都市計畫上に貢獻せられむことを待望して止まない。

本稿は加藤氏が本會都市計畫委員會の依囑により同氏が執筆しもので「大阪市のシビック・センター」計畫理想案應募者の參考のためと思ひ茲に掲記する。

會　　報

役　員　會

常　務　會

時　　昭和8年5月1日午後6時—8時30分
所　　建築倶樂部
出席者　理事　片岡　池田　竹腰　　監事　松室
　　主記　阪口　鳥井　伴野　　主計　浦
　　編輯　中村　堀田
議　事　1 タフト氏來阪に關し講演會及晩餐會開催に關する件
　　1 記念事業西部日本見學に付旅費支出に關する件
　　1「建築學研究」編輯部員依囑の件
　　1「建築學研究」を6月より發刊に關する件
　　1 評議員會開催に關する件
　　1 定款改正に關する件
　　1 記念事業東部日本見學旅行に關する件
　　1 鐵接協會主催講演會に災害强度委員出席したるに付聽講費支出の件
報　告　1 常設　都市計畫、設備委員會報告
　　1 特設　百貨店建築委員會報告
　　1 記念　見學、阪和上野芝住博、瑞光住博委員會報告
　　1 會員詮衡

常　務　會

時　　昭和8年5月15日午後8時—同9時
所　　本協會別室
出席者　理事　片岡　池田　竹腰　　監事　松室
　　主記　阪口　鳥井　丹藤　伴野　　主計
　　浦　清水　八木　　編輯　高橋　中村
　　堀田
議　事　1 大阪市の「シビツク・センター」計畫理想案懸賞募集ニ關スル件
　　1 滿洲地方見學に關し見學委員會より照會の件
　　1 見學委員會より委員增員要求の件
　　1 新興建築展覽會委員依囑の件
　　1 會員詮衡
報　告　1 3月分會計報告
　　1 新興建築講演會及晩餐會の件

評　議　員　會

時　　昭和8年5月15日午後6時—同8時
所　　建築倶樂部
出席者　池田　井上　石川　岩崎　浦　大原　岡
　　田　岡部　岡本　落藤　片岡　河合　河
　　盛　小西　阪口　作間　新名　清水　竹
　　腰　高岡　高橋　高松　鳥井　中澤　中
　　村　中山　永澤　丹藤　伴野　藤井　堀
　　田　松井　八木　呼子　　監事　德政
　　松室
議案第2號「建築學研究」發刊に關する件（可決）
同　第3號 昭和7年度收支決算報告の件（承認）
同　第4號 昭和7年度剩餘金處分の件（原案通可決）
同　第5號 會費滯納者處分に關する件　（同上）
同　第6號 定款改正案の件　　（未決）

會員動靜

轉　勤　轉　居

會　員

木村勝次郎君　京都市伏見區深草願成町8
須川庸太郎君　旭區大宮町7ノ11
櫻井謙二郎君　奈良市法蓮町1208ノ9
小林　謙三君　神戸市外垂水町西垂水南下
山本　千吉君　西宮市今津字上野1255
牧野　　忠君　神戸市灘區宮山町2ノ50
安藤　一雄君　東淀川區十三西ノ町1ノ147　菅井工務店
平井　英一君　府下豐能郡豐中町山ノ上37
同（地方在住）
田島市兵衛君　熊本縣球磨郡一武村役場前中尾氏方
鈴木文次郎君　三重縣三重郡富洲原町東洋紡績富田工場
水上　昌三君　廣島市草津町東町336ノ4
高村　　勝君　愛媛縣宇和島市廣小路26
淺井　新一君　久留米市東區千歲町517ノ2

坂口　正雄君　朝鮮仁川府萬石町37　東洋紡績仁川工場建築事務所
井上　新平君　岡山市南方幸町359

終身賛助員

樫田　藤郎君　京都市左京區下鴨泉川町19ノ1

特別賛助員

山田善次郎君　西區土佐堀通1ノ5　大阪肥後橋ビル津山商店内

普通賛助員

田中　信夫君　府下泉北郡大津町下條444
前内　健次君　大分縣佐伯町佐伯航空隊廳舍其他新營工事場清水組作業所
中村　忠司君　神戸市須磨區平田町2 岡本氏方
野川　茂助君　神戸市須磨區御屋敷通6ノ98ノ2
野口　修二君　東成區腹見町618
大野　喜作君　高雄市堀江町5ノ13ノ6

入　會　者

會　員

福井　弘君　兵庫縣武庫郡山田村下谷上（神戸市役所土木部都市計畫課）
棚橋　諒君　京都村東山區山科竹鼻町西口町78（京都帝國大學工學部講師）
水口　貞一君　東區釣鐘町2ノ29大倉土木株式會社内
中山　義雄君　西淀川區野里町253（建築請負業）

特別賛助員

高橋　榮盛君　北區相生町20（材木商）
堀北　恒夫君　天王寺區勝山通4ノ7
森下　政一君　東區餌差町42ノ1
馬場　清治君　京都市左京區岡崎圓勝寺町91ノ30（仙關工房陶磁器モザイク製作）
船木　鐵雄君　兵庫縣武庫郡大庄村西字鳥帽子方130ノ2（大平組犬阪支店長）
森分　康雄君　堺市南向陽町1丁38（瓦製造業）
吉田　誠一君　東區本町3ノ5（裝飾敷物織物直輸出入）

普通賛助員

藤田良三郎君　旭區森小路62（日刊工業タイムス社）
久保田正信君　旭區北清水町765篠原方（篠原工務所）
森　實太郎君　西宮市北口昭和園（武智事務所）
川端與喜藏君　西淀川區浦江中1ノ1
淺田　榮人君　南河内郡藤井寺町岡大保（新建築社）
大下順三郎君　東淀川區國次町283（京阪電氣鐵道株式會社土木部）
安孫子三雄君　尼崎市西本町北通3ノ90（同上）
川田　昌雄君　神戸市林田區大道通3ノ1
池田　本吉君　神戸市葺合區脇之濱海岸神戸製鋼所内大林組出張所
小柴　秀隆君　京都市伏見區桃山町筒井伊賀22
植田　四郎君　兵庫縣武庫郡精道村芦屋字西新田442（愛高大理石合資會社代表社員）

退　會　者

會　員

猪瀬幸太郎君　菊谷簡一君

同（地方在住）

吉成　敏行君

普通賛助員

詫　伊吉君　小林　柾君　矢野　武一君
門谷　修君　高橋鎌治郎君

日本建築協會役員及委員

（昭和八年）

社團法人

役員

會長　片山東熊
副會長　池田勇人　竹腰健造
監事　松井清足　阪谷芳郎
主事　今泉雅秋
主事　高橋貞太郎
主事　中村達太郎
主事　堀口捨己
主事　井上秀雄
編輯部員　松井源吾　牧野正巳　堀口捨己　藤島亥治郎　藤井厚二　藤田金一郎　藤田謙一　藤本壽吉　藤原咲平　藤村朝夫　藤山雷太　古市公威　古川重春　古川純一　古宇田實　古谷誠章　古賀忠雄　古賀忠道　古賀繁一　古賀龍萬　古橋源六郎　古屋徳松　古屋鶴吉　古藤正雄　古藤次郎　古藤時太郎　古藤真平　古藤友三郎　古藤友次郎　古藤友治　古藤友熊　古藤友雄　古藤友太郎　古藤友之助　古藤友之輔　古藤友之丞　古藤友之進　古藤友之介　古藤友之亮　古藤友之祐　古藤友之助　古藤友之輔　古藤友之丞　古藤友之進　古藤友之介　古藤友之亮　古藤友之祐
編輯部員　松井源吾　牧野正巳　堀口捨己　藤島亥治郎　藤井厚二　藤田金一郎　藤田謙一　藤本壽吉　藤原咲平　藤村朝夫　藤山雷太　古市公威　古川重春　古川純一　古宇田實　古谷誠章　古賀忠雄　古賀忠道　古賀繁一　古賀龍萬　古橋源六郎　古屋徳松　古屋鶴吉　古藤正雄　古藤次郎　古藤時太郎　古藤真平　古藤友三郎　古藤友次郎　古藤友治　古藤友熊　古藤友雄　古藤友太郎

編　輯　後　記

□漸く黄梅の期にかゝりました。新興建築の特輯號を送ります。ブルノ・タウト氏來朝記念の新興建築講演會の速記錄だけで編輯する最初の計畫が、講演會と相連關した展覽會—これは當協會の後援で大阪朝日の主催でありましたが事實はこちらで全部やつてしまつた樣です—から材料を拜借して新興建築の寫眞集を附けるとにしました。

□新興建築の沿革史が、小住宅の研究が、ソウエートロシアの都市計畫と建築とが段々に慾から内容が量むで來ました。例年ならソロソロ雜誌も夏枯の時でありますのに

□五月十日の講演會は朝日會館で文字通り立錐の餘地なき盛況で、恐らく協會でやつた講演會で從來その比を見ない位でありました、聽衆に多大の感銘を與へた樣であります。展覽會の方も仲々の好評でありましたが四五日の會期では餘り短か過ぎて惜しいものでした。

□上野芝では目下住宅博覽會開催中であります。瑞光寺の方も着々準備が進みつゝありませう、諸兄の御後援を感謝いたします

□記念出版の第二の大阪市ボーリング調査圖表が漸く出來上りました。又建築法規集も一年の難產でやつと數日前刊出されましたが豫約者のみの發送で後は直ぐ無くなつてしまひ、急ぎ增刷をやらして居る始末であります。これだけは此種のものゝ權威本として、且つ他の追從を許さない廉價で、永く增補改正しつゝ進みたい希望のものであります。

□記念出版第三の續住宅圖案集は目下印刷中でこれも近日、現らはれて出ませう、正篇通御推薦願ます。

□時節柄諸兄の御奮闘と御自愛とを祈ります。(高橋榮治)

建　築　と　社　會

第16輯第6號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和8年5月25日印刷　昭和8年6月1日發行

發行・編輯　鷹取陽

印刷人　兵庫縣武庫郡今津町浦風56番地

印刷所　大阪活版所　大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人　日本建築協會　大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル　電話長本局(23)4500番(6)　振替口座大阪39.975番

特約販賣店　柳々堂書店　大阪市西區京町堀羽子板橋北　電話土佐堀 2440番　振替口座大阪 2084番

禁　轉　載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

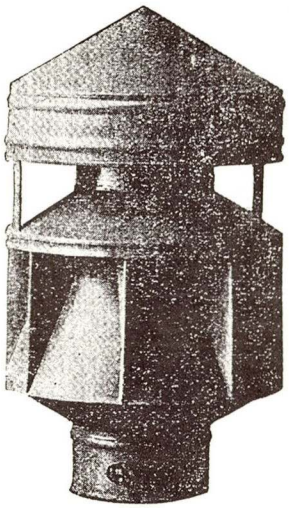
廣　告　掲　載　料　金

普　通	1頁	1回	15.00
普　通	½頁	1回	8.00
普　通 (前附第1頁)	1頁	1回	45.00
普　通 (前附第2頁)	1頁	1回	40.00
普　通 (後附第2及最終頁)	1頁	1回	25.00
アート (中　揷)	½頁	1回	20.00
表　紙　2	1頁	1回	60.00
表　紙　3	1頁	1回	45.00
表　紙　4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
(建築關係業者案內)	1欄	1回	5.00

御　注　文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

定評アル特許宮島式排氣頭

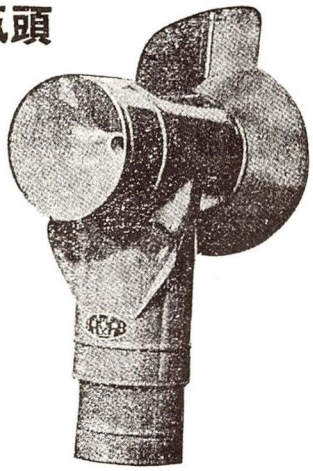


（固定形）

排氣換氣ハ
健康ノ基

排氣頭ノ
眞價ハ
排氣量ニアリ

（本機ハ吸入器ノ原理同用ノモノニ付効果確實ナリ）



（風向變換形）

特許 第一二五八二七號 第一二三一九六號 第七三三四六號 第七三三六〇號

特許 第一一一〇〇七號 第一四二七四九番 第一四二七五〇番

諸官省御用

排氣頭販賣及取付並ニパイプ衛生工事請負

宮島康夫商店

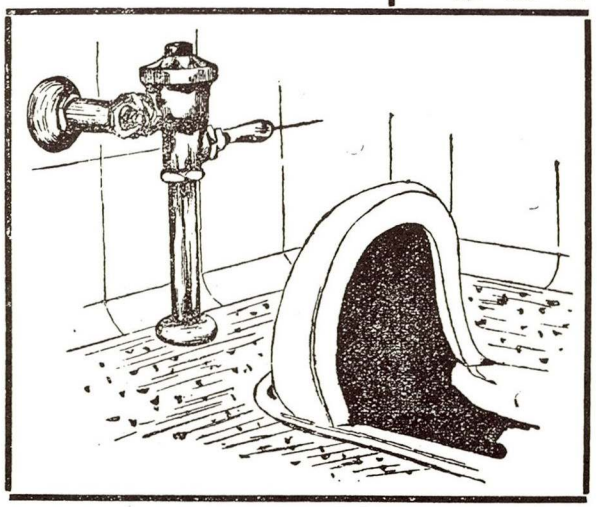
東京市赤坂區青山北町一丁目四番地（神宮外苑入口）
電話青山(36)四七二九番振替口座東京五八四八七番

カタログ進呈

ヨネ フラッシュ バルブ

水洗便所洗滌弁

專賣特許
實用新案
商標登錄



御指定

大藏省營繕管財局
東京帝國大學營繕課
大阪府營繕課
兵庫縣營繕課
大阪市建築課
名古屋市營繕課
南滿洲鐵道株式會社
臺灣總督府營繕課

米本榮商店

大阪市北區梅田新道
太平ビルヂング四階
電話北八一八番
振替大阪四二八七番

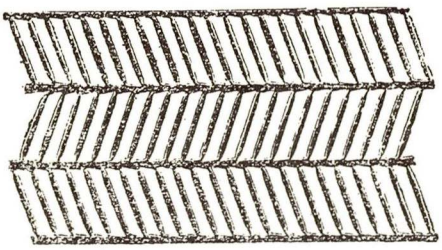
建築と社會第16輯第6號 廣告索引

ア 旭硝子株式會社……27
淺野スレート株式會社……12
淺海商店……18
イ 岩元商會建材部……18
ウ 宇野洋瓦株式會社……30
エ 榮進社……11
英進商會建材部……38
オ 岡山建材社大阪出張所……30
大阪窯業セメント株式會社……中挿
大阪伊丹商店……8
大野製作所……1
カ 金岡養樹園……中挿
關城化學工業株式會社……表紙 4
キ 木下謹三商店……8
桐田商會……25
ク 黒川化學工業所……6
久保商店……13
ケ 建盛商會……24
コ 工材社……34
サ 佐久間パブコ工業株式會社……5
笹岡家具裝飾店……14
三稜社……23
佐渡島商店……39
ス 須賀商會……21
タ 田中タイリング……4
高松菊治郎商店……31
ダ ダンロップ護謨株式會社……中挿
チ チヨイント商會大阪支店……16
テ 寺井洋家具部……40
ト 東洋リノリーユウム株式會社……29
東洋工業株式會社……32
東亞鐵工所……35
ナ 内外土木建築材料合資會社……28
南滿鑛業株式會社……14
ニ 日本ペイント株式會社……19
日本建築紙工株式會社大阪支店……23
西原衛生工業所大阪支店……15
西孫南店建築金物部……17
日本エレベーター製造株式會社……36
日本ドアーチエック製作所……37
日本鋼鐵家具……32
日本パイプ製造株式會社……33
ノ 野澤幸三郎商店……22
ヒ 日置合名會社……24
フ 藤田商會……10
福島合名會社……24
福原商店……4
ベ ベニス工房……26
マ マルエス工業株式會社……7
丸善株式會社……3
ミ ミナト製作所……6
三井物産株式會社……9
三木商店……3
宮島康夫商店……41
ヤ 矢橋大理石商店……10
大和護謨製作所……40
山本窯業商店……34
ヨ 横河橋梁製作所……20
米本榮商店……41
レ 玲光社(木内眞太郎)……26

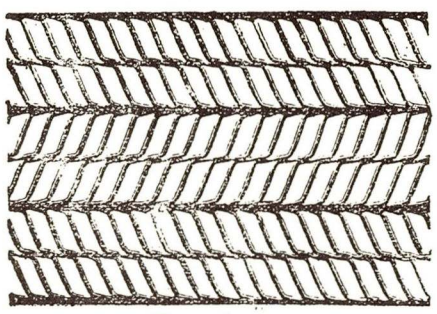
高級壁下地材料

特許 ヤハズラス

(原名 ヘリングボーンラス)



シングル



ダブル

◇特徴

一、網目の刻み方が最も合理的でモルタルの行渡りに留意されてあるのでモルタルとの馴染良く施工が極めて容易で而かも耐久力強大であります

二、リブ面は平坦にして十對四の起度にでゐるが、しにし狀支タむにでる起度四には十對五の落無るしに十對平面し五隆込駄のて隆五し込駄のて隆五の鑓をル込駄のて隆五の鑓をル込駄のて隆五の鑓をル